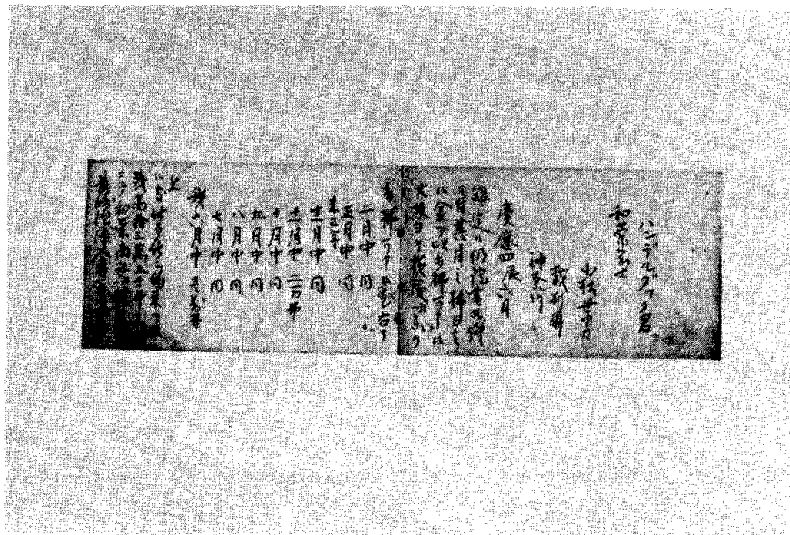


鹿兒島県史料集(22)

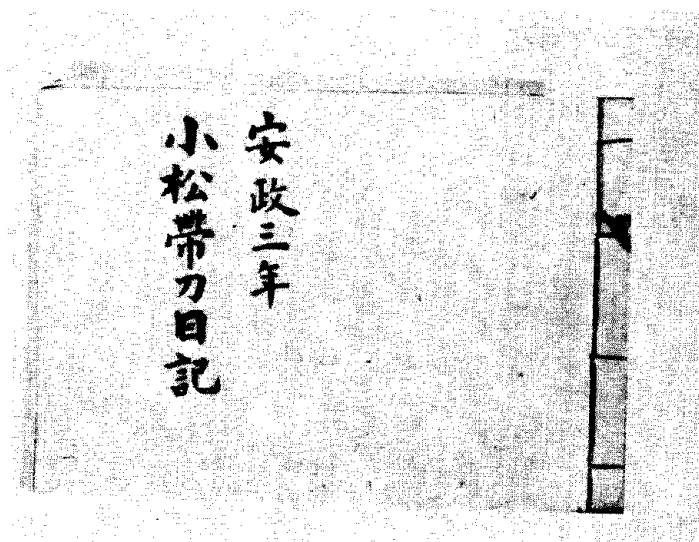
小松帶刀日記

鹿児島県史料集  
(22)

小松帯刀日記



小松帶刀日記部分（本文 116頁参照）



安政三年 小松帶刀日記

## 刊 行 の こ と ば

鹿児島県史料第二十二集として、ここに「小松帯刀日記」を刊行いたします。

本書は、幕末維新期の薩摩藩家老として重要な役割を果たした、小松帯刀の安政二年から明治元年にかけて書かれた日記をまとめた史料であります。

県史料の刊行は、資料の保存をはかり、研究者の利用に供することを目的に進めてきた県立図書館の事業の一つで、史料集の刊行がこんにちまでとどこおりなく続けられていることは、県史料刊行委員の方々の並々ならぬご協力の賜物と存じます。

今回は、前鹿児島県立短期大学教授の芳即正氏に編集・校訂・校閲をしていただきました。長期間にわたるお骨折りに心から感謝いたします。

なお、この史料が地方史の研究に少しでも役立てば幸いです。

昭和五十六年十月

鹿児島県立図書館長

東 正 昭

## 小松帯刀日記について

本年度は昨年度の「小松帯刀傳」等について、「小松帯刀日記」を刊行する。安政二年から明治元年まで十四年のうち七分分、それも次のように半分以上は短期間のものである。小松帯刀は安政三年正月二十七日肝付家から小松家に入つて小松を姓とするので、安政二年の日記は「肝付尚五郎日記」となっているが、便宜上「小松帯刀日記」で統一した。以下に各年代の日記記載期間を記す。

一安政二年 五月十八日鹿児島を出発して六月二十八日江戸芝屋敷に到着するまでと、九月三日江戸を出発して十月八日鹿児島に帰り着くまでの旅行日記で、帰途の分について末尾に次のように記してある。

此日帳口伝ニ関シ候、且名処旧跡等繁多略シ、九月三日ヨリ神無月八日迄旅行ノ形様後世思出ニモ成ヌト書終

二安政三年 正月二十六日から十二月三十日まで。小松家養子の許可のである前日から年末までのものである。

三万延元年 正月元日から十二月晦日まで。ただしこのうち十月十四日から十月二十九日まで伊作温泉入湯中のは欠落している。

なおこの年十一月二十九日の項に「夕過ヨリ大久保正助殿・有村竹次殿被参候事」と、大久保利通・海江田信義ら誠忠組士の名前が初めてみられ、翌文久元年にかけて頻繁にみられる。

四文久元年 正月元日から十二月晦日まで。ただし正月二十二日から三月十七日までの約二カ月間、長崎滞在中のものは「滞崎中日簿別冊二記ス略ス」とあつて、欠けている。

しかし大久保利通らの名前が頻繁に出てくる年で、本日記中のハイライトともいえる部分である。

五文久二年 正月元日から正月二十一日まで。

六慶応二年 三月十四日から四月八日まで。冒頭に次のようにある。

寅の三月十四日より霧島榮之尾温泉江参りける日記。

すなわち温泉入湯中の日記で、三月二十八日の項に

一、吉井幸輔・坂元竜馬塩浸より見舞として入来之事

と、坂本竜馬が榮之尾温泉に来たこと、翌二十九日竜馬は霧島

山に参詣、四月朔日塩浸に帰つたことなど、竜馬の具体的行動

を知り得て貴重である。

なお四月八日鹿児島に上陸帰宅したことが記されているが、それ以後の記述は入湯日記とは関係ないものと思われる。「英学

稽古出崎人数」以下、一種のメモ様のことが列記されている。

七明治元年 正月六日から二月十九日まで。以下はとびとびに七月

ごろまでのことがメモ的に記され、どこまでがどうかかわりに

くい。特に最後の部分は簡条書きにメモ様のことが列記されて

いる。

なお小松帯刀日記については東大史料編纂所に、小松の原文と思われるものが三年分（安政三年・文久二年・明治元年）残っている。

校訂者は鹿児島県維新史料編さん所の影写本と照合したが、その内明治元年分に面白いことを発見した。それは同年二月十九日以下文章は縦書きにしながら、行の進め方は左から右に進んでいることである。だからそれまで右頁から左頁に読み進めていく中、途中で全

く文章の意味がつかみかねるようになり、図書館写本と影写本とを比較照合している中に、右の事実が気付いた。御一新になり進歩派

小松はヨーロッパ人が文章を左から右に書くのにならって、縦書きではあるが、行の進め方だけでも左から右に進めてみようと考えたのだろう。二月十九日以下全部メモ様の部分までそのように書いている。当時の小松の考え方がうかがえて面白い。(口絵写真参照)

なお本日記は県立図書館写本が、はつきりした文字で書かれているので、写真版で製本するつもりになっていたが、かえって高価になるということで急に活字本に変更した。その時事務的な連絡不備で、句読点をつける余裕がなく、漢字も旧字体のままにした。むしろ原本の味を保存できてよかつたのかもしれない。大方の御諒承を得たい。

文中明らかな誤り「永録」は「永録」と訂正し、メは「トシテ、シテ」、ハは「より」とした。

目次

安政二年	一
安政三年	一八
萬延元年	四一
文久元年	六八
文久二年	九九
慶応二年	一〇三
明治元年	一〇八

肝付尚五郎日記 (安政二年)

卯五月十八日 曇 四里半

一此節江戸詰被仰付令七ツ前鹿府之館出立ニ而候水上坂之下込ハ段々ト首送等有之シハシ茶屋エ立寄盃等イタシ七ツ半過坂之下打立伊集院町迄夜入時分着也尤例之駕籠下手ニモ醉モ不致仕合至極也且召列候人數御兵具方足輕吉利勇藏家來勝目十左衛門下人新助也

五月十九日 陰 八里

一伊集院町旅宿六ツ過出立ニテ市來濱エ立寄昼飯等タベリ人馬等繼名高キ川内河ヲ打渡水引大小路迄七ツ過着也尤供中皆元氣也  
一大小路着後 新田宮エ參詣武運長久之爲ニ御札等イタ、キ候事

五月廿日 小雨 七里半

一日出前大小路出立西方ニ而昼飯等仕廻阿久根迄七ツ時分着也何モ何モ此宿場ヨリ初ノ事ニ而面白事也

五月廿一日 小雨 九里

一阿久根旅宿六ツ時分出立ニ而出水米之津ニ而昼飯等仕廻 御關所等打過境谷等モ打過名殘ハ多キ谷ノ水行ハ程ナク肥後段々村々打過水俣宿迄七ツ過安着也尤供中モ至極之人元氣也中途スガラ歩行イタシ誠ニ面白キ旅立也出水エ相頼鹿兒島宿許エ書狀壹通左右申遣也

五月廿二日 拾里半

一六ツ過水俣出立ニテ肥後領之内歌坂トイフ難所打越津奈木驛エ着候處江戸表ヨリ御板物下リニ付仁田五郎左衛門殿エ當驛ニ而逢宿本エ一封相頼遣シ候程ナク打立名高キニ太郎坂之内貫太郎坂難場打過佐敷トイフ所迄差越昼飯等仕廻人馬等繼立亦々佐敷太郎トイ

フ難所誠ニ音ニモ聞ヨリ難場ニ而歩行也其ヨリ田之浦驛エ着候處人馬等イマタ寄り無之其故右所ヨリ船ニテ日奈久宿迄夜入過着也尤船中能キ順風也右日奈久入湯場ニ而則入湯等イタシ候尤御國許之湯治場トハ格別遠旅人物等モ澤山ニ入込サフサフ敷場所也

五月廿三日 拾里

一早朝日奈久出立ニテ八代エハ不行萩原通り打過求摩川之船渡等イタシ右川之渡リ上リ茶屋ニシバシ立寄其間ニ人馬等繼立其ヨリ所所立場茶屋杯エ駕籠立煙草等ノミ小川驛迄差越右所ニテ昼飯等仕廻亦々打立松葉瀨ニテ宿繼日入時分宇土之宿迄着也尤供中ニモ殘ラス至極大元氣ニ而何モ仕合也

五月廿四日 拾里

一字土之宿早朝出立ニテ川尻船渡等致人馬繼等モ致熊本之城壹里計手前ヨリ相見ヘ樂ミニテ差越亦々熊本ニ而人馬繼立右人馬繼之間ニ鱈屋エ立寄鱈飯(タカ)ベリ候處誠ニスク(アキ)タルカケンニ候其ヨリ右城内打過所々茶屋等エ立寄植木驛エ着人馬等繼立イタシ山鹿宿迄日入時分安着也尤右宿ハ去年ノ九月御兄様御登リ之時モ御宿有之所ニ而誠ニ能キ宿也目ノ覺タルモノハ肥後之内テハ熊本城

五月廿五日 九里半七丁

一去月廿九日江戸出立ニ而御國許エ下リ之御飛脚川村愛次郎殿今朝右所迄被參候由ニ而直ニ御見舞給り候ニ付宿本エノ書狀一封相頼差越候事

一六ツ過右山鹿出立ニテ肥後之内南之關ニテ書飯等仕廻人馬等繼行ハ程ナク筑後柳川之境モ打過原之町ニ而宿付中途清水茶屋トイフ所エシハシ駕籠立飯等食シ候處誠ニヨロシキ飯也清水茶屋打過田中ニ芦一村立ケルニ三十壹字物笑ニ口スサミ候



風わたる清水茶屋も打過て  
水にさしたる芦の一村

故郷の清水にをふる芦の葉も  
よそにて見ればよしとこそみる

コソナト、色々紛レ瀬高之宿込八ツ過着也同席中皆供中モ至極之  
元氣也

五月廿六日 夕立少々 拾壹里

一瀬高宿ヨリ朝六ツ過出立柳川久留米之境等打過有馬様御領分羽犬  
塚ニ而人馬等繼亦々府中ニテ人馬等繼立筑後川舟渡シ松崎込日入  
前着其ヨリ又宿繼等イタシ筑前山家宿込中途無滞夜入前安着ナリ  
尤供中モ大元氣ニ而仕合至極ナリ

五月廿七日 拾半里

一朝六ツ過山家出立ニ而名高キ冷水峠歩行ニテ打越同御領内野工着  
其驛ニテ人馬等繼立直ニ打立飯塚驛込八ツ時分着其ヨリ川船ニ而  
木屋之瀬込五里之川下リ誠ニ無事ニ而日入前木屋之瀬驛込着一宿  
也尤右飯塚ヨリ之川下リハ木屋之瀬ヨリ飯塚之間道損候故也尤宿  
本亭也前田仙波同宿

五月廿八日 晴 六里

一木屋之瀬本亭日出時分打立ニテ黒崎込四ツ時分着右所ニ而薩摩間  
屋ヨリ船差支ニテ斷之證文請取町エ立寄昼飯等食シ人馬繼立小倉  
本亭村迫銀右衛門處込八ツ過着也尤本田前田仙波奥同宿也今日ハ  
船之手當等出來兼候故仕廻旁ナリ尤皆々至極之元氣ニ而仕合也  
一天道川歩渡候

五月廿九日 晴

一船手當等旁以隙取今七ツ時分乘船ニテ小半時過而出帆長濱トイフ

所ニシハシノ間モ掛旁仕廻故夜中時分右之處出帆ニ而長州下之關  
込翌朔日曉着也滞船

一小倉出立之時分宿許エ之一封本亭銀右衛門工相頼殘シ置候事  
一下之關外ニ赤間關トカモイフ也小倉袴地名物也

一下關之賑合誠ニ業散ニテ驚入次第也

五月晦日 大晴

一今朝ヨリ順風不宜下之關ニ晝七ツ時分迄滞船候得共少シ風直シ候  
由ニ而直ニ湊内ヨリ帆掛走出二里計行亦々順風振返リ炭崎之鼻ニ  
大鐘時分錠ヲ卸シ滞舟其夜ハ右所ニ而明シ候尤船酔等ハ無之事

六月一日 晴

一明大鐘時分ヨリ炭崎之鼻エ滞船今朝迄モ風之振直ル様子無之故今  
朝日出時分晝後之内田之浦トイフ處壹里計手前之港ニ而右所迄走  
歸滞舟上陸ニテ風呂等エ入湯終日終夜滞也但田之浦小倉ヨリ壹里  
也

六月二日 晴

一今晝時分少々風振直リ右田之浦ヨリ出帆至極之順風ニテ長州之内  
砂々三崎迄夜入時分走行候得共亦々風止右三崎エ塩掛夜八ツ時分  
右砂々三崎出帆也尤田之浦ヨリ砂々三崎迄拾五里也

六月三日 晴

一昨晚八ツ時分砂々三崎出帆ニテ長州之内上之關ノ室津エ六ツ時分  
着ニテ少々風モ不宜右所ニ滞船也尤砂々三崎ヨリ上之關迄道法拾  
九里也且上陸風呂等入湯也

六月四日 陰西

一今燒上關出帆ニテ至極之順風道法四十五里備後國鞆之沖エ夜七ツ  
時分參リ風止テシハラク錠ヲ卸シ夜明候所々名所舊跡等打詠メ樂

ミ也

六月五日 晴

一 朝六ツ時分鞆之湊出帆ニテ順風餘リ不宜漸々開走ニ而播州ナゲ石ト申所エ夜入時分汐行惡敷碇ヲ卸シ夜明シ候事三十里計

六月六日 大晴

未明播州ナゲ石出帆ニ而開走ニ而名所播州高砂淡路島明石須磨一之谷兵庫杯之舊跡打詠メ攝州大坂安治川口迄日入時分差越薩州御屋敷下迄夜五ツ時分安着直ニ宿エ上リ候尤宿虎屋金平ト申所左候而

御届旁

(アキ)

相頼申出置候事

六月七日 大晴

一 五ツ過御屋敷數刈七左衛門様エ御見舞トシテ差越本田孫次郎殿處エモ見廻歸掛下御茶屋エモ見物其ヨリ奥氏宿播磨エ壹刻差越直ニ旅宿之様歸リ

一 五ツ前鶴木龍助殿見舞給リ候四ツ過時分川上喜之助殿加藤十兵衛殿見舞給リ候事

一 九ツ過ヨリ川上喜之助殿加藤十兵衛殿同道ニテ大坂御城高津宮北

天滿宮茶臼山天王寺本田出羽守忠政墓等エ見物其ヨリ所々見物ニ

而日入前虎屋之様歸宅

一 前田氏仙波氏今八ツ時分着ニテ候前出氏ニハ播磨屋仙波氏ニハ虎

屋宿也

六月八日 晴

一 今口迄ハ大坂滞在口入前ヨリ本田氏前出氏外ニ大坂詰藏役衆探案内ニテ難波橋夕涼ミノ風景見物トシテ差越處々徘徊致夜入四ツ過旅宿迄歸宅

六月九日 晴

一 四ツ時分大坂出立ニテ御屋敷下ヨリ直ニ乘船伏見迄追風ニテ夜入前着尤宿文珠四郎處扇子等取入候事

六月十日 晴

一日出過伏見出立ニテ處々立場等エ立寄大津ニテ昼飯等仕廻草津宿迄夜入前着也尤草津名物ムバカモチタヘリ候事鞭竹名物也

六月十一日 晴

一 草津六ツ過出立石部ニテ昼飯七ツ時分土山エ着也

六月十二日 晴

一 六ツ過土山出立龜山驛昼飯暮時分四日市着也

十二日 晴

一 四日市六ツ時出立桑名佐土屋善八處ニテ昼飯船式艘取仕立八ツ過出帆尾州宮エ大鐘時分着泊屋深野ト申所宿也

十四日 晴

一 六ツ半宮出立ニテ三州岡崎之内大濱茶屋ニテ昼飯藤川エ七ツ半時分着本田氏奥氏同宿也

十五日 晴

一 六ツ時分藤川出立遠州二川并白濱賀多所ニテ昼飯七ツ過時分荒井田代才兵衛所エ着前田氏仙波氏奥氏本田氏同宿也

十六日 晴

一 六ツ半過荒井田代才兵衛所出立ニテ船三艘取仕立右所ヨリ遠州舞坂驛エ直ニ着其ヨリ亦々人馬等繼立同州濱松迄八ツ前着尤イマタ差越候賦候得共人馬等少々差支之儀有之一宿尤本田氏奥氏同宿也宿亭主大宮清太夫ト申者之處也

十七日 晴

濱松宿六ツ過出立ニテ處々打詠メ名ニ聞舊跡之味方ヶ原古戰場等  
アノアタリカト打詠メ行々天龍川船渡ニテ昼飯ハ見付茶屋ニテ饅  
飯等タヘリ誠ニヨロシク元氣モ付其ヨリ歩行ニテ袋井マテアユミ  
人馬繼立亦々掛川ニテ人馬等繼右掛川葛布名所ニテ取入日坂宿迄  
日入過着也尤本田氏奥氏同宿拙者ニハ二階也

六月十八日 陰小雨

一朝六ツ過日坂宿出立ニテ直ニ歩行ニテ名ニ聞古跡遠州佐夜中山左  
ノカタニハ不間山之名所等打詠メ茶屋エシハシ立寄名物飴之餅等  
食シ菊川等モ打通り金谷驛ニテ宿付大井川中通リ之水ニハ八十八  
文川打渡リ半里計行嶋田驛ニテ人馬繼立田中領之内三間茶屋ニテ  
昼飯等仕廻亦々行々田中領藤枝へ着亦々宿繼亦岡部ニテ宿繼坂登  
リ下リムカシノ葛ノ細道宇都山等打越鞠子宿桑茶屋喜兵衛所工本  
田氏奥氏同宿也日入前右處迄着

佐夜ノ中山ニテムカシノアハレ亦ハ西行ノ命也ケリ等ノ歌ノ  
言共オモヒ出シ

涙なり佐夜ノ中山越ゆけは

あはれをそふる風の音か那

ムカシノ葛ノ細道通りケルニ

問ふ人も今は絶えしやむかしおもふ

葛の細道荒果にけり

葛の細道問ふ人もなし

宇都山越ケル時

中々に身にしむものは駿河なる

宇都の山邊の松風の音

六月十九日 風雨

一昨夜ヨリ大風雨ニテ其故安部川通り差留鞠子工滞在中々退屈トモ  
トフトモ不被言候

六月廿日 雨天

鞠子滞在

六月廿一日 半

鞠子滞在

六月廿二日 晴

一安部川満水ニテ昨日迄丸子工滞在今朝川明キ五ツ前丸子打立ニテ  
六拾四文川打渡リ處々立寄府中ニテ硯箱取入興津迄参リ候處イマ  
夕興津川馬越不明其上薩埵越少シ損所モ有之興津エ一宿尤七ツ前  
興津迄着ナリ今朝宿出迦ヨリ富士山初テヨクミヘ候

六月廿三日 晴

一日出時分出立興津川令辰之中刻明キ三拾貳文川打越シ由井迄参リ候  
處イマ夕今日迄ハ富士川明キ無之故右處ニ一宿扇子屋宇兵衛所也

六月廿四日 晴

一六ツ過油井出立富士川舟渡シ吉原甲州屋ニテ昼飯仕廻木瀬川打越  
候口入時分三嶋迄着也

今日ハ處々ヨリ富士山ミヘ誠ニ何トモ驚入次第細ク跡ニテ印ス也

東路の最中のふしのねは

聞より増る高ねなりけり

六月廿五日 陰

一三嶋宿六ツ過出立ニテ名ニ聞箱根峠打越候尤御番所モ通り伊豆屋  
定右衛門所ニテ机壹ツ取入候得共少々大荷故近々送り届管候且米  
屋ニテ硯箱壹ツ取入候事小田原宿マテ夜入前着尤脇本陣都而同宿  
也

夜九ツ時分ヨリ吉利勇藏江戸之方エ一左右申遣候  
昼飯箱根也

六月廿六日 晴

六ツ過小山原宿出立ニテ大磯ニテ昼飯仕廻藤澤宿迄八ツ半過若尤  
都而同宿ナリ

六月廿七日 半

一六ツ時藤澤宿出立川崎宿迄大鐘時分着也尤本陣皆同所也夜入四ツ  
時分江戸ヨリ磯治仲左衛門参リ旁之御左右共伺難有事ニ候

六月廿八日 半

一五ツ時分川崎出立梅屋敷邊エ立寄等イタシ佐水川崎屋迄七右衛門  
叶與雪七之丞殿拵迎トシテ御出給リ江戸芝御屋敷迄七ツ過安着也

比ハ安政二年九月三日之事成ニ中御暇ニテ罷下候段過シ日蒙君命  
今日五ツ時分ニ東都芝御屋シキ出立名残ヲシサヤ暫シノ旅比ヲ申  
セハ同年人梅ノ時分ニ出府漸々フタ月計旅ノ御奉行相勤何モオモ  
ヒ足ラサル事ニテ候ソレノミナラズ尊兄モ御詰合ニテ跡ニ残シ上  
旅立行ハカナサツレナサ思ヒヤリテソ立ケレバ佐水ナル釜屋トイ  
フ所迄尊兄初多ク之人數送り給フ右之所ニ而暫シハ立寄琴ニ味線  
ノケフモシハシハ取ハヤシケレトモハヤソレニテスマナレハ漸々  
セキ出ル涙打ノコヒコ、ロ計之暇乞立行ケルハ悲シトオモヒ行々  
六郷川渡候川崎宿ナル萬年屋兼而親シキ同席ナル豎山田中上村高  
田本田ノ何某持待請則酒宴之歡シハシ賑フ其内ニ末ヨリ最早時過  
マスガ御立御立トイフニ付詮方ナクモハヤシ立ラレサラハトイフ  
テ駕籠ノ内其ト計ニ暇乞亦タモ參ルハアルトタニアレト親シキ同  
席拵立別レタ暮ハカリ神奈川ノ宿着也

萬年屋ニテ別レニ豎山何某ナルガ小松ノ君ノ馬ノハナムケト  
イフ題書ニテ

初雁と翹ならべて行君は

雲井のよそに名をや立らん

ト讀送りケルニ返シトイフコ、ロモチニテ

初雁と翹ならへて歸るさの

旅の獨身物うかりける

ト書ツ、リ物笑ニモ相成ランソト送り候

供勝目十左衛門下人新助也足輕道中旁世話方トシテ大迫清太相頼  
候泊宿迄吉利勇藏送候事

明テ四日朝立ヨリ雨モ降り出立ントシケルニ吉利勇藏ナル某東都  
之様趣トノ事ニ而サフラヒケルニ取アヘス口スサミニテ書付送ル

同席ナル豎山何某東都之事出シテトイフ題書ニテ

友鶴の翹ならへし東路の夢みることに袖は濡つ、

尊兄ニ述懐トイフコ、ロモチニテ

東路ニ君をのこして我獨歸り行身ははかなかりける

御供ニ付添人々へ

古郷へ歸るさなれと東路のなれし友こそなつかしき哉

トナト書付勇藏ナルニ暇乞シテ明ノ六ツ時神奈川ノ宿出立壹里位  
モ行過テ程ケ谷宿ノ驛所ニ而人ヤ馬ヤ繼立亦々壹里計モ行ヌレハ

武藏相模ノ境モ打過テヤキモチ坂ヤシナノ坂越テ戸塚ノ茶屋へ立

寄比ハ九ツ時カヤ仕度イタシテ人馬繼行ハ程ナク一遍上人開基時

宗ノ本寺藤澤山屋藤澤驛ニテ人馬繼行ニ右之行手ニ白ハタ大明神

社有彼ノ社ハ奥州ヨリ義經ノ首鎌倉ニ送り實驗ノ後祭り納メシ社

ト云辨慶ノ首塚ハ貳丁程脇ニアルトハ聞ヌレト泊ノ宿モ遠ケレハ

立寄事モ間遠シト急ケハヤカテ馬入川船渡ニモ雨モト、ロト降り

ケレハ急キ平塚宿繼ニテヨフヨフ大磯ノ宿迄ツキ其日モ暮ニケリ

五日ニハキノフ之雨ニ酒匂川支ニテ大磯驛エ滞在日モナカ、リケルニ

述懐

中々につれなきものは旅衣ゆくに行かれんやとりなりけり

右驛之内エ昔西行法師之心ナキ身ニモアハレハシラレケリト讀

ラシ鴨立庵有ケルニ詣ケル時夕暮ノ鴨立澤トイフコ、ロモチニ

テ

あはれさは今も昔の知られけり鴨立澤の夕暮のそら

右ノ庵ニ詣ケルニ西行之木像之脇ニ碑有ケルヲ寫

コ、ロナキ身ニモ哀レハシラレケリ鴨タツ澤ノ秋ノ夕暮ト讀シハ

鳥羽井ノ院北面ノ武士ノリサトノカシカオロシテツキノ身ノ西へ

行名ノシルシニヤ佛道歌道イミシクテ見ヌ世ノ風ニナヒキシ富士

ノ根ノ煙トナラン身ノヒマヲアクル箱根ヤコヨロキノイソケトツ

クル友チトリトモネノ鴨ノ澤水ノメイホクナレヤ新古今ニノタノ

名トコロヲシタフヤ時ノ和哥所飛鳥井雅章駕ヲ立テ折シモ春ノア

ハレサハ秋ナラネトモシラレケリ鴨立澤ノ證哥ユヘ我モ行脚ノ笠

カケ松月ヨリホカハトフ人モ嵐ノヨスル高スナコカキナラシツ、

此澤ノアルシヲ子カフサチアリテ其名高雄ノ文學ノナタ作テフミ

エヒ堂和哥三神ヤ虚心堂檀五智等ヲ開基セシ宗雪居士裳走カ所我

身モコ、ニ置臺シテ謡ニツカリアルハ又田鳥集ニ國々ノ詩歌連律

アツメツ、五百年忌ノタムケシテ満題セシヲ我國ノイセノイサハ

ノ友津人旅人ヲナシテタノモシヤ心ナキ身モ西へ行道シルヘニト

タテシイシフミ

東往居士三千風誌之

左之方ニ

元録十三庚辰二月望日

右之方ニ

相州鴨立澤碑一基

寄附施主生國勢州射北住江戸本町

富山氏

鴨立庵西行自筆ノ歌

おともなくなりゆく人の言のはは

秋より先の紅葉なりけり

飛鳥井様御筆ノ歌東都ニ御下向之御覽シテノ事歎

あわれさは秋なら祢とも志られけり

鴨たつ澤のむかし尋て

右之碑歌トモ寫ニ隙取ヌルカ日モ暮カ、リケルニ外ニ餘多ノイシ

フミモ寫ヌ事タニ叶ハス西行ノツエナト其庵ノ人ニ乞ヒ見物スレ

ハメツラシキカナナヨ竹ト相見ヘ五尺ノ長ニムフシケニメツラシ

ナト、イヒナカラ日モ暮果テ旅宿ヘ歸リケリ

六日ニハ誠ニ天氣モ晴上リケレトモイマタ川不明唯々旅宿ニヤト

リケルニ不考淨瑠璃語り参リケルトテ末ノシトモ稲川ヤ亦ハ阿波

ノ次郎兵衛ナト、ノソミ語ラセケルニ夫共聞テ暮シケリ

七日曉ニ酒匂川ノ渡守ヨリ今未之刻ニ川明ノ段注進聞ヨリ横雲ノ

比大磯宿ヲ出立半甲計モユキ郷之中丸トイフ所モ打過テ國府新宿

ニ立場四方ノ山々打詠ケルニ左ノ方遙ニ小ユルキノ森見ユル新宿

立シホ之小橋ヲ打渡元梅澤ヤ打過テ壹里位モ行ヌレハ今ノ梅澤立

場ナリ右ノ濱邊ヲ小ユルキノ濱トイフ名所ナリ

小余緩之磯ニ衛鳴ケルニ

白浪のよせくることに聲立て千鳥飛こふ小よろきの濱

右ノ新宿立暫ク過テ足柄下郡小田原段オシ切橋オシ切坂町屋村打過テ行クヤカテ左ノ濱邊袖シカ浦ノ名所等行スケ國府津村打過佐川ノ立場其ヨリ酒匂川六拾貳文ノ歩渡シ右ノ酒匂川ハイツモ十月朔日ヨリ三月五日迄ハ土橋掛ルヨシナレト九月七日ノ事成ニ橋モ無故川支漸ク漸ク只今越シ方出來ニケリ半里位モ行ヌレハ大久保様ノ御城下小田原驛ニ付人馬等繼晷飯仕廻歩行ニテソソロト行

小田原ノ城下通りケル時

中々に今もむかしもかはらめや

堅くも見えし小田原の城

小田原宿出迦左ノ脇ニ石垣山トイフアリ

太閣北條ヲ責給ヒシ御陳所之由右過テカサマツリイワウ田右之方ニ長興山トイフテ鐵牛和尚開基ノ寺ニテ誠ニ絶景之由ナト聞山崎橋本三枚橋トモイフソコヲモ過テ右之側手ニ早雲寺トイフニ北條五代ノ墓有宗祇法師ノ石牌有ナト聞ヤ、ユケハ湯本トイフ立場有ニ歩行ナレトモ右ノ所ニ伊豆屋トイフテ色々細工ノモノナト買拂所候而立寄取入方杯イタシ跡二十左衛門ヲ殘置獨リソソロソ登下リノ石坂長川橋シアケ坂クツハク坂ヤニツ坂サカ橋澤ノ小橋ヲ渡リアセカキアヘテ程ナク川ハタ立場ニヤスム

あたまから汗の流る、箱根坂扇子の風は身にそしむらん

ソソロト行ニ昔女ノコロハシ來リシ女コロハシ坂大澤橋モ打過テイソキ行ニ畑宿ノ立場ニツキ妙荷屋畑右衛門ト申處ヘ立寄供ナトマタント暫シハヤスマミケルニヤカテ十左衛門ナト參リ畑宿ヲ立サイカチ坂カシノ木坂サルスヘリ坂テウシロノ難場ヲ過オイカタ

イラ 茶屋ヘ立寄アマ酒ニ三盃タヘリ立行ニシロミツ八丁平權現坂右ニ二子山行ハ程ナクサイノ河原ナリ右ノ側手ニ箱根ノ權現ヘ道有右ノ權現ハ孝謙天皇天平寶字年中ニ造立シ處社領二百石箱根山東福寺金剛王院トイフ昔我ノ大刀其外色々寶物多シ少シ過テ河原ニ常念佛堂有

サリノ河原ニテ

夕霧の立こめぬらん箱根路のさりの河原ははてしともなし  
さ、浪の寄るもわからぬ箱根路のさりの河原の夕暮の旅

右サリノ河原少々過テ茶屋ヘ暫シ立寄踏込杯着シ其ヨリ御關所罷過宿屋へ行カントスレト宿引カ我モ我モトイフニ付漸々扇子屋半左衛門ト申所ニ相應ノ宿ニテ一宿ナリ

八口曉七ツ時分箱根宿出立股引ニテ歩行暫ク行ニ伊豆相模ノ境打過ハシカ原打過テ山石立場ニシハラクヤスマ下ノクホ石八里上ノクホ小カレ木大カレ木ノ坂ナト越シユケハ左ノ方ニ北條左衛門間宮豐前守守リシ城跡殘リ堀ナト有リ大手口ノ跡トモ云フ右過テ山中宿ヘ立場シハラクヤスマミフシミタイラ笹原立場三ツ谷立場大シクレ小シクレ坂法華坂市ノ山過テ行々塚原立場茶屋ヘ立寄亦打立今井坂越テ右ノ行手ニ三嶋明神社打過キ三島ノ宿ニツキ人馬其繼豆州駿州境モ過向新田フシミヤハタ過テ行ニ足柄越道有

足柄ノ關名處ナレトモイト荒ケルニ

富士の祢の裾野にかゝる足柄の關路も今は荒果ぬら舞

トナン詠シヤカテ行ニ木瀬川ノ歩渡右ノ方ニ龜鶴觀音右ノ川ハ昔名高キ宿ナリ其上治承ノ亂ノ時頼朝卿義經初テ對面有シ所トイフ茶屋ヘシハラクヤスマソソロト行ニ石田車返村宿ノ出切ニ右ノ方山王ノ社有右ノ社ニ頼朝卿富士ノマキ狩ノ釜有由釜ケ淵トイフハ

石田ノ右ノ川ノ中ニアリ其イワレハ昔山王ノ内ニツ有シ釜ヲ盜  
出シテオモキトテ此淵ニ捨テシニ今モ釜カ淵トイフ由行ニ川クマ  
町ヤカテ沼津ノ宿へ着ケリ此處ハ此以前城跡ニテ今ノ町屋モ廊ノ  
内ナルヨシナト聞亦々人馬繼右驛ノ内ノ茶屋へ立寄昼飯仕廻其ヨ  
リ駕籠ニ乗リシハラク過テユクユク五反田左ノ方ニ松原ミユ是カ  
名ニオフ千本ノ松原トイフ由鴨長明ノ歌トモオモヒ出シ三十一字  
口スサミ

名にしをふ千本の松の下枝には寄せくる浪のさくるなりけり

トナン詠シ四方ノ山々ナカメヤリ東マカラミ西カマト小諏訪大諏  
訪少シ過テ一里塚松長今澤二本松打過原ノ驛エ着亦々人馬繼行ク  
トカヤ新田少シ過テ一本松ノ立場ニヤスミソレヨリ亦々助平新田  
ウヘダ新田ヤガテ行手ニ左ノ方ノ濱邊ヲ名ニヲフ浮島ケ原トイフ  
由

小舟ノアチコチトスルヲミテ

あま人の釣し小舟の田子の浦に通ふも見江し浮島ケ原

カク詠シ行ニ左側ニ浮島ヤ利右衛門屋敷アリ右ノ處ヨリ天ノ香久  
山ミユルヨシナトキ、柏原ニ立場茶屋へ立寄ウナキノ名物ニ而其  
トモタヘリ行々ヒノキ新田打過不<sub>二</sub>ノ高山打詠此山ノ神社ハコノ  
花サクヤ姫ヲ祭りタル由其共聞テ少行ニ此邊不<sub>二</sub>山ノ真正面トイ  
フニ九合計ノトコロマテ雪降ケルニ

東路やふしの高祢は長月の 初空なれと雪つもるらん

ふしの祢は雪の内かと見る内に

はるかの上のみ江し柴山

ナト、口スサミケル右不<sub>二</sub>山ハ四時共ニ雪有テ六月十五日ノ夜雪  
消テ又其夜降ト萬葉集ニ

富士の祢にふりをく雪ハ六月の

十五日にきへて其夜ハ降りけり

トアルヲミレハ證據ナリ 富士山ノ歌ニ前大納言有房

言の葉も及はぬふしの高祢可那

都の人にいか、かたらん

ト詠シラレシ事トモオモヒ出シテユツヤヨヨシ原カワヒ橋中ヨシ  
原今ノ古原ノ宿ノ内ヨリ右ニ富士參詣大宮口ヘノ道アリ漸ク夜入  
前吉原宿迄着一宿ナリ

明テナカ月九日吉原宿曉七ツ時分ニ出立ツタ町アラシマ高嶋三度  
橋ヲモ渡リカハラ宿トウノキ村過テ左ノ山邊ニ厚ハシトイフ有リ  
曾我兄弟ノ社有又其次ニ久次トカイフ所ニ福善寺トイフ古寺有曾  
我兄弟ノ石塔位牌有ケルヨシヲ聞

ふしの祢の裾野にかゝる白雪ハ

消ても今と名は残るらん

右少過テ本市場トイフ所ニ白酒茶屋此カ富士白酒名物ナリ右茶屋  
へ立寄白酒ニ三盃カフケケルニ  
婦しの祢に幾よつもりし白雪の

雫や酒と成や志ぬらん

ソレヨリヘイガキユノ木松岡過テ名ニヲフ富士川ニイツル此川ハ  
流レ早ク瀬定ラス水上ハ信州八ヶタケヨリ流レイテタリ川渡守モ  
竿サシカタク見ヘケルニ

渡守竿さしかたく見へにけり

日もつれても富士川の水

此處ニテ家隆ノ

朝日さす高祢のみ雪空晴て立も及はぬふしの川霧

ト讀ラレシモ理ナリ

此川渡り岩瀨村右手ニ富士川岩瀨煙草所藤田藤右衛門所へ立寄  
士ヲウツセシ盆石相求ケルニ

東路のふしの姿を古郷の

言葉のつてと取にける哉

ト狂歌モイタシ右所モ立テ中ノ郷ニ間茶屋ヲモ過蒲原宿ニテ人馬  
繼行ニ此蒲原ヨリ江尻迄ノ間田子ノ浦トイフ名所ナリ

田子の浦の沖に釣する阿満人の

小舟さじにもなとなろふら舞

ト口スサミ新田村向田村ヒル澤川コカネ中村カタ濱セキ澤カンサ

ハカンサハ川過油井宿へ着右蒲原ヨリ油井迄ノ間皆家續ナリ亦々

油井ヨリ宿次ニテ油井川舟カ嶋町屋原今宿タイラテヲ東クラサ

ハ過テ西クラサハニ立場 此處ヨリ富士山三保ノ松原ミヘテ絶景

ナリ

東路のふしの高襟にそふものは

沖まで津々く三保の松原

富士の襟の裾野によする白浪の

歸る小舟もみへ初にけり

三保の浦に通ふ小舟もふしの襟の

けしきと今は成にけるか那

右所ハ咆ノ名物ニテ昼飯仕廻ント茶屋へ立寄ケルニ其ヨリ薩埵

ノ坂上リ峠ニシハラクヤスム右ハ高山左ハ大海昔ハ此道海端ニテ

親シラス子シラスナト云所有タル由明暦元年朝鮮人來朝ノ時今ノ

道ヲ開カレシト云由右坂越テホラ興津川ニイツル歩渡興津ハ清見

瀉ニ清見關有ト云名所ナリ

富士の襟の嵐ハ三保に留りて

静なりける清見瀉か那

興津ノ宿ニテ人馬繼半里位モ行ヌルニ右ニ清見寺有立場茶屋段々

アリ此邊袖シカ浦トイフ由巨<sup>カ</sup>山清見寺求玉院打過ハトウ川ヨ

コスカス、キシマ此邊アリトノ濱ト云江尻エ着亦々人馬繼立ユク

ニヒラクチ過テ左二十七夜山觀音寺有此山ハ久能山へ續シヨシ也

久能山社ハ江尻ヨリ貳里有之由ソレヨリイワハラ過テ是ヨリ左ニ

草薙明神へノ道アリ此神ハ日本武尊東夷征伐ノ時賊徒發リ野火ヲ

放セシ時尊ノ劔ミツカラ拔出草ヲ切ハラヒタ所故草ナキ明神ト祭

リシトナリ 右ノ所モ聞タル計イソクミチユヘ立寄事モ成兼此邊

ヨリ少々雨モ降リ少シイソキテ古吉田へ立場鮮ノ名物故其其喰シ

國古田長ヌマ等過テヨフヨフ日入時分府中宿へ着一宿此所ハ色々

竹木ノ細工名高木所故段々取入日暮ニケリ

明テ長月十日曉府中宿出立朝立ヨリ雨モトト口ト降リミロクヘ立

場茶屋へ腰カケ五文取等喰シ其ヨリ安部川歩渡ユクニ手越川上ニ

木カラシノ社有由サハタリ川共過テ丸子へ着人馬繼丸子川矢ノ澤

等過タイラ橋此ハシ渡ヨリ左ノ方ヘムカシノ薦ノ細道アリケルニ

問ふ人も今は絶へしや昔思ふ薦の細道荒果にけり

ト詠シユクニウツノヤ坂之下ニシハシハ立寄其ヨリ宇都山坂登リ

ケル時

中々に身にしむものは駿河なる

宇都の山邊の松風の音

右ノ難所モ越長願寺坂十石坂ヲモ越岡部へ着人馬繼并木シハラク

ユキテアサイナ川ヤハタ川鬼嶋水トトリニ立場本多様御城下藤枝驛

ノ内アツマヤニテ昼飯仕廻人馬繼亦打立瀬戸川ノ歩渡オ、キハシ



杯過空嶋エ壹刻立場嶋田へ着人馬繼行ニハヤ暮方ニナリ東海道大河大井川歩越暮カ、リ雨モ降り實ニセハシキ事旅ノツレナサ今コソオモヒヤラレ候

大井川いくせの石の敷よりも

志げく降くる雨にこそあれ

暮過てもしも消る降雨に

つれなかりける渡守哉

ヤウヤウ大井川ノ歩渡モ出来金谷宿へ五ツ半時分ニ着一宿ナリ明ノ日ハ長月十一日曉ヨリ雨降りケレト金谷ノ宿ヲ出立諏訪ノ原通り此諏訪ノ原ハ武田信玄出張ノ城跡ナリ家臣馬場美濃守繩張ト云傳此邊ナル由前ハ岩山向ハ大井川富士山モミエソコヲモ過テシハラク行ニキク川ニ立場茶屋へ立寄名物菜飯デンガク等食シケル此川上ニ菊力湖ハ有之由聞其ヨリキク坂亦々行ニ右ノ側手ニ子ソタテノ観音タテリ其ヨリ直ニ名ニヲフ遠州小夜中山右ニミユル高山ニムケンノ鐘有シ所トイフ其鐘ヲツケハ無量ノ寶ヲ得ルトナリ去ナカラ後世ハ無間地ゴクへ落ル也トイヘリ明應ノ比住僧諸人ニ罪ヲ與ルトテ井ノ中へ埋シトカヤカノ小夜名物飴ノ餅クハントテ茶屋へ立寄ヤスミケル比雨モ降りケルニ

村雨にあはれもそふる朝ほらけ

霧立ちこむる小夜中山

ト口スサミユクニ道中ニ夜鳴ノ石アリムカシ臨月ノ女此山ニテ盜賊ノ爲ニ殺サレシニ兒ハツ、カナク出生シ成長ノ後親ノ敵ヲ打シト也子ソタテノ観音ヨナキノ石水飴イツレモ其物語ニツキシ事ノ由ムカシノアハレ思ハレテ行ニツツカケ日坂宿へ着人馬繼打立ケルニ右ニ八幡社有通りニ大木ノイテウ有俗ニ追留ノイテウト云由

ナト聞シホ井ヌメリ川大センジ本庄過テ山ハナニ立場シハラクヤスミテソネ川ナルタキラクウ町大加丁掛川驛エ着茶屋へ立寄昼飯仕廻人馬繼十九善町ニ瀬川村ライケ町澤田サイ田ツナ川村過テ原川橋有此所ニシハラク立場クツハ村スキテ右ノ行手ニ久野村有由久野丹後守城跡有ナト聞東アラヤ過テ袋井宿へ着人馬繼立木原町西嶋ニ立場シハラクヤスミテミカノ川ミカノ坂過ミカノへ立場大窪坂ヲ越三本松ニシハラクヤスミ此處ヨリフシ山ミユルヨシナレド空モ曇リテ見ヘワカス漸々大鐘時分見附宿へ着一宿ナリ

同月十二日曉ヨリ雨モ降りケレト留ル事モナラヌ旅ノ空早天ニ打立サカイ松中泉村スキ大ジユウナンエシハラク立場ソレヨリマンノウ長森過テ池田へ立場名物ハアブリ餅其ヨリ天龍川ノ舟渡下リノ節ハ大天竜小竜ト瀨アリケレト當五月時分ノ水増ニ壹瀨トハナリニケリ大河ノ渡モスミトシタ市イツシキ中ノ町松此處京都江戸ノ真中トイフ所ナル由其ヨリカユンバヤクシ新田立場ニヤスミハシハナカタカバハテウへ松村此邊ヨリ右ノ方ニ壹里半脇ニ味方ケ原古戰場小松等有之所遙ニミヘテケレト立寄事モマ、ナラヌ旅ノ空ニテ遠目ニ見タ計天神町へ立場シハラクヤスミ其ヨリ行ニ濱松宿出迦ニマゴメ橋トイフアリ是モ京ト江戸ノ真中ト云由又中ノ町カ真中ト言説モ有之由右濱松ニテ人馬繼昼飯仕廻其ヨリ若林ノコウ高ツカ村シノ原村ツボ爲マヘリ舞坂宿へ着是所ヨリ荒井へ壹里ノ舟渡有故シハラクヤトリ船ノ世話トモイタシ其ヨリ舟ニ乗り渡シ此處今切渡共云由此處ムカシハ陸地也明應八年六月十日ニ大地震シテ山奥ヨリホラ貝多ク飛出其跡海トナレカ又元祿末年地震津浪シテ海上アシク風アレハ渡船難儀セシ故切口ニ數万ノ杭ヲ打テ浪ヲヨキ、シメ及フ處ノ由ナト聞順風モヨロシク直ニ荒井ノ

方へ着船此處ニ御關所有之故旁世話イタス田代才兵衛方へ申越御關所モ過右才兵衛所エシハラク立寄人馬手當等イタス内亭主ヨリイロイロトモテナシケルニハヤ日モ暮カ、ルニハヤ其所モ立少シ行ニ左ノ海涯ニ昔ノ濱名ノ橋ノ跡ハ有之由名にしをふ濱名の橋は今さらに

言傳こそ残るなりけ李

右の方高師山トイフ名所ナリ

ムカシハ鹿ノ住ケル歟鎌倉右大臣高師ノ山ニ鹿ハ鳴ナルト讀ラレシ事共オモヒ出シテ

いにしへハ鹿そ住けむ高師山

夕やけ待て虫の鳴ら舞

ト口スサミ橋本北所ハイニシへ濱名ノ宿アリシ處ノ由サ、原新田ヨシノ新田是ヨリ並木通りシハラクユキテ元白須賀ニ立場此邊ヨリ夜モ入り少シ雨モ降りセハシササレトモコ、ニヤトリハナラヌユヘヤカテ又々塩見坂上リテ井木通少シユクト富士見松遠江灘見ユル所ナレト夜モ入シユヘ四方ノ近山サヘモ見ヘスイソヒテ五ツ過ノ比カヤ白須賀ノ泊宿迫着ニケリ

長月十三日ニハ朝立ヨリ曇リケレトフリハセスアカツキ七ツ時分

ニ白須賀打立少シユキテ小川橋アリ此川三河遠江ノ境ナリ最早

三河ノ内へ入りニケル其ヨリ一里山村過是ヨリ松原通長シ家居モ

ナシニ川へ着ケレトイマタ夜明モワカラスシハシヒマ取人馬繼亦

亦火打坂少シ行テ左ノ方へ岩屋ノ觀音道アリ松原通りシハラク行

タイムレへ立場直ニイムレ橋打渡リ山中橋シハシ行テ右ノ方ニ石

巻山ミユル此邊ヨリ夜モ明方ニナリ三州吉田ノ宿へ着人馬繼豊橋

打渡リ此橋長サ百貳拾間有之由シモチ過マツヤニ立場此邊ヨリズ

ツト夜モ明ニケリ其ヨリ柳橋京ヨリ下リニ此邊ヨリ初テ富士ヲミル山々ノ間ニ少シ計ミユル由コタ橋下五井ハシリ川ソレヨリ小坂井へ立場少シ過テ穢多村六七丁計其ノウシロニ印南村トイフ有由毎歲正月京江戸エ出ル萬ザイノ往來ナル由絶ス行ニ八枚拾コウトイフ處へ立場其ヨリコユナハテ過テ御油宿へ着人馬繼赤坂ナワテシハシ行テ古へ持統天皇御幸ナラセ給ヒシ所トイフ宮地山ヲモ過赤坂ノ宿へ着御油宿ヨリ赤坂迫道拾六丁實ニ近キ人馬繼森ノ下八王寺ニツ橋長澤ユイシンジ橋セイゾウ橋草ノ木原過テ寶藏寺村へ立場此寶藏寺ハ

東照宮御手習被遊シ時ノ御机硯アリ門前ニ御手ツカラ植給ヒシ松

ノ古木株アリ此處ニ村山トイフ名所ナリ此所ノ歌ニ

前右大將頼朝卿

よそにみしおさゝの上の白露を

たもとにかくるふたむらの山

ト御歌ノ事オモヒヤリ數ナラネトモ

老ぬれと常盤なりけぬ松の葉の

二村山と栄へける哉

ソレト狂歌トモ口スサミ元宿桐ノ木中シハ山中市ハ橋マイキスキテ藤川宿へ着朝立ヨリイロイロト間物タへ候故腹モフトリ此處ニテ晝飯仕廻人馬繼少シ行テ左ニ西尾トイフ道吉良等エノ道有天文拾一年八月十日今川義元織田信秀ト合戦アリシ處トイフ其ヨリカンバサキニシバラク立場セラタ高ハシ大平川小橋大平茶屋エ立場ヤスム其ヨリスジカイ橋カケノ郷此ノ所ハ岡崎宿出迎立場ヨフヨフ夜入四ツ過岡崎ノ泊宿マデ着ナリ

今宵ハ明月ナレハイトサヤカニサヘオモヒカケナキ旅空ニテカ

カル月ナト詠ケルニ

古郷をはなれし月ハ殊更に

さやか成けるこゝちそすれ

狂歌

めつらしや三河の内の岡崎で

月みる事も浮世也けり

狂句

てる月もわかぬ藝者のしやへり聲

明レハ長月十四日早天ニ岡崎宿出立名ニモイフ矢矧橋長貳百八間

アリソコヲモスキテ矢矧村西矢矧ウトフ尾崎大濱茶屋野地村今村

サハタリ川シハラク行テ右ノ方半里計ノ處ニ在原業平作ノ觀音八

橋ノ名所等有之由ナレト入込ナレハ聞タ計テ打過池鯉鮒へ着人馬

繼内茶屋へ立寄昼飯仕廻其ヨリ一里山今岡ニ立場此所ハ名酒アル

ヨシナレト兼テ好シ道ナレハソレヲモタヘスクニ立ソロソロ行

テ妹川へ立場其ヨリ半里位モ行テ尾張三河ノ堺川橋ヲ打渡リアノ

村アノ橋アノ坂ヲ越ゼンコエ立場オチ合過テスチカヒ橋右橋ヨリ

少シ手前ニ桶狭間古戰場永祿三年五月今川義元討死ノ所通ヨリ壹

町計入込墓有戰場等モ見物シ有松村シホリ染色々有ニテ其屋ヨリ

御ハイリオハイリト袖引ケレハヨフヨフヨフノ處へ立寄形付壹

反取入此所俗ニ池鯉鮒紋トイフ紋所ニ實ニイロイロ餘多有之候シハ

ラク過テ濱邊ニ塩屋ノアル所ヲ宵月ノ濱トイフ由古へノ鹽ノ焚サ

シトイフ名香ノ出タリシモ此所ナリト星崎夜サムノ里松風ノ里ミ

ナ此邊ナル由イツレモ名所也ケレト問フ人モナケレハ

名所を問ハんとすれと志るへなき

旅の空こそ悲しかりける

ト詠シ少シ過テ鳴海ノ宿へ着亦々人馬繼デンバク橋シハラク過テ

笠寺へ立場ヤスム此笠寺天林山笠覆寺トイフ本尊笠ヲ着シ給フ觀

音ナル由其ヨリ戸部村山サキイト田宮宿出迦サンダ橋打渡リ尾州

宮宿エ日入時分着一宿ナリ

長月十五日朝立ヨリ天氣モ晴上リ海上モヨロシカラヌト舟ノ手當

トモイタシ六ツ半ノ比カヤ宮宿打立濱邊へイテ此濱邊ニ鳥居立此

所ニ兩社アル由熱田大明神日本武尊又ハ劔ノ宮モアル由ナト聞桑

名追七里ノ渡トテ乗船オモヒモ寄ラヌ能キ追風ニテ桑名エ九ツ時

分着伊勢路エ入、先安備イタシ直ニ人馬繼立大門ヤスナガ過テ町

屋川ナラオンケ村立場此邊松カサニテ蛤ヲヤキテ賣ル俗ニ桑名ノ

ヤキ蛤トイフハコ、也カキ村アサケ過テ松寺ニ立場シハラク行テ

東富田村立場モチブク村ハツノ村ミツヤカイソ川七ツヤトフ過テ

四日市宿迄七ツ過着其日暮一宿ナリ

長月十六日アカツキ四日市宿出立ハマタ錢カメハシアリ城オチ合

橋カハケ長田橋田留ハシカ太夫橋トマリへ立場亦シハシ行テ追分

へ立場此所ヨリ伊勢參宮ノ道モアリオウソ村ウネメ橋渡リウネメ

町へ立場又壹里位モユキテ枝突村へ立場此處マンチウ名物ニテ喰

シ其ヨリ又マリカノ原小谷此處へ茶屋段々アリ立場テハナケレト

モ茶屋へ立場茶トモ吞大谷過テ石藥師宿へ着人馬繼ウエノウナキ

タカミヤ過テ庄野宿へ着亦人馬繼クミガ原森下エ立場シハラクヤ

スミテ亦々中トミタ西トミタイツミ村オタ村カイゼンシ河合ワダ

ノ龜山宿エ着オナシク人馬繼野村能古茶屋へ立場所レヨリ野尻落

針村買川オノ町村過テ關宿へ着此所火繩賣ル右宿ノ内茶屋へ立寄

昼飯仕廻人馬繼其ヨリ少シ行テ鈴鹿山越ケル時雨モフリケルニソ

ものそこきこゝちこそすれ鈴鹿山

小雨も志けき森の木蔭は

ト口スサミハネカケ橋鈴鹿川也少シ過テ新茶屋トイフアリ右ノ方  
ニ狩野筆捨山トイフ探幽ノ筆畫モ及ハヌトイハレシ處ノ由其新茶  
屋ヘシハラクヤスミ詠ケレハ誠ニ多景ナリ亦行ニ蹈カケ坂之下エ  
着人馬繼亦々鈴鹿ノ坂上リ峠ニ近江伊勢ノ堺有ソレヨリサイエ立場  
亦カノキ立場山中井之花蟹ヶ坂越田村川歩渡土山宿迄夜入前一宿  
長月十七日曉七ツ前ノ比カヤ土山宿出立松ノ尾川渡リ松ノ尾村エ  
立場マイノムラ市場村徳原村スキ大野村ヘ立場シハシヤスミテ今  
宿イナ川今ザイケ小里新庄通り栗村村ヘ立場立寄水口宿ヘ着此所  
ツ、ラ細工色々多シ人馬繼立北ワキ村イツミヘ立場茶屋ヘシハラクヤ  
スム其ヨリ横田川船渡シタガワ茶屋有シハシ立場ニ雲村過ヨシナリ  
村ナツミ村ヘ立場茶屋ヘ立寄煙草トモ吞平松村カラシ袋村過テ石  
部ノ宿ヘ着人馬繼内茶屋ヘ立寄昼飯仕廻ソレヨリカナ山イセウチ  
高野ハヤシ上野六地藏村過テ梅ノ木村ヘ立場ヤスム其ヨリオノ村  
手ハラ村此邊ヨリ三上山見ユル俗ニ百足山トイフ其ヨリマカリノ  
村川ツラホブク口村過テ女川村ヘ立場シハラクハ茶屋ヘ立寄茶煙  
草色々ノ物共タヘ其ヨリオリムラクサツ川過テ其日ノ七ツノ比カ  
ヤ草津驛エ着此處名高キ鞭竹ノ有之處ニ而少々取入ヤカテ日暮  
ニケリ明日ヨリハ京見物ヘ差越賦ニ而イロイロト取紛其夜一宿ナ  
リ尤此宿出迦美濃路伊勢路ノ追分也

店モ不明打過又シハシ行テ野地里トイフアリ此邊ヨリ夜モ明茶屋  
ヘシハラク立寄茶煙草等モ喰シ此里過テ直ニ玉川橋アリ左ノ方ニ  
コリ池石ノ方ニコリ江アリ此ハ名ニヲフ野地玉川トイフ名所也  
朝またき露もしけくや置ぬらむ  
袂す、しき野路の玉川  
ソレヨリ月ノワノ新田大カヤ新田大江村スキテ勢田ノ長橋ヘ出ル  
大カタ日出前ノ比カヤヨロシキ茶屋モ多キユヘシハシ立寄煙草吞  
ソレヨリ石山寺ヘ參詣セントテ長橋ノ上ニシハラクヤスロウ是八  
景勢田夕照也此橋中ニ小嶋アリ長橋九拾六間小橋三拾六間ナリ此  
處ヨリ小船ヲタノミ三人列乗船ニテ直ニ石山寺下エ舟着觀音ヘ參  
詣シケルニ寺内誠ニ美盡シ處邊ハ大石込ニテヨロシク亦涼ミ臺  
トイフ様ナ所ヨリ見ケルニ鳥渡日出下ニ勢田長橋見オロシ誠ニ絶  
景ナリケルニ取アヘス  
みをろせし勢田の長橋かち人の  
通ふなかもあかぬ比哉  
月ノコト、モオモヒヤリテ  
いし山や常より秋の最中には  
月の都とひとの間ふらむ  
ソレヨリ觀音ヘ拜シ御札トモイタ、キ堂内見物スレトモ紫式部源  
氏ノ間トイフハ只今勤央ニ而見物モ得ナラス最早歸ラヌト寺ノ下  
茶屋邊エ行ケルニ餘リ氣色モヨロシク段々ヨロシキ茶屋ナミ居ル  
ニシハラクト立寄ケルニ直ニ二階ニ參リ飯トモタヘリ此茶屋ハ湖  
水エ片町ナリ亦ソレヨリ舟ニテ長橋ノ下打通り右ノ方ニハ矢走ノ  
渡リ打詠左ノ方ニハ粟津晴嵐大津ノ宿三井寺遙ニ唐崎松堅田比良  
等打絶誠ノ實景敷嶋ノ道ニモ盡兼候膳所城モ誠ニ盡カタク見ヘ候

言の葉にいひかへかたき近江なる

詠めも絶へぬ水の海哉

ト口スサヒ八景等詠メヤリテ四ツノ時分カヤ大津ノ驛迫着船シ  
ハラク茶屋へ立寄ケルカ此茶屋庭ニ松一本アリ此松唐崎ノ松ニ餘  
程似タリト亦膳所ヨリ勢田追ノ間粟津ノ原トイフ勢田邊ヨリ大津  
マテノ内マノ、入江トイフ由ソレヨリ大津ノ驛モ立宿内ヨリ三井寺唐  
崎ノ松等エノ道モアレトシハシ道モトフケレハ大カタ湖水ト詠メシ  
景色モオモヒヤリ都ヘイソク道ナレハ立寄事モ成兼少シ行ト逢坂  
ノ關シハシハ少シツ、ハ上リ坂茶屋へ去ヲ煮賣リスル處アルニシ  
ハシト立寄去ヲモ喰シ相坂ノ關山科ノ方へ越ケルニ  
見かへれハ矢走の渡帆をあけて

越にもおしき相坂の關

ト詠シ行左ニ關寺常念佛有此所昔相坂ノ關アリシ所ナル由此上ノ  
山相坂山ソレヲモ過テ近江山城ノ境モ打通り走井ノ水名所ナリ其  
處茶屋段々アリ左ノ方茶屋ノ内ニ湧上リ井戸アリシハシ立寄ケル  
ニ誠ニ水モ清水ニテヨロシク清原元輔ノ歌トモオモヒ出シ候  
はし里井のほとを志らはや逢坂の

關引越る夕かけの駒

ト詠シ給ヒシヲモオモヒヤリ火打カハナ過テ左ノ方京都道右ノ方  
伏見道追分ヘイテシハラク茶屋へ立寄煙草等モ喰シソレヨリ京都  
ノ方へ趣カントソロソロ行ニ京ニ條ヨリ見物ノ案内イタシマスト  
申物アリケルニ地理モワカラヌ事ナレハ案内タノミ壹里半位モユ  
キ名所音羽山清水寺ヘイツル本尊ハ觀世音此所昔ハ嶮岨ノ山尺  
地モ平地ナシ其來由ハムツカシキ事ナレハコ、ニ畧ス右觀音堂ノ  
アル所ハ一夜ノ内ニ多ク鹿來リテ平地トナシ此堂ヲ立シ處ノ由田

村丸此觀音寺モ立延鎮法師寄附ナリタル由觀音ハ此所ニ而延鎮誰

ヲカシラスサツケラレシ本尊ナルヨシ觀音寺脇ニ音羽瀧アリ三筋

ナカユクナリ

住む神かこゝろをそへて音羽山

流る、瀧の清きこゝろハ

身にひとつちりもかゝらぬ白糸に

瀧のこゝろそすみ増ける

ソレヨリ少シ坂下リテ八坂庚申堂エ出亦安井觀音へ參詣ソレヨリ  
祇園エ參詣シケルニケニニキシク鞠子等多クアツマリ躍ノモアリ  
茶屋ハハイロイロ見セモノナト多キ故其ヲモ見物シ大谷寺知恩院  
エ參詣其ヨリソレヨリ三條ノ大橋追七ツ過ノ時分着旅籠屋鍵屋伊  
兵衛ト申モノ、所ヘヤトリヲヨフニヨリ滞在イタシ何カトイフウ  
チニ清太ニモ參リ夕方ヨリ四條河原景見物トシテ差越暫ク茶屋へ  
立寄ケルニ

大空の星かともみへて鴨川の

そこにもみへしとふるふの影

戲言

目にみゆるものはいづくもたをやめの

舞の袂を振かへるなり

志んないの声も色めく都可那

明レハ長月十九日三條ノヤトリ打立諸方へ見物セント立出墨製永  
田重春所へ立寄墨ヲ求メ其ヨリ二條通りヘイテ勝守所へモ立寄筆  
トモ求メソレヨリ禁裏御所通抜ソレヨリ報恩寺紫ノ大徳寺今宮金  
閣寺平ノ杜北野天満宮へ參詣御札トモイタ、キ比所ノ茶屋ニテ昼  
飯仕舞ソレヨリ 御寶御所打通りヨフヨフ七ツ時分ニ高雄山神護

寺へ参リソノ寺ヨリ手前ノ方高キ處ニ茶屋壹軒アリ此所ヨリ向ノ高キ處神護寺双峰ノ中ニ谷川ナカレハ皆楓計ニテ餘程ノ絶景ナリ

紅葉の影に流る、谷川の

底まで深き紅の色

楓イマタマレ成ニ

まれなりといひし成れとも名にしをふ

高雄の紅葉色付にけり

ト口スサミケリ此所ハムカシヨリ紅葉ノ名所ニテ奥ノ地藏院ヨリ外ナル溪ヲハルカニ見オロシ立田ノ秋ノ色ソヒ水ニウツロフ紅ニ峯ノ夕日カ、ヤキアラシニ見タルケシキ錦ヲサラスナト詠ケンモ思ヒヤラレ社牧ガ詞ニ停車座看楓林晚トイヒシモ理リトオモヒヤリ候ソレヨリ諸所名所ハ見物スレトイヒ尽サレヌマテ多キ故コ、ニアラマシ書付候マ、見ル人ハ察シ見ルヘシ暮前三條旅籠屋マテカヘリ亦々宵ヨリ祇園町見物トシテ差越候處實ニ音ニ聞ヨリモニキニキシキ事申計也直二三條へ歸宅

長月廿日三條打立五ツ時分之比カヤ直ニ五條通三影堂へ差越扇子等頼置ソレヨリ大佛殿跡見物三十二間堂東福寺通天ノ楓見物右東福寺ニ色々名畫等虫下ノ由ニテ案内ヲ乞見物ス

通天ニテ紅葉ノイマタナレト見物ノ多キ心ヲ

色つか可ぬ紅葉なれとも見る人は

いまも盛のこ、地こそすれ

ト口スサミソ口ソトイソキ茶屋へ立寄昼飯仕廻伏見山城住兼春處へ七ツ時分着直ニ舟手當等イタシケレト舟支ニテ漸々夜入五ツ半時分ノ比乗船追モヨロシク廿一日早天ニ攝州大坂迄安着也

同月廿一日大坂滞在御留主居方へ届ケ方相仕廻且御留主居ヨリ小倉村上方へ御用封相請取ヤシキモ暇イタシ色々取人物ナトイタシムナシク日モ暮ニケリ夜入過ヨリ加藤十兵衛殿参リシハシハ咄トモイタシ四ツ時分ニ被歸候事

長月廿二日五ツノ比カヤドフトンホリへ柴井見物トシテ兩三人列御ヤシキ下堀ヨリ乗船ニテサシ越候處茶屋へ相頼置候處ウツラノ一二番借請之由ニ而直ニ棧敷へ参リ候處鏡山段通ノ柴居ニ而誠ニ面白ク見見物人ハ幾千万トイフ數モ無知レ人計也敵打ノ段モスミ日モ暮カ、リケルニ清太同道歩行ニ而新町邊等通り色々見物等イタシトラヤ迄歸宅

長月廿三日順風無之唯々滞在也夜半時分新堀下ヨリ乗船ニテ其夜ハ滞船也

明テ長月廿四日早天ニ攝州安治川口出帆陸ノ方ニハ處々湊尼ヶ崎兵庫須磨ノ浦敦盛ノ石塔モ松ノ間ニ少シ見ヘ追風モヨロシ一ノ谷大藤谷明石ノ浦等ノ名所等打詠大カタ貳拾里位モ走り夜モ入ケレト替ラス追風ニテ走り候事

明テ長月廿五日追風ヨロシク諸所海邊名所湊等打詠其日モ汐掛ナク走り候事

長月廿六日相替ラス追風ニテ終日走り夜入五ツ時分長州寶津ノ湊へ壹刻汐掛直ニ出帆其夜モヲナシ順風也

長月廿七日早天寶住湊ノ沖ニテタチマチ逆風ニ相成終日滞舟風氣相待ナリ

明テ長月廿八日早天北風ニ振直リ直ニ寶住出帆余程ノ追風ニテ九州豊前ノ内本山イフ處ノ沖迄参リ候時分ハ夜入五ツノ比カヤ其夜ハ餘リ風モ無櫓ニ而少シ宛灘付ヲ行也

長月廿九日早天ヨリ至極ノ追風ニ成五ツ時分下ノ關迄参り豊前小倉迄四ツ時分安着安堵イタシ直ニ村上方ヘサシ越直ニ人馬世話イタシ九ツ半時分小倉出立豊前筑前ノ境モ過黒崎ヘシハシヤスミ上ノ原村上津役村石坂茶屋ノ原村等諸々ヘ立場漸々夜入五ツ時分木屋之瀬驛迄着一宿ナリ

長月晦日曉木屋之瀬驛出立直方本町直方新町小武村過飯塚驛ニ而人馬繼昼飯仕廻亦々天道町瀬戸川ノ歩渡モスミ長尾村ヘ立場内野宿迄着人馬繼ソレヨリ冷水峠ノ難場モ越シ西山村諸々ヘ立場ニテ山家驛ヘ着一宿ナリ

明テ神無月朔日トモ成ニケリ曉山家出立少シ過テ太宰府天神道有ケレト参詣モ儘ナラス新町石積村其ヨリ筑前筑後ノ境モ過松崎宿ニテ人馬繼古河村過テ筑後川舟渡シハシ行テ府中驛ヘ着人馬繼昼飯仕廻ソロソロ行ニ二軒茶屋ヘ立場一條村過テ羽犬塚驛ヘ着人馬繼大嶋村少シ行テ柳川久留米之堺モ通り筑後瀬高驛迄夜人前着一宿ナリ

神奈月二日曉瀬高宿出立吉井村野町等過原之町驛ニテ人馬繼立北之關村筑後肥後ノ境モ過國元近ク足モ進ミ南之關ニ着亦々人馬繼昼飯仕廻小原村肥猪村平野村岩村諸所ヘ立場山鹿驛迄七ツ時分着温泉有之處ニテ直ニ入湯草臥等モ止ミ其夜ハ一宿ナリ

神無月三日早天山鹿宿出立郷田原村廣野町内村味取町上坂下村川床高瀬川舟渡木之葉村田ハル森之下間々立場等イタシ植木驛ヘ着候處御國許ヨリ江戸表ヘノ御飛脚ニ行合御國許之噂モ聞江戸ヘ壹封相頼人馬繼鹿子木村御馬下村過テ細川越中守様御城下熊本ヘ着鰻屋ヘ立寄昼飯仕廻御城内通抜見トリ川舟渡ソレヨリ川尻ニテ人馬ツキ大カタ暮過宇土宿着一宿ナリ

神無月四日曉宇土出立松葉瀬過テ小川へ出人馬繼ソレヨリ豊福村八代へ歸道ナレト半里位モ遠ケレハ萩原通之ヤウ参り求摩川へ出川端茶屋ヘ立寄昼飯仕廻人馬繼求摩川ノ舟渡口人時分日奈久驛迄着温泉場ニテ則入湯等イタシ候此處ヨリ出水米之津迄舟有之由ニテ直ニ手當イタシ夜入四ツ時分乗船右日奈久出帆ナリ

神無月五日早天出水米之津へ安着直ニ先狀モ認サシ出人馬繼立高尾野野田過テ大鐘時分阿久根迄着一宿ナリ直ニ足輕清太事宿元ノ様一左右申越也

我ケ家に着しより猶うれしさの  
いふかたもなき心なりけり

神無月六日早天阿久根出立西方ヘシハラクヤスミ昼飯仕廻諸所ニ立寄向田迄八ツ時分着直ニ新田八幡宮へ参府之節武運長久奉祈候ニ付御願御礼トシテ参詣直ニ旅宿へ歸リ一宿ナリ

神無月七日早天向田出立市來湊ニテ昼飯仕廻人馬繼苗代川モ過伊集院町迄八ツ半時分着ナリ直ニ

妙圓寺へ参詣旅宿へ歸リ候處勇四郎殿仁禮平左衛門殿爲迎被参久々振之對面ニテ何ヨリ咄シモナク互ニ無事之事共述ケルヨリイロイロノ咄トモイタシ夜モ更ヌルニモハヤイネントスル處ニ郷右衛門殿被参亦々同斷之事ニ而何屋歟屋ト咄内夜モ五更之比ニモ成皆々ヤスミケリ

何よ里もいはれぬまでと諸共に  
無事の言葉そ先述にける

神無月八日五ツ時分伊集院町出立道スカラ櫻嶋漸々間近ク見ヘケレハ猶家ノ事トモナツカシキ故

我宿の軒葉にみえし櫻嶋

近く成こそ猶なつかしき

ト口スサミ横井ヘシハラクヤスミ立行ニ安之介殿萬之進殿逢ヒ互ニ無事ヲ述人曲邊過水上坂之下迄八ツ前着之處段々迎ノ方モ多人數ニテヲナシク無事ヲ述酒等少シモテハハヤシソノウチニ時モウツリケルニ亦々出立七ツ時分安着 兩親御無事ノ事奉悦ウレシサノナミタ互ニツ、ミ兼先互ニ無事ヲ悦ケリ

二親の無事の面影見にしより

うれし丈なくとせきあへにけり

ソレヨリ皆々無事ノ儀嬉シサ無カキリ外ニ餘多客モ有リイロイロト咄モイタシ酒取ハヤシ祝言等モ初リ誠ニ賑ハウ思ハス夜モ深更ニ及皆々余程ノ氣分ニテ引取頓ト安堵ノ思ヒ成シニケリ

すみなれし我古郷に着しより

こゝろ安くも成にける可那

長月の初空にこゝ都路を

おもひ立しも久しかりけり

此日帳口傳ニ關シ儘日名處旧跡等繁多故畧シ九月二日ヨリ神無月八日迄旅行ノ形様後世思出ニモ成ヌト書終

安政二年 神無月



小松帶刀幼名  
肝付尚五郎日記（安政三年）

正月 駿河

兩度共ニ  
御袖判之方ヨリ出  
杉之間の方へ  
拜サル事

丙辰正月廿六日 晴

一 拙者事去月五日小松相馬繼目養子ニ付忌服仰付置ラレ昨廿五日ニ  
而五拾日ニ相及今日双方之願人北郷哲五郎殿鳴津隼見殿ヨリ御屈  
ニ相成候事

一 御用人嶋津藤馬殿取次ニ而明日四ツ時駿河殿筑後殿ヨリ御差圖御  
用承知致候事尤願人嶋津隼見殿ニモ御用承知之由候

正月廿七日 晴

一 御用ニ付罷出候處願人嶋津隼見殿一所ニ罷出候處御對面所ニ而左  
之通被 仰付候事

小松相馬

繼目養子 二

左門三弟

肝付尚五郎

願人

嶋津 隼見

右之通被

仰付候

正月 筑後

右相濟候而拙者壹人能出候處左之通被仰付候

詰衆

小松尚五郎

右之通被

仰付候

右之通被 仰付候ニ付則詰衆諸座山吹之間外手之方エ相詰ハツヨ  
リ御暇御家老衆若年寄衆大目附衆處エ御禮廻トシテ差越候事日入  
時分歸宅段々客來等モ有之賑々敷事ニ而候

一 御用ニ付罷出候節肝付家紋付不洗半袴ニ而罷出繼目被 仰付候ト  
直ニ小松氏紋付着替候事尤供廻等出殿ノ節ハ供一人小者壹人拙者  
ニハ御小姓御役モ有之候ニ付與御小姓之供廻ニ而候御禮廻等之節

ハ家格相當之供廻ニ而候以後見合之爲給置也（記カ）

一 諸衆被 仰付候當口ヨリ則ハツ相詰ハツ星ニ合候尤二日ハ上下  
着ニ而ハツ相詰星ニモ合候事は又以後見合之爲印置也

正月廿八日 晴

一 四ツ前ヨリ出勤ハツ相勤候七ツ時ヨリ上方ニ御禮廻トシテ差越  
夜入前被歸候事

一 今日御役替

三番御小姓與番頭

樺山主殿殿

當番頭

奏者番兼務

川上孫左衛門殿

右之通御役替有之候事

一 八ツ後喜入主水殿壹刻御見舞下サレ候

正月廿九日 晴

一 四ツ時出勤ハツ御暇直ニ下方ニ御禮廻トシテ差越夜入前歸宅尤水

上ニモ先日ヨリ御病氣御見舞カタカタトシテ壹刻差越候事

正月卅日 晴

一 詰前ニ而四ツ時出勤同刻過御暇イタシ候

一 喜人父上様エ看一折樽菓子祝之品トシテ今日差上候事

一 先日喜入エ此方御祖父様ヨリ野犬之皮御頼置ラレ候處昨日貳枚参

り候ニ付御禮旁トシテ喜入御ト、様エ簾節一連右皮取得候人江目

録金子百疋御デ、様ヨリ今日屋シキ之方へ相頼差上被成候事

一 四ツ後川嶋新五郎殿鎌田市兵衛殿壹刻参ラレ候事尤八ツ後嶋津仲

殿壹刻御出被成候事

二月朔日 曇 大

一 四ツ前出殿 御祝儀相濟御暇同刻過ヨリ於調練場ニ騎兵隊式日ニ

付出張八ツ過相濟歸宅

一 七ツ時ヨリ藥丸猪之助殿壹刻御見舞給候事大鐘時分ヨリ萬之進鎌

田市兵衛殿川上喜右衛門殿相良左平太殿咄トシテ被参夜入四ツ時

退出也

二月二日 晴

一 今日迄ハ詰前ニ而候得共川上主膳殿今日ハ出勤之筈ニ而不罷出候

而宜敷段承リ不罷出候尤詰前箱モ川上氏ヨリ次越給筋ニ御座候四

ツ後相良佐平太殿山元五百介殿壹刻被参候事

七ツ後ヨリ肝付家エ差越夜入四ツ歸宅尤相良氏被差越鎗稽古也

二月三日 半曇

一 七ツ後ヨリ鎌田市兵衛殿被参夜入前鎗稽古五ツ過被歸候朝四ツ前

登殿壹刻御見舞被下候事外ハ無事

二月四日 晴

一 四ツ過ヨリ肝付郷右ア門殿被参九ツ過退出也

御飛脚今日被差立候ニ付書狀數通御用人座御用封壹所ニ相願遣シ

候事

二月五日 風

一 御納戸奉行初御小納戸奥御小姓是迄長々御世話ニ相成候ニ付右之

禮心持ニ而今日七ツ後ヨリ夜咄トシテ被成御出候様申置候處仙波

市左衛門殿早川務殿伊集院藤九郎殿三原藤十郎殿伊集院伊平太殿

朝倉市十郎殿平川一二殿東郷藤兵衛殿被成御出色々之咄ニ而皆々

御有付賑々敷事ニ而夜入四ツ時分皆様御歸也尤亭主方エハ東郷氏

肝付郷右衛門トノ鎌田市兵衛殿ナリ皆々能キ機嫌ニ而至而仕合之

事ニ候尤西田次郎太殿林正之助殿肥後與雪殿ニモ被参候事

二月六日 大晴少風

一 五ツ過東郷藤兵衛殿肥後與雪殿鎌山市兵衛殿西田次郎太殿被参候

尤九ツ時分山元新之助殿被参候事

七ツ後ヨリ喜入屋シキエ鎗術稽古方トシ差越夜入時分歸宅

二月七日 晴

一 今日ハ當番頭方書役エ参リ候様申置候處八ツ後ヨリ加世田正兵衛

富田傳内平山源八淺留與右衛門井上彌兵衛久保雄右衛門参リ拝見

方ニ而暫ク咄大鐘時分ヨリ此方エ参リ緩々咄ニ而四ツ前退出也尤

亭主前用頼西田次郎太林正之助ニモ参リ候事

喜入御カ、様ニモ御出被下候事

二月八日 晴

一 寄詰トシテ四ツ時出勤八ツ御暇掛喜入エ壹刻差越直ニ歸宅

七ツ後ヨリ準見殿駿河殿隼人殿所エ壹刻ツ、差越候尤東郷貞太夫

殿所エモ差越大鐘時分歸宅夜入前壹刻治部様御出直ニ御立ナリ

二月九日 晴

一寄詰トシテ四ツ時出勤ハツ御暇也

一大鐘時分ヨリ肝付家へ鎗稽古爲鎌田市兵衛殿同道ニ而差越夜入時  
分歸宅尤市兵衛殿亦々被參五ツ半時分被歸候事

二月十日 晴

一四ツ時出勤九ツ時過御暇ナリ尤島津内藏殿ト繰替明日迄二日相勤等  
也七ツ後仁禮平左衛門殿壹刻被參候事

二月十一日 半天 ヒガン入

一四ツ時出殿ハツ御暇ナリ

一來ル十三日騎兵隊調練前ニ候得共指宿ヨリ寄相様御歸殿ニ付取止  
ニ相成候段比津島靜馬殿ヨリ承知イタシ候事尤御殿ヨリ則詰衆中  
へ順達イタシ置也

四ツ前福永直之丞殿肥後與雪殿被參候

二月十二日 小雨風

一喜入父上様ヨリ一昨日御火山ニ而宋御取得給り候由ニ而今朝御  
状相添被贈下則御禮答造中上置ナリ

七ツ後相良佐平太殿壹刻被參候事町田助太郎殿同刻壹刻被參候事  
大鐘時分ヨリ喜入屋敷工鎗稽古式日トシテ差越夜五ツ過歸宅

四ツ時分ヨリ務殿被參九ツ時分被歸候事

一今日ハ騎兵隊式日前ニ而候得共指宿ヨリ宰相様御歸ニ付取止ニ相  
成候段一昨日比津島ヨリ承置也

八ツ後ヨリ市兵衛殿被參鎗稽古夜入前被歸候事

二月十四日 曇

一四ツ時寄詰トシテ出勤ハツ御暇同刻過ヨリ千石馬場町川家へ差越  
夜入五ツ時分歸宅尤山吹之間書役ナト差越候事

二月十五日 曇

五ツ半過出勤掛喜入エ差越寄詰前ニ而ハツ御暇ナリ

一山吹之間工此節詰衆被 仰付候ニ付辨當差出候尤委細ハ茶方へ給

置也夜入前喜入屋敷工馬乗トシテ差越候事  
根占孫兵衛殿鎌田市兵衛殿仁禮平左衛門殿山口右源太殿當口トシ  
テ被參候事

二月十六日 曇間々小雨

一九ツ時分ヨリ新射場四番目ニ鐵砲トシテ差越夜入時分歸宅尤土持  
藤次郎殿日高新左エ門殿ナト近々大島ニ守衛方トシテ渡海ニ付名  
殘鐵砲コ、ロモチニ而治部様御企ニ而出張ナリ

二月十七日 曇

一今五ツ時分御通達參り候ニ付嶋津縫殿工何か、致候哉ト尋越候  
處四ツ時分御殿ニ差出候様トノ事ニ而久保雄右衛門工持セ遣シ候  
處ヨロシキ段丈承來候事御通達左ニ印ス

宰相様中村御屋鋪御滞在候得共今七ツ時玉里工御歸殿之由

右之一件之文面ハ畧ス

一清猷院様御日柄ニ付高寺御位牌工代參申付遣シ候事

七ツ後町田助太郎殿被參日人時分退出也

一喜入父上様工書狀差上候事

二月十八日 大晴 日ガンハレ

一無事 五ツ前鎌田市兵衛殿壹刻被參候事夜入過ヨリ田代源五右衛  
門殿日高新左衛門殿被參四ツ過被歸候事

二月十九日 曇

一七ツ過ヨリ喜入エ差越夜入時分歸宅

二月廿日 半曇晴

一早朝大野多宮殿所工壹刻差越直ニ歸宅  
ハツ後林正之助殿被參七ツ前被歸候事

於朝様御事先達而ヨリ木脇才之丞殿處工縁與之内約相濟居候處彼  
之方ヨリ今日御引越相談之事ニ而昨晚荷物等請取方トシテ参り居  
彌夜入過彼之方ヨリ御迎参り御引越ナリ尤彼之方ヘハ山本新左衛  
門下ノ西田次郎太殿林正之助殿此方ヨリハ被差越候年寄梅ノ二圍  
差越候事外ハ誰ニモ不差越候内場之事ニ而候  
一今日御用人座ヨリ御用有之候處林正之助殿名代ニ而取次高橋縫殿  
殿ヨリ御書付御渡之由ハツ後持参候御書付左ニ印ス  
下總殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松尚五郎

右者南泉院火消樺山主殿工被仰付置候得共被成御免代被仰付候

条可申渡候

但當十二月届可被申出候

二月 下總

二月廿一日 半晴

一四ツ過ヨリ水上先達而ヨリ御病氣ニ而候故御見舞旁トシテ差越八  
ツ後歸宅

四ツ前西田次郎太殿林正之助殿被参候事

山本新左衛門殿ニモ同斷

七ツ後治部様御出ニ而來ル廿四日伊勢家軍禮式御大老御見分有之  
由ニ而征矢十貳本簾カラミ緒壹ツ御人用之由ニ付只今差上置也  
月次之御飛脚今九ツ時相付ナリ

二月廿二日 曇夕ヨリ雨

一昨晚喜入御ト、様ヨリ御狀并ニ雉子一羽贈被下御禮狀菓子少々今  
日差上置也大鐘時分ヨリ喜入屋鋪鎗術稽古式日前ニ而差越暮歸宅  
夜入五ツ前ヨリ鎌田市兵衛殿被参直ニ退出ナリ

二月廿三日 雨天

一四ツ後

大中公エ参詣直ニ歸宅

八ツ過ヨリ 靜洞様御新宅之方ヘ御出直ニ物見ヘ御出御徘徊等差  
上候尤治部サマニモ七ツ過ヨリ御出入前ヨリ亦々御新宅ヘ御出  
イロイロノ御咄御悦喜ニテ五ツ前御立ナリ御歸掛垂水工拙者ニモ  
御供イタシ候様御沙汰ニ而罷出四ツ前歸宅

二月廿四日 曇少々風

夜入前ヨリオ朝サマ御引越有之其後五ツ目ノ處ニ而家内中倉山民

五郎殿夫婦ニモ被参候委細外帳面ニ印ス

一騎兵隊式日ニ付四ツ時分調練場ヘ罷出八ツ前歸宅

一松平兵部太夫様御奥方ヘ御病死之御出來今日伺 御機嫌有之候得  
共拙者ニハ運方ニ承知調練場ヘ罷出候事

二月廿六日 晴

一曉大鐘時分ヨリ喜入瀬々串工遠馬トシテ差越日入前歸宅尤父上様  
ニモ籠之方ヨリ御出外ニ多人數御供等モ有之面白事ニ御座候此方  
ヨリ治部様大野多宮殿安之介殿勇四郎殿萬之進殿町田佐次右衛門  
下ノ同道ナリ

二月廿七日 晴

一五ツ過鳴津務殿被参候

一務殿詰前候得トモ今日無據差支ニ而相勤具候様承四ツ時出勤九ツ  
前御暇掛喜入屋シキエ差越同刻過歸宅八ツ前壹刻肝付郷右衛門殿  
被参候同刻過ヨリ鎌田市兵衛殿被参七ツ過同道ニ而市見物トシテ  
差越直ニ歸宅

於御殿明日ヨリ拙者詰前候得共山岡齋宮殿料詰來月朔日迄之由右

ニ付壹人ツ、練合相勤候様縫殿殿主膳殿工問合申越置也

二月廿八日 晴

一今日ヨリ詰前ニ而四ツ時出勤今日迄ハ料詰有之四ツ後御暇イタシ候  
八ツ後ヨリ洲崎エ鐵炮トシテ差越夜入前歸宅四ツ前根占孫兵衛殿  
被參候事

二月廿九日 大晴

一四ツ時出勤四ツ過御暇九ツ時分於新射場ニ同席中鐵炮稽古相企出  
張夜入前歸宅四ツ前伊集院次左衛門殿宇宿孫六郎殿被參候事  
才汲様御出夜入四ツ過御歸ナリ

三月朔日 曇 小 午

一四ツ前出勤八ツ御暇掛喜入屋シキエ差越七ツ前歸宅同刻過伊集院  
次左衛門殿參り明日吉野訓練ニ付籠手脛當借用イタシ度トノ事ニ  
而直ニ渡シ遣ス朝京兵衛殿ニモ被參候大鐘前町田助太郎殿ニモ壹  
刻被參候

一太刀 一腰

明日訓練ニ付弟勇四郎借用イタシ度事ニ而今日持セ遣ス

三月二日 晴

一四ツ時出勤八ツ後御暇也  
一於吉野騎隊訓練  
宰相様被遊

御視候ニ付昨夜四ツ時分皆々炮術館出揃ニ而九ツ過吉野エ張出

ニ相成候

宰相様ニモ七ツ半御供揃ニ而六ツ時ヨリ吉野

御出

御視餘程御滿悦之由奉伺候

惣人數引取八ツ前迄ニ相濟候

一七ツ後ヨリ喜入へ差越夜入過歸宅

三月三日 大晴

一四ツ前出殿四ツ後御暇掛重留垂水喜入エ差越八ツ前歸宅  
一着服之儀於江戸委細申渡相成候段承知イタシ昨日御用人座ヨリ別  
段上已麻汁目着用不及段承知致服紗ニ而出殿尤供廻等毎之通ナリ  
以後見合之爲〔記カ〕給置候委細江戸表之御書付別紙ニ委ク印ス  
八ツ後ヨリ登殿所駕籠花岡町田家へ差越其ヨリ永吉初難之形ニ而  
差越夜入過歸宅

三月四日 曇

一八ツ前ヨリ相良佐平太殿安之介殿萬之進殿被參尤佐平太殿ニハ鎗  
削方願置候處今日ヨリ打立給り候事夜入五ツ過被歸候  
一籠手并脛當  
右伊集院次右衛門殿工先日差越置候處八ツ後爲返濟被參持髓ニ受  
取ナリ

一喜入父上様ヨリ餅送り下サレ候

三月五日 大風雨

一八ツ前ヨリ鎗削方トシテ佐平太殿被參夜入五ツ過被歸候  
三月六日 曇風  
一四ツ後郷右衛門殿助太郎殿被參候

七ツ時分ヨリ勇四郎殿佐平太殿鎗道具造方トシテ被參夜入五ツ過

治部様町田佐次右衛門殿被參候四ツ過皆々御歸ナリ

三月七日 晴

一南林寺下ニ而馬寄有之拙者持馬青毛差出候事七ツ時分壹刻北條彦  
左衛門殿被參候事

此節大廻船大榮丸ヨリ拙者箆笥等下リ今日相届請取候

三月八日 曇

一市兵衛殿七ツ後壹刻被參候大鐘時分ヨリ町田佐次右衛門殿被參緩々咄二而四ツ過被歸候

一今日ハ騎兵隊式日前候得トモ雨三日跡ヨリ些不塩梅二而安之介殿エ傳言イタシ不罷出候事

三月九日 大晴

一七ツ後ヨリ鎌田市兵衛殿被參候夜入時分ヨリ川上喜之助殿被參候四ツ時被歸候

外無事

三月十日 雨

一辰下ノ信下ノ四ツ後ヨリ被參候

外無事

三月十一日 大晴

一四ツ前出殿同刻過御暇掛喜入屋シキニ壹刻差越歸宅七ツ後小山田勤兵衛殿町田助太郎殿被參候

三月十二日 大晴

一五ツ過鹿府出立ニ而吉利エ佛詣爲差越也伊集院町ニテ昼飯ハツ半時分吉利假屋迄着ナリ役人物奉行諸役々迎ナリ尤日置麓迄吉利役人初ヨリ伺申越有之也

三月十三日 曇夕雨

一四ツ過ヨリ木場深固院 重盛公 御石磁工參詣トシテ差越歸掛霞ヶ嶺茶屋へ立寄日入過假屋迄歸宅尤深固院住持ヨリ色々馳走イタシ候事日録五十疋遣ス

三月十四日 雨

一八ツ前ヨリ園林寺エ佛詣其ヨリ勝雄寺エ詣大鐘時分歸宅尤園林寺住持ヨリ色々馳走イタシ候尤日録遣ス

一夜入時分ヨリ役人物奉行其外奥通人數工焼酎吞セ候皆々難有御禮申出候

三月十五日 大晴

一九ツ時分ヨリ濱工差越歸掛松浦屋鋪工立寄七ツ過假屋へ歸宅根占四方左衛門持馬栗毛五才持馬川原毛ト繰替致則引入候尤鐵炮馴シ方等イタシ候處餘程無事ニ而無是上仕合ニ而事夜入過鎌田市兵衛殿被參候則脇方宿工差越候事

三月十六日 八ツ時雨

一鬼丸大明神御祭ニ付右下馬場ニ而馬寄有之見物トシテ九ツ時分ヨリ差越候處ケ様之雨天候得トモ伊作永吉杯ヨリ相應ニ寄モ有之尤御廐ヨリモ三四人被參天氣モ兎哉角トモタヘ一日之慰ニハ相成候事

市立モ相應ニ有之候事

三月十七日 晴

一九ツ時分園林寺エ佛詣イタシ直ニ歸宅

外無事

三月十八日 晴

一早朝雄子駈トシテ差越候得トモ取得無之候四ツ過ヨリ役人物奉行其外皆々鐵炮相企出張大鐘時分相齊歸掛坂口玄達處エ參リ具候様申出候ニ付差越候處詰役人殿罷出色々馳走共ニ而五ツ半假屋工歸宅尤役人物奉行其外皆々ニ日録遣スナリ

三月十九日 晴

一九ツ時分吉利假屋出立ニ而伊集院町ニ暫ク立寄横井町ニ而晝飯仕

廻夜入前鹿館ニ歸宅市兵衛殿ニモ同道也

三月廿日 曇

一四ツ時壹刻出勤御暇掛喜入屋鋪工差越九ツ時歸宅 尤今日ハ騎隊式日前ニ而候得共足ニ腫物イタシ不罷出傳言致置ナリハツ後ヨリ市兵衛殿源五右衛門殿被參七ツ過被歸候事

四ツ前長谷次郎太殿被參候事

三月廿一日 雨

一四ツ前治部様御出直ニ御立也

三月廿二日 半晴

一四ツ後安之介勇四郎萬之進參リ暫ク咄ニ而歸候ハツ後西田次郎太殿被參候

三月廿三日 曇風

一七ツ時分ヨリ佐平太殿市兵衛殿源五右衛門殿安之介殿萬之進殿被參候夜入四ツ前被歸候尤佐平太殿杯鎗道具拵方ナリ先日ヨリ足エ腫物イタシ他出不致候

三月廿四日 晴天

一鳴津内藏人殿來ル廿八日出立ニ而武館工參勤之由ニ而四ツ後暇乞トシテ新宅方へ御出給リ候事

三月廿五日 晴

一五ツ前鎌田市兵衛殿被參候七ツ後安之介殿被參候 喜入父上様ヨリ御狀被下候西田大野家存外之仕合ニ而今日御ト、様御孫オカスドノ此方へ被參候

三月廿六日 曇

一於訓練場大砲御家老見分有之候由尤詰所御手當人數之由ハツ後ヨリ鶴千代殿被參候七ツ過ヨリ萬之進殿佐平太殿助八殿鎗

道具拵方トシテ被參夜入五ツ過皆々被歸候ハツ前源五右衛門壹刻參リ候

三月廿七日 晴

一五ツ過内藏人殿所エ暇乞トシテ差越候尤明日出立之由候 九ツ過内山四郎次殿被參候ハツ後ヨリ辰下ノ信下ノ被參候夜入時分ヨリ町田佐次右衛門下ノ市兵衛殿被參四ツ前被歸候 朝四ツ肝付郷右衛門殿壹刻被參候事

三月二十八日 大晴

一四ツ時出勤御暇掛喜入屋敷ニ差越ハツ前歸宅 五ツ過孫兵衛殿被參候

三月廿九日 半天

一詰前ニ而四ツ時出勤ハツ後御暇ナリハツ後ヨリ田代源五右衛門殿參リ同刻過被歸候九ツ前ヨリ才福様御出夜入四ツ前御歸ナリ西田次郎太ニモ參リ候 一今日御役替左之通

御勘定奉行

勤方は追之通

鳴津 左膳

御用人

川上正十郎

外人數畧ス

四月朔日 晴 亥

一四ツ前出殿九ツ前御暇掛喜入工差越ハツ前歸宅尤每朔之 御條書拜被仰付候 朝市兵衛殿被參候ハツ後ヨリ佐野矢左衛門參リ刀拭方イタシ候事

四月二日 曇

四ツ時出勤九ツ前歸宅七ツ後市兵衛殿被參直ニ被歸候事

竹下ノ新ドノ被參候

一騎兵隊式日前ニ而四ツ前ヨリ訓練場へ出席八ツ後相濟歸宅七ツ前

壹刻田代源五右衛門參り候

四月四日 曇

一四ツ時出勤同刻過御暇其ヨリ同席中企ニ而谷山工遠馬トシテ差越

日入時分歸宅

一今日迄ハ詰前ニ而箱之義ハ主膳殿ヨリ次越給り候由

四月五日 曇

一四ツ前關山糺殿壹刻被參候

大鐘過シハラク市兵衛參り候

四月六日 雨

一七ツ後ヨリ源五右衛門市兵衛殿被參夜入四ツ前被歸候外無事

四月七日 雨

一大鐘時分ヨリ三原藤十郎殿藥丸猪之介殿鎌田市兵衛殿被參夜入四

ツ時被歸候事

四月八日 小雨

一町田家才汲様花岡才通様永谷才須賀様御出夜入四後御歸ナリ

四月九日 大晴

一無事

四月十日 晴

一四ツ前西出次郎太參り候八ツ後大野多宮殿被參候夜入前ヨリ山内

良介殿被參候七ツ後町田家へ差越馬乘方相願直ニ歸宅

四月十一日 大晴

一四ツ後寄詰工罷出候様問合相違直ニ出勤八ツ後歸宅四ツ後新之介

殿壹刻被參候朝市兵衛ニモ被參候

夜入前ヨリ福永直之丞殿山之内賢助殿京兵衛殿正之助殿次郎太殿

被參候四ツ過被歸候

四月十二日 晴

一寄詰トシテ四ツ時出勤八ツ後御暇掛喜入工壹刻差越直ニ歸宅

四月十三日 晴

一五ツ過ヨリ聖堂馬乘馬場ニ而大坪流大日附衆御見分有之出席九ツ

前相濟歸宅七ツ時分重富へ罷出夕歸掛喜入ニ差越夜入四ツ後歸宅

四月十四日 曇

一四ツ時寄詰トシテ出勤同刻過御暇直ニ谷山へ喜入ヨリ父上様方御

遠馬企ニ而御出ニ付差越夜入前歸宅

四月十五日 雨 丑

一四ツ前喜入工差越其ヨリ出勤四ツ後御暇歸宅尤一昨日御役名通達

一件ニ付家來共些不届之儀有之明日ヨリ一七日料詰致善也

四月十六日 晴

一四ツ前出勤八ツ後歸宅大鐘時分ヨリ御廐工馬乗トシテ差越直ニ歸

宅夜入前ヨリ宮里孫之進殿市兵衛殿被參五ツ過被參歸候事

四月十七日 風

一四ツ前出勤八ツ後歸宅先口湯治御暇書差出置候處願之通今日御張

紙ニ而御暇被下候昨晩ヨリ今日ニ至度々山川佐多邊工異國船相見

得候由ニ而早打參り候事

四月十八日 晴

一四ツ時出勤八ツ後御暇ナリ

去ル正月爰許出帆シ大砲船三艘江戸之様罷登筈候故去月十九日夜

四國邊ニ而大風ニ逢一艘ハ伊豫宇和島工取付一艘ハ阿波大島トイ



フ所エ取付一艘ハ志州鳥羽エ取付候由申來候段今日都而之左右承  
リ少々之破損ハ爲有之由候得共無難ニ而候我々共迄難有次第安心  
イタシ候事

一昨日ヨリ佐多邊工異國舟參リ碇ヲ卸候由ニ而大騒動之由候處今  
朝出帆イタシ候段注進承リ候事

四月十九日 晴

一四ツ時出勤八ツヨリ喜入エ差越夜入前歸宅

一御下、様ニハ今日ヨリ踊之内栄之尾温泉エ御湯治トシテ六ツ過御

船ヨリ御出ナリ尤チカニモ御同道申上差越候事拙者ニハ來ル廿二

日方ヨリ差越賦ナリ

四月廿日 半晝ヨリ小雨

一四ツ時出勤八ツ後御暇也

七ツ後ヨリ入來ヤシキエ差越夜入四ツ過歸宅

四月廿一日 半

一四ツ時出勤八ツ後歸宅

七ツ後ヨリ喜入ヤシキニ差越其ヨリ重富ヘサシ越夜入四ツ半過歸  
宅

八ツ後源五右衛門市兵衛參リ候事

四月廿二日 大晴

一四ツ時出勤八ツ御暇也

今八ツ後ヨリ踊栄之尾ヘ湯治トシテ差越候

霧島栄之尾旅中日帖寫

一廿二日八ツ船ヨリ山元新之助殿同道ニ而加治木迄大鐘時分着也

四月廿三日 大晴

一五ツ過加治木町出立栄之尾迄大鐘時分着直ニ入湯ナリ

四月廿四日 雨

一無事 入湯

四月廿五日 雨

一前条同斷

四月廿六日 雨

一同斷

四月廿七日 晴

一入湯無事

四月廿八日 晴

一無事

四月廿九日 大雨

一人湯

四月晦日 雨

一前条同斷

五月朔日 雨

一人湯無事

五月二日 半

一人湯無事

五月三日 半

一人湯無事

五月四日 半

一人湯無事

五月五日 雨

一人湯無事

昼時分壹刻大野鉄兵衛殿見舞ナリ

五月六日 小雨入梅

一朝五ツ前榮之尾温泉出立ニ而都城見物トシテ差越不案内之道筋ニ而漸々尋大鐘時分都之城町工着イタシ候處郡見廻等參り宿手當等イタシ旦那ヨリ飯米等モ御丁嚙ニ被成候事尤供鯨島幽永山三彌蜂須賀東一郎也

五月七日 小雨

早朝 豊前殿御小納戸福山平左衛門御使ニ而今日ハカ様ニ天氣モ不宜候間古跡見物之儀ハ取止御咄ニ罷出候様御使被下御禮申上直ニ御假屋工御伺トシテ 芳壽院様御方皆々様所工罷出直ニ御假イタシ候亦々七ツ後ヨリ罷出候處色々ノ御馳走共ニ而夜入四ツ前旅宿之様歸候

今日モ早朝ヨリ留守居根占沖之丞郡見舞一人詰居旁世話イタシ呉候事

五月八日 曇 夕ヨリ雨

一四ツ時分ヨリ古跡見物トシテ差越安永地頭假屋ニ而晝飯七ツ半時分歸尤案内郡見廻也

五月九日 晴

一五ツ時分御假屋工御禮トシテ罷出其ヨリ打立福山迄七ツ時分着尤都之城ヨリ出府之人大河原八郎右衛門ト申人御付被遊中途ニ而モ立宿等有之末吉之内ニテ晝飯福山ニモ都之城假屋へ案内有之色々馳走共ニ而夜入四ツ過乘船尤右船モ都之城御用船ニ而彼方ヨリ御手當被成候

五月十日 晴

一四ツ時鹿兒島工着也  
旅中是迄

五月十一日 小雨

一御ト、様并チカ昨日栄之尾御立今朝濱之市ヨリ御乗船ニ而御中途御無事九ツ時爰許工御着也

五月十二日 晴

一四ツ時御届トシテ出勤九ツ後御假掛喜入工壹刻差越歸宅  
喜入上様今日御歸有之哉ニ付大鐘時分ヨリサシ越夜入四ツ後歸宅

五月十三日 雨

一八ツ後ヨリ於砲術館騎兵隊稽古右之出張夜入前歸宅

五月十四日 半

一四ツ時出勤八ツ後御假掛喜入屋シキエサシ越夜入前歸宅

五月十五日 小雨

一四ツ前 御祝儀トシテ出殿同刻過御假ナリ八ツ後ヨリ喜入工差越

七ツ後ヨリ亦々砲術館騎兵隊稽古トシテ出張夜入前歸宅

五ツ時分仁禮平左衛門殿孫兵衛殿被參候

五月十六日 夕雨

一九ツ過ヨリアラ田御隠居エサシ越大鐘前歸宅

五月十七日 夕ヨリ雨

一七ツ後ヨリ町田佐次右衛門殿被參夜入過被歸候

五月十八日 雨

一四ツ前安之介殿萬之進殿壹刻被參候

大鐘時分ヨリ治部様新之助殿市兵衛殿源五右衛門殿清太ニモ參り

緩々咄等ニ而四ツ時御退出ナリ

勝日十左衛門尋トシテ見舞ニ付同座工呼出緩々咄候事

五月十九日 半晴

一四ツ前新之助殿壹刻被參候

永山 三彌

外二人

右向へ方へ馬見出方トシテ今日ヨリ遣ス島津伯耆殿去ル十二日  
御下リニ付肴一折祝儀トシテ今日使ヲ以遣ス

五月廿日 晴天

一無事 八ツ前町田佐治右衛門下ノ壹刻被參候

五月廿一日 丑 晴朝立雨

一騎兵隊式日前候得トモ先日ヨリ齒之痛有之罷出躰無之勇四郎エ相

七ツ後市兵衛殿壹刻被參候

頼届申出候事

七ツ後市兵衛殿壹刻被參候

五月廿二日 朝立雨昼晴

一四ツ前新之助殿壹刻被參候事

五月廿三日 朝立雨

一四ツ後

大中公エ參詣直ニ歸宅

七ツ後ヨリ舉動稽古トシテ砲術館へ出席夜入前歸宅

一青毛約五才永山三彌今日志布志ヨリ貫引歸候事

五月廿四日 晴

一四ツ後ヨリアラ田エ差越夜入前歸宅

五月廿五日 晴

一八ツ後ヨリ於訓練場騎兵隊稽古有之候へト毛齒之痛ニ而届申出置也

五月廿六日 晴

一齒痛イマタ不宜他出等モ不致候

五月廿七日 晴

一七ツ時分ヨリアラ田ヘサシ越夜入前歸宅

五月廿八日 晴

一四ツ時出勤同刻過御暇ナリ

五月廿九日 晴

一嶋津務殿詰前候へトモ頼被遣五ツ時出勤九ツ後御暇歸宅

六月朔日 晴

一四ツ時 御祝儀トシテ罷出八ツ後歸宅七ツ後知覽へ壹刻差越直ニ

歸宅尤先達而伯耆殿着ニ付候事

六月二日 晴天

一四ツ前出勤八ツ前御暇イタシ歸宅七ツ時分ヨリ重富へ罷出夜入四

ツ後歸宅

六月三日 晴

一四ツ時出勤八ツ後御暇

六月四日 晴天 丑

一早朝騎兵隊式日ニ付訓練場へ出席五ツ後歸宅直ニ出勤八ツ後歸宅

七ツ後ヨリ治部様市兵衛源五右衛門川上喜之助佐平太殿被參五ツ

過被歸候事

六月五日 半

一四ツ時出勤八ツ後歸宅

六月六日 晴

一四ツ前出勤同刻過御暇直ニ谷山へ遠馬トシテ差越夜入前歸宅尤同席中

六月七日 雨

一八ツ前ヨリ佐シ下屋シキへ豚殺企ニテサシ越夜入過歸宅

六月八日 晴

一 昨晚ヨリ齒痛ニ而朝稻三益相頼候事

六月九日 晴

一無事

六月十日

一 御卜、様御事早朝御出立ニ而吉利霞ヶ峯へ御越ナリ

六月十一日 晴

一 八ツ後鳥丸次右衛門市兵衛参り候七ツ後西郷幽泉殿被参候事

六月十二日 晴

一 大鐘時分ヨリ喜入屋シキヘサシ越四ツ後歸宅

六月十三日 晴

一 四ツ時出勤同刻過御暇

一 大カネ時分ヨリ母上様御姉様御出ニ而ユルユルニ階ニ而御咄夜入

九ツ時分御歸ナリ

六月十四日 晴

一 八ツ後源五右衛門殿市兵衛殿宣刻参り候事

六月十五日 晴

一 早朝出立ニ而吉利ヘサシ越候尤霞ヶ峯へモ壹刻立寄八ツ時分假屋

追着

六月十六日 晴

一 吉利滞在 無事

六月十七日 晴

一 清猷院殿一周忌法事ニ付四ツ時ヨリ園林寺へ差越八ツ後相濟假屋

へ歸ル

一 早朝町田助太郎殿西田次郎太殿長谷次郎太殿被参寺の方へモ被参

候

六月十八日 晴

一 八ツ後吉利假屋出立霞ヶ峯へ暫ク寄夜入四ツ時歸宅

六月十九日 曇

一 重富ヨリ相談之儀有之候間早々壹刻参り候様申來候ニ付八ツ前ヨ

リ罷出五ツ過歸宅

六月廿日 晴

一 夜入前ヨリ喜入屋シキエ差越四ツ前歸宅

六月廿一日 晴

一 喜入御姉様九ツ時壹刻御出昨晚ヨリ妻些不塩梅故御見舞也

一 八ツ前ヨリ喜入母上様御出被下夜入四ツ後御歸被遊候事

六月廿二日 晴

一無事

六月廿三日 晴

一 四ツ前

一 大中公エ参詣夫ヨリ鉄炮ヘサシ越七ツ後歸宅

一 大鐘時分ヨリ父上様治部様市兵衛殿次郎太参り夜入四ツ後御歸ナ

リ

六月廿四日 晴

一無事

六月廿五日 晴

一 大鐘過ヨリ喜入屋シキヘサシ越夜入四ツ過歸宅

六月廿六日 晴

一 御卜、様些御不塩梅ニ而ヨシ利ヨリ今晚御歸之筈ニ而横井追御迎

トシテサシ越候處御塩梅モ考候ヨリモヨロシク被爲入候爰許追九

ツ時分御安着直ニ朝稻三益参り御藥等差上候事

六月廿七日 晴

一 御塩梅少々ハ御快ク被爲入候事

外無事

六月廿八日 雨

無事

六月廿九日 晴

無事

才福様七ツ後ヨリ御出也

御下、様些御不塩梅ニ而今晚ヨリ御夜起也

七月朔日 晴

一 四ツ時出勤ハツ後歸宅

一 少々ハ御塩梅ヨロシク被爲入候事

七月二日 晴

一 四ツ時出勤九ツ後御暇也

七月三日 晴

一 四ツ時出勤ハツ前歸宅

一 四ツ前喜入主水殿壹刻御見舞候事

七月四日 晴

一 四ツ時出勤同刻過御暇也

一 御下、様御塩梅餘リヨロシク不被爲入奥外夜起中付候事

七月五日 曇

一 御同變

七月六日

一 同斷

七月七日 曇

一 御下、様御塩梅余リ不宜出勤モ取止候事

七月八日 晴

一 御同様

七月九日 晴

一 今日御差圖御用承知イタシ候得トモ治部様へ名代御頼申上候處縁

頭願之通被仰付候段承知仕候御禮廻ハ安之介殿へ相頼候事

七月十日 晴

御下、様少々ハ御快ク被爲入候事

七月十一日 晴

一 無事

七月十二日 曇

一 御塩梅少々ハヨロシク被爲入候事

七月十三日 曇

一 御同様

一 盆ニ付御年長被仰付候事

七月十四日 曇

一 早朝護生寺へ佛諸直ニ歸宅

七月十五日 晴

一 五ツ時ヨリ福昌寺へ御年長トシテ罷出ハツ時分相濟歸宅

七月十六日 晴

一 無事

七月十七日 晴

一 無事

七月十八日 晴

一 御塩梅少シツ、ハヨロシク被爲入候事

七月十九日 半

一 九ツ後出勤八ツ後歸宅

七月廿日 曇

一無事

七月廿一日 同

一無事

七月廿二日 曇 丑

一 早朝調練場へ出席也

七月廿三日 晴

一 大中公工代参申付候事

七月廿四日 晴

一無事

嶋津伯耆殿昨日

御家老被仰付今日肴等遣シ候事

七月廿五日 晴

一 出勤掛知覧へ祝儀トシテサシ越八ツ前歸宅

七月廿六日 曇

一無事

七月廿七日 晴

一 四ツ時出勤八ツ後歸宅

七月廿八日 晴

一 四ツ時出勤八ツ前歸宅

七月廿九日 晴

一無事

八月朔日 曇

一 五ツ過出勤九ツ後御暇掛重富へ罷出其ヨリ垂水へモ罷出歸宅

八ツ後ヨリ喜入下屋シキへ

父上様御滞在ニ付御祝儀トシテ参上鹿籠へモサシ越歸宅

八月二日 曇

一 四ツ時出勤八ツ後歸宅

八月三日 雨

一 四ツ時出勤八ツ後歸宅

八月四日 雨

一 四ツ時出勤八ツ後歸宅

八月五日 曇 丑

一 早朝調練場へ出席四ツ後ヨリ出勤八ツ後歸宅

八月六日 曇

一 四ツ時出勤同刻過御暇也

八月七日 晴

一 御卜、様御塩梅モ御トフヘシ

八月八日 晴

一無事

八月九日 晴

一無事

八月十日 晴

一無事

八月十一日 半

一無事

八月十二日 半

一同斷

八月十三日 同

一 八ツ後ヨリ成田家へ出席夜入前歸宅

八月十四日 雨

一 無事

八月十五日 晴雨交 無月

一 四ツ時出勤同刻過歸宅

七ツ時分ヨリ町田家家督之御禮并御目見祝ニ付サシ越夜入五ツ歸宅

八月十六日

一 無事

八月十七日 大雨 丑

一 無事

八月十八日 雨

一 無事

八月十九日 曇

一 御ト、様御塩梅余リ宜シク不被爲入

大中公エ 御占イタ、キ候處醫師モ入來真齋殿へ相頼方宜シクト

ノ事ニ而今晩ヨリ相頼候事

八月廿日 晴

一 五ツ前ヨリ福昌寺へ 御法事御年長詰トシテ罷出八ツ後相濟歸宅

八月廿一日 晴

一 御ト、様御トフヘシ

八月廿二日 晴

一 無事

八月廿三日 半

一 無事

八月廿四日 雨

一 無事

八月廿五日 晴

一 無事

一 御役替段々有之

八月廿六日 晴

一 九ツ時分ヨリ鹿籠御姉様御出御暇也

八月廿七日 晴

一 松平時之助様御弟柳澤茂之丞様御死去ニ付宰相様 御後弟様之御

續合ニ而伺 御機嫌四ツ時出殿同刻過歸宅

一 壹刻入來院愛之助殿一昨日詰衆被仰付候ニ付祝儀トシテ差越候事

八月廿八日 晴

一 御ト、様御塩梅御トウヘンニテ被爲入候出殿不致也

靈社祭トシテ但馬守八ツ時分参り候事

八月廿九日 晴 丑

一 御ト、様御同様

七ツ後喜入母上様御出夜入五ツ前御歸ナリ

八月晦日 晴

一 御ト、様御同様

一 入來慎齋殿ヨリ朝稻三益殿へ相談イタシ御藥差上度被申今日ヨリ

三益殿出會相談ニ而御藥調合被差上候事

夜入過ヨリ町田助太郎殿被參候

永吉オスガ様ニモ御出ナリ

九月朔日 晴 宇

一 御卜、様御塩梅昨日御同様

外無事

九月二日 陰

一 御塩梅御同様

四ツ前宮之原主計殿御見舞也

九ツ過相良治部様御見舞ナリ

七ツ過ヨリ永吉鹿籠千石馬場ニシ田ヨリモ御出ナリ

九月三日 陰

一 御塩梅御同様

八ツ後次郎太正之助用事有之參り候事

九月四日 同

一 前條同斷

七ツ過ヨリ喜入ハ、上様御見舞トシテ御出御泊ナリ

一 林正之助殿無據御用有之早天ヨリ吉利へ頼越ナリ

九月五日 小雨 末

一 御塩梅御同様

騎兵隊日ニ候得トモ御塩梅故頼越置也

九月六日 晴

一 御塩梅御同様

四ツ後宮之原主計殿被參候事

九月七日 曇小雨

一 御塩梅御同様

八ツ後入來慎齊殿被參候朝稻ニモ被參候事

四ツ前主計殿被參候事

九月八日 曇 小風

一 御塩梅御同様

九月九日 晴

一 御祖父様御塩梅今朝ヨリヨロシキ御方不爲被入極々御大切之御模様御座候處七ツ前御死去也何モ殘心涙計申計也

九月十日 晴

一 御死去御届申上候拙者ニハ表向祖父ノ續ニ而忌三十日服百五十日

ニ候領分月代五十日立方諸事慎之日數先年例通申渡ナリ

一 御入棺暮六ツ時也

一 萬事慎申渡也

一 御血脉福昌寺大和工相渡候事

九月十一日 晴

一 暮六ツ時御出棺ナリ

拙者ニモ吉利之様サシ越候事

町田助太郎殿根占孫兵衛下ノ西田次郎太ニモ皆鹿籠ヨリサシ越也

伊集院雪窓院ニ而夜明ス也

九月十二日 晴

一 五ツ時分園林寺迄 御着也

夕六ツ過 内葬相濟也

九月十三日 晴

一 大鐘時分ヨリ園林寺へ差越

天桂院様 御葬式四ツ時分相濟歸宅

九月十四日 雨

一 四ツ過園林寺へ中陰法事トシテ差越諸事大鐘過相濟歸宅

一 江戸表大風 芝御屋敷 御式臺向潰候段飛脚今日相付候出申越候事



九月十五日 風雨

一 九ツ時分墓參致候

根占孫兵衛殿西田次郎太殿ニハ今日打立被歸候林正之助殿ニハ

向宗一件有之滞在相頼置ナリ町田助太郎殿ニハ天氣惡敷滞在也

一 此節御葬式ニ御引セ之御馬役人丸嶺彦太夫へ今日拝領申渡

九月十六日 晴

一 九ツ時分園林寺へ墓參

町田助太郎殿四ツ後打立被歸候事

チカ鹿府ヨリ今日參リ候事

九月十七日 陰天

一 四ツ後佛詣

九月十八日 晴大

一 四ツ後佛詣

五ツ後林正之助殿壹刻被參候事

九月十九日 晴大

一 今日ハ些風邪氣分ニ而佛詣代參助市遣ス

四ツ後庄之助殿壹刻被參候事

九月廿日 陰天

一 風邪氣分ニ而佛詣代參遣ス

四ツ後庄之助殿壹刻被參候事

九月廿一日 陰天

一 四ツ時分佛詣

林庄之助殿一向宗自訴モ大害片付今日被歸候事

一 百姓共ヨリ庄屋郡見廻工相付願出趣有之當年貢少ク旱魃故見掛ニ

而モ申付具候様申出候段庄之助ヨリ申出候ニ付近郷モ其通之筈候

間衆并有之候ハ、不苦候ニ付其通申付段林正之助取次ヲ以丸嶺彦  
太夫工中渡也

一 大鐘時分ヨリ歩行トシテ處々エサシ越夜入前歸リ候事

九月廿二日 陰 晝ヨリ風雨

一 八ツ時佛詣直ニ歸館

一 天桂院様ニ七日御日柄ニ付茶立イタシ候事

九月廿三日 陰天

一 四ツ後園林寺工佛詣直ニ歸館

夕影此邊歩行致シ候事

九月廿四日 大晴

一 四ツ後園林寺へ佛詣直ニ歸館

一 來ル廿九日

天桂院様四拾九日法事此方於園林寺執行イタシ候段鹿府へ申越候

尤鹿府都而留主之事故重之内親類中へ遣シ候様文右衛門方へ申遣

スナリ

九月廿五日 陰

一 四ツ後佛詣

昨日飛脚着之由ニテ山田氏豎山氏肝付甚ドヨリ書狀相届候事

九月廿六日 陰

一 風邪氣分ニテ代詣申付候事

九月廿七日 晴

一 前條同斷

九月廿八日 大晴

一 四ツ時佛詣直ニ歸館

九月廿九日 大晴

一天桂院様二七日ニ御當且四拾九日百ヶ口御法事於園林寺ニ執行ニ  
付四ツ時ヨリ差越七ツ過首尾能相濟歸館

九月晦日 晴

一九ツ時分吉利飯屋出立ニ而中途無事夜入五ツ前安着也  
惣供廻へ酒代少々ツ、遣ス也

神無月朔日 晴

一四ツ前西田次郎太禰孫兵衛殿壹刻被參候ハツ後治部様林庄之助  
ニモ參リ候事夜入過ヨリ市兵衛參リ候事

神無月二日 曇 少風

一無事

神無月三日 小雨

一八ツ後助太郎殿壹刻被參候事

十月四日 大晴

一四ツ後内山四郎次殿被參候ハツ後大野多宮殿被參候  
九ツ時分ヨリ下河邊藤藏殿被參候大鐘過ヨリ安之介萬之進ニモ參  
リ候林正之助ニモ參リ候事

十月五日 陰

一七ツ後ヨリ市兵衛參リ候事

十月六日 同

一八ツ後ヨリ西田次郎太林庄之助參リ候事

十月七日 晴

一天桂院様四七日ニ御當茶立イタシ諸處へ遣ス  
一重富靜洞様ヨリ御狀并精進落トシテ御品被下候事

一永吉ヨリ御出ナリ木脇家ヨリモ御出ナリ

十日八日 晴

一無事

十月九日 大晴

一天桂院様御口柄ニ付護生寺へ代參遣ス  
八ツ後ヨリ町田家才汲様鹿籠才福様ニモ御出ナリ

神無月十日 晴

一拙者ニハ昨日迄三十日ニ御成忌相晴御届トシテ出勤歸掛喜入屋シ  
キエサシ越夜入五ツ過歸宅

十日十一日 晴

一八ツ後ヨリ喜入屋シキヘサシ越七ツ過歸宅

十月十二日 晴

一四ツ前佐司屋シキヘサシ越其ヨリ喜入へ差越同刻過歸宅  
喜入父上様今日田舎之様御越也

夜入過ヨリ母上様御出緩々御咄ニ而御立也水上ヨリ精進落トシテ  
品々取合贈リ給候事

十月十三日 大晴

一四ツ後重留垂水へ罷出直ニ歸宅

十月十四日 晴

一四ツ時出勤ハツ後御暇掛喜入エ壹刻サシ越歸宅

十月十五日 晴

一四ツ時出勤九ツ過歸宅

八ツ後次郎殿庄之助殿被參候

夜入前山之内仁之助殿壹刻被參候

十月十六日 陰

一四ツ後山口右源太殿壹刻被參候事

中村靜左衛門

右今日近習役申付直ニ相詰候事

十月十七日 大晴

一清猷院様御日柄ニ付護生寺へ代參遣ス

一夜入前ヨリ喜入エ差越四ツ時歸宅

一八ツ後市兵衛殿壹刻被參候

一七ツ時分山田十助殿壹刻被參候事

十月十八日 大晴

一無事

十月十九日 晴

四ツ時出勤八ツ後御暇掛喜入へ壹刻差越直ニ歸宅

夜入過ヨリ林庄之助殿被參緩々咄ニ而被歸候事

一腫物イタシ井口良盛相頼候事

十月廿日 雨

一無事

神無月廿一日 晴

一八ツ後ヨリ喜入へ差越候事

外無事

十月廿二日 晴

一無事

十月廿三日 晴

一無事

十月廿四日 晴

一四ツ後喜入へ壹刻差越候事

八ツ後ヨリ柴宗右衛門殿鎌田市兵衛殿林庄之助殿被參夜入過ヨリ

川上喜右衛門殿ニモ被參候事

十月廿五日 雨

一八ツ後ヨリ喜入屋シキ法事ニ付サシ越夜入過歸宅

十月廿六日 晴

一四ツ前西田次郎太殿被參候事

外無事

十月廿七日 晴天

一今日ヨリ詰前ニテ四ツ時出勤八ツ後御暇イタシ候事

神無月廿八日 晴天

一四ツ時出勤八ツ後御暇也

一天桂院様七七日御日柄ニ付才福様才須賀様御出ナリ

十月廿九日 陰

一四ツ時出勤八ツ後御暇也

十月卅日 晴

一四ツ時出勤八ツ前御暇也

夜入前ヨリ喜入屋シキへ差越候事

霜月一日 晴

一四ツ時出勤八ツ後御暇掛喜入へ壹刻差越候七ツ時ヨリ方々忘中之

内見廻給候諸禮トシテ差越夜入前歸宅

霜月二日 朝霜大晴

一四ツ後ヨリ上方へ旁禮トシテ差越八ツ時歸宅

霜月三日 晴

一八ツ後宮里孫之進殿壹刻被參候

大鐘前町田助太郎殿被參候事

十月四日 陰半晴

一四ツ時ヨリ上方へ諸禮トシテ差越候

一於炮術館 御流儀訓練 御家老衆御見分有之候ニ付八ツ前ヨリ罷  
出七ツ過相濟歸館

十一月五日

一五ツ過ヨリ鹿籠屋シキ左中殿所へ壹刻サシ越其ヨリ於訓練場騎兵  
隊稽古有之出張七ツ前歸宅  
七ツ後源五右衛門殿壹刻被參候  
夜入前ヨリ喜入屋シキへ差越五ツ半時分歸宅

霜月六日 陰天

一無事

霜月七日 今朝大霜 日中大晴天

一八ツ後壹刻市兵衛殿  
大鐘時分壹刻青毛ヨリ乘廻シ致候事

霜月八日 大霜大晴

一七ツ後ヨリ重富エ罷出夜入九ツ過歸宅

霜月九日 雨

一八ツ後ヨリ怨三殿與雪市兵衛殿被參候  
助太郎殿ニモ被參候事

霜月十日 時雨天

一無事

霜月十一日 時雨

一四ツ時分川尻へ出張七ツ過歸宅

霜月十二日 小雨

一四ツ前市兵衛孫兵衛殿被參候事

霜月十三日 晴

一八ツ前ヨリ炮術館へ出張夜入前歸宅

十月十四日 大晴

一曉大鐘前打立喜入瀬々申へ遠馬トシテ差越夜入前歸宅尤 父上様  
ニモ御出也

十一月十五日 晴

一四ツ時出勤九ツ過歸宅  
一七ツ過ヨリ  
御祖父様愛之介殿治部様喜入  
母上様御姉様御出御緩々御咄ニ而夜入四ツ過皆様御立也

十一月十六日 晴

一四ツ時出勤同刻過歸宅

一八ツ後ヨリ下方へ色々ノ禮廻トシテ差越夜入前歸宅  
十一月十七日 晴 未

一四ツ前ヨリ訓練場へ騎兵隊式日ニ付出張日入過歸宅

一花岡才通様御出也

十一月十八日 雨

一四ツ後ヨリ下方へ彼是之禮廻トシテ差越八ツ後歸宅  
一喜入田舎ヨリ 御出并夫贈リ被下候

十一月十九日 大晴

一上射

一下方へ壹刻差越八ツ前歸宅

十一月廿日 晴

一七ツ後ヨリ嶋津登殿主殿殿藥丸猪之助殿御出緩々御咄ニテ夜入四  
ツ前御歸宅

山本新左衛門殿西太郎兵衛殿林庄之助殿西田次郎太殿山元新之助  
殿被參候事

十一月廿一日

一四ツ後ヨリ原良野屋シキヘサシ越七ツ過歸宅

夜入前ヨリ喜入ヘ差越夜入九ツ過歸宅

一喜入父上様ヨリ鳩被贈下候

十一月廿二日 雨

一四ツ前庄之助殿被參候

一喜入ヘ鳩御禮書狀差上候事

十一月廿三日 晴 末

一四ツ前ヨリ騎兵隊式日ニ付調練場ヘ出張大鐘時分歸宅

夜入前市兵衛殿被參候事

十一月廿四日 晴

一喜入ヨリ父上様御歸ニ付谷山町迄御迎トシテサシ越大鐘時分歸宅

其ヨリ亦々喜入ヘサシ越四ツ過歸宅

十一月廿五日 晴天

一喜入ヨリ御土産物被下候

一四ツ後ヨリ喜入エサシ越七ツ後歸宅

一夜入前ヨリ 父上様御夜咄トシテ御出尤

治部様勇四郎殿萬之進殿下河邊氏ニモ被參候四ツ過御立ナリ

十一月廿六日 晴

一四ツ後ヨリ喜入エ差越夜入過歸宅

十一月廿七日 晴

一詰前ニ付四ツ時出勤八ツ後歸宅

一父上様今日亦々喜入エ差越

十一月廿八日 時

一四ツ後ヨリ座鐵砲トシテ差越夜入前歸宅尤洲崎治々八射場也

十一月廿九日 末

一騎兵隊式日ニ付四ツ前ヨリ調練場ヘ出席大鐘過歸宅

十二月一日 晴

一四ツ時出勤八ツ後御暇也

十二月二日 半

一四ツ時出勤九ツ過御暇掛喜入エ差越候事

夜入前ヨリ北原甚助殿被參候事

夜入過ヨリ喜入 母上様御出下サレ候事

尤内方病氣ニ付御見舞被下候事

十二月三日 晴

一五ツ前ヨリ新射場ヘ爲鐵砲サシ越勝利ニ而夜入前歸宅直ニ重留ヘ

入來院同道ニテ罷出九ツ過歸宅

十二月四日 晴

一九ツ過ヨリ喜入屋シキエ差越八ツ過歸宅又々夜入前ヨリ差越候事

御兄様江戸ヨリ御下リニ而今日出水御着之御左右申來候事

一夜入四ツ過市兵衛參り候事

十二月五日 雨

一八ツ後ヨリ喜入屋シキエ差越夜入四ツ過歸宅

一父上様喜入ヨリ今日御歸被遊候事

十二月六日 陰天 丑

一騎兵隊式日前ニ候得トモ 御兄様御下リニ付色々之儀モ有之頼越

ナリ

四ツ後ヨリ喜入エサシ越夜入四ツ過歸宅

十二月七日 陰天

一曉出立ニ而伊集院迄御迎トシテ鶴千代様治部様御同道ニ而サシ越

候處大カタ七ツ過時分伊集院町迄無御恙御着ニ而皆々安心イタシ  
候則色々之御咄等ニ而夜入時分伊集院打立爰許迄五ツ前着也

十二月八日 陰天

一四ツ後ヨリ喜入エサシ越待上居候處七ツ過愈御機嫌ヨク御安着也  
尤御客ニモ餘多有之誠ニ賑々敷御祝言也

十二月九日 晴

一四ツ前ヨリ喜入エサシ越夜入九ツ前歸宅  
一加治木兵庫様長々御病氣之處御養生不被爲叶昨日御卒去之段承則  
今朝御悔等申上置也

十二月十日 晴

一九ツ時分ヨリ喜入エサシ越七ツ後ヨリ父上様御同道ニ而赤松主水  
殿所エサシ越夜入四ツ時歸宅

十二月十一日 晴

一九ツ過ヨリ喜入エ差越其ヨリ入來院家へ差越夜入四ツ過歸宅  
十二月十二日 晴天

一四ツ時ヨリ川尻工騎兵隊式日ニ付サシ越暮前歸宅其ヨリ直ニ喜入  
屋シキエサシ越四ツ過歸宅

師走十三日 晴天

一八ツ後ヨリ炮術館式日ニ付出張歸宅  
夜入過ヨリ次郎太庄之助爲用事參リ候事

同十四日 晴

一來ル十六日騎兵御家老見分有之筈ニ付今日惣揃稽古ニ付四ツ時ヨ  
リ訓練場へ出張大鐘時分歸宅

同十五日 曇

一四ツ時出勤御暇掛喜入エサシ越暮歸宅

師走十六日 晴

一騎兵見分ニ付曉大鐘時分ヨリ訓練場エ出張大鐘過首尾能相濟歸宅  
一暮前ヨリ朝稻三益殿入來慎齊殿西太郎兵衛殿禰孫兵衛殿鎌田市  
兵衛殿被參候尤

治部様ニモ五ツ前御出皆々能キ氣分ニ而四ツ過御歸宅

一四ツ半時分ヨリ一橋川上家エ出火有之大騒動九ツ過沈火ニ相成皆  
々引取也

十二月十七日 小雨

一四ツ時出勤八ツ後歸宅其ヨリ直ニ永吉屋シキエサシ越夜入九ツ前  
歸宅

師走十八日 半天

四ツ時出勤八ツ後歸宅

一炮術館三八式日今日迄ニ而當年ハ取止相成段與方ヨリ承候ニ付同  
席中順達イタシ置也

一一昨日役人交代トシテ丸嶺彦太夫參リ今日代合島濱分右衛門被歸  
候事

一八ツ半過ヨリキ入屋シキエ差越夜入九ツ過歸宅

師走十九日 小雨

一四ツ時出勤八ツ後歸宅其ヨリ直ニ鉄炮場へ出張也  
十二月廿日 曇天

一四ツ前ヨリキ入屋シキエ差越其ヨリ出勤八ツ歸宅

一父上様今日亦々喜入之様御越也

師走廿一日 晴天

一五ツ過ヨリ谷山町エ同席中遠馬相企サシ越暮歸宅

一暮時分ヨリ三原藤十郎殿藥丸猪之助殿鎌田市兵衛爲咄被參四ツ過

歸ラレ候事

師走廿二日 雨天

一四ツ時出勤八ツ後歸宅

同廿三日 晴

一五ツ時分爲鐵炮新射場へ出張歸宅

師走廿四日 小雨天

一風邪氣分ニ而引入朝稻三益殿相頼候事

同廿五日 曇天

一風邪氣ニ而他出不致候事

師走廿六日 大晴

一前條同斷

七ツ後壹刻町田助太郎殿被參候事

十二月廿七日

一風邪氣ニ而他出不致候事

師走廿八日 陰天

一四ツ前喜入屋シキエ寒中歳暮之御祝儀トシテ差越其ヨリ出殿八ツ

後御暇掛垂水屋シキエ罷出其ヨリ重留御三居様御方へ罷出候處周

防様御出ニ而御會席有之私ハ五化相勤相濟會席等頂キ七ツ過歸掛

都之城屋シキエ差越直ニ歸宅

一今日ヨリ詰前也

十二月廿九日 陰天

一四ツ時出勤九ツ過御暇歸宅

一暮時分ヨリ夜入中キエ夜咄トシテ差越四ツ過歸宅

十二月卅日 晴天

一四ツ時出勤八ツ後歸宅

一暮時分ヨリ例年之通於奥書院ニ祝式イタシ候事  
年中首尾

小松帶刀日記 (萬延元年)

(米)  
萬延 壬三月十九日改元被仰出候

安政七庚申正月ヨリ

日帳  
大正 三 壬 二 六 九 十一 十二  
小二 四 五 七 八 十

凡日數三百八十四日

平 清廉

- 一 彼岸 二ノ廿五 一大寒 十二ノ十
- 一 入 梅 八ノ六 一 節 分 正ノ十二
- 一 出 梅 四ノ十八 一 春 分 十二ノ廿四
- 一 小 暑 五ノ七 一 夏 至 二ノ廿八
- 一 小 暑 五ノ十九 一 夏 至 五ノ三
- 一 大 暑 六ノ六 一 秋 分 八ノ九
- 一 土 用 三ノ二七、六ノ二 一 冬 至 十一ノ十
- 一 小 寒 九ノ七、十二ノ七 一 冬 至 十一ノ十
- 一 小 寒 十一ノ廿五 一二百十日 七ノ十五

正月元日 晴

- 一 當歲頭御年男勤被仰付居候付朝六ツヨリ御近習番所エ出勤四ツ半
- 一 時御座之間工御出座御一門方御祝義御盃頂載等被爲濟引次御書院
- 一 工御出座御家老若年寄大目附持參太刀ニ而御祝義御土器頂載相濟
- 一 直ニ御引入ニ相成候兩御座共ニ表御年男兩人島津權五郎拙者相勤
- 一 首尾能相濟候事

一 八ツ時退出掛淨光明寺福昌寺五社福ケ迫諏訪社工參詣其ヨリ上方

年頭廻イタシタ歸宅

正月二日 晴

一 吉書初イタシ候事

一 五ツ前出勤明三日御式稽古等有之夕歸宅

正月三日 陰

一 六ツ時出勤

一 四ツ半時御對面所工御出座家柄ニ付而之持參太刀諸地頭持參太刀

相濟御引入掛御書院工御着座家格持參太刀相濟亦々御引入掛御座

之間工御轉座無地頭之御納戸奉行以下御土器頂載相濟而御引入何

モ首尾能相濟候委曲別冊ニ印ス故略ス

一 八ツ後西之上刻之筋ヲ以御對面所工御出座御謠初之御式有之是又

首尾能相濟候事夕御暇歸宅

正月四日 晴天

一 五ツ時出勤

一 四ツ半時御對面處江御出座寺院御目見相濟御引入掛御座之間江御

着座御留守居已下御近習廻之人數へ御土器頂載被仰付相濟而御引

入

一 八ツ後御暇亦々七ツ過ヨリ下方工爲年禮差越夕歸宅

正月五日 陰

一 五ツ時出勤

一 四ツ半時御對面處江御出座寺院御目見相濟直ニ御引入

一 七ツ過御暇歸宅

正月六日 晴天

一 前条同斷

正月七日 曇



一四ツ前出殿十一日御式稽古有之ハツ後御暇夕ヨリ喜入福引トシテ  
差越四ツ過歸宅

正月八日 曇風

一四ツ時出殿ハツ後歸宅

正月九日 風雪

一四ツ時出殿ハツ後歸宅

正月十日 晴大氷

一福昌寺慧燈院淨光明寺工御佛詣ニ付五ツ時ヨリ福昌寺江爲御先番  
差越御先立并御給仕相勤其ヨリ慧燈院迄長上下之儘ニ而股立取御  
供其ヨリ淨光明寺江爲御先番差越旁福昌寺同様何邊首尾克相濟八  
ツ前御殿之樣罷出同刻過歸宅尤表御年男兩人繰廻御供御先番相勤  
候事

一日柄付護生寺工代參遣ス

正月十一日 曇

一六ツ半出勤

一四ツ半時御對面所工御出座御先立相勤其ヨリ直ニ御古書初御規式  
引續御鑑之御祝ニ進ミ廻ニ而九ツ過相濟其ヨリ御引入掛御座之間  
工御着座御内證御鑑之御祝御式ノ日ニ同刻過首尾能相濟御引入八  
ツ過御暇掛喜入屋鋪工差越七ツ過歸宅

一八ツ後刀藏祝内證藏工差越候事

一七ツ後ヨリ荒田御隠居工罷出夜入五ツ過歸宅

覺

〔朱〕  
本文御用人ニ相付申出候事

私事御用有之此節出崎被仰付候跡御臺場之義嶋津隼人方工相頼  
置候得共家來共爲差引方嶋津勇四郎工相頼置候間此段御届申上候

以上

申正月十一日

正月十二日 陰晴交節分

一五ツ過出殿掛上方へ差越其ヨリ直ニ出勤九ツ時歸宅

一來ル十五日御年男勤濟ニ付二種一荷進上ニ而御禮申上御土器頂載

ニ付右進上物之義奏者方書役西田次郎太へ申付表坊主方へ相頼置

候事

一夜入過ヨリ家内中福引於居間企候事

正月十三日 晴天

一四ツ時出殿同刻過御暇掛ニ之御丸御射初之御式有之爲拜見差越九  
ツ迄歸宅亦々直ニ鐵炮場へ出張夕歸宅尤與向取會今日者勝利也夜  
入過ヨリ隣へ差越四ツ時歸宅尤射場人數皆々差越候事

正月十四日 陰晴交

一四時出殿九ツ過御暇

一夕ヨリ喜入屋鋪へ差越四ツ過歸宅

正月十五日 晴天

一五時出殿

一四半時御座之間工御出座月次之通御目見有之直ニ御對面所へ御出  
座飯隈山蓮光院御目見奏者相勤外皆相濟之上御引入之節御先立御  
座之間迄相勤亦々御座之間へ御着座御目見御禮被仰付引續御土器  
頂載被仰付何モ首尾相濟御側役詰所へ打召御禮申出御小納戸詰所  
へモ差越候事尤於御座之間二種一荷進上ニ而表御年男兩人一所ニ  
御目見引續御内證御年男兩人御日見引續表御年男兩人共一所ニ御  
土器頂載引次御内證御年男同斷相濟而御引入ニ相成我々共二モ御  
近習番所へ相下り御小納戸初皆々へ是迄世話ニ相成一禮相述上下

着替表之様御暇ニ而引取候事

一當歲頭御式旁首尾能相勤候付五社福ヶ追諏訪社工爲御禮代參申付  
遣候事

大中公エモ同断

一島津良馬殿今日當番頭御役被仰付候付八ツ後ヨリ彼之宅工差越夜  
入四ツ前歸宅

一隣權五郎殿所工今日迄首尾能何邊相濟候付爲悦差越候事

正月十六日 雨天

一今日ヨリ亦々弓場方出張客屋へ別勤ニ候得共彼是之義有之今日迄  
者弓場方頼越置候事

一四時出殿八ツ前歸宅

正月十七日 晴天

一五ツ時出殿四ツ後歸宅直ニ谷山町工奥向人數此節御年男勤首尾克  
相濟候付相企九ツ前ヨリ左之人數同道ニ而差越候御小納戸見習野

村傳左衛門殿與御小姓平川一二殿谷村愛之介殿法元太郎左衛門殿

田中德次殿指宿雄四郎殿汾陽彦五郎殿汾陽理左衛門殿肥後宗之丞

殿相良量左衛門殿東郷源四郎殿兎玉雄一郎殿山口彦四郎殿伊集院

八郎殿伊集院金之進殿知識尚五郎殿圖師崎何某殿跡ヨリ右松十郎

太殿喜入真之丞殿肝付悦之助殿被參候此方ヨリハ島津權五郎殿稻

留轉殿入來院恰殿拙者差越候夕歸宅

正月十八日 晴天

一今日ヨリ弓場方出張御春屋内容工四ツ時出勤九ツ御暇八ツ時ヨリ  
爲鐵炮出張夕歸宅

正月十九日 曇

一四ツ時御殿工出九ツ過御暇八ツ時分ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅夜入時

分ヨリ軍次郎萬之進藤藏殿被參候

正月廿日 小雨

一五ツ時ヨリ福昌寺順聖院公御日柄付參詣惣御靈牌様工モ御拝申上  
其ヨリ出殿九ツ時歸宅八ツ時分ヨリ谷山工差越夕歸宅

正月廿一日 半晴

一四ツ出殿九ツ時分御暇掛喜入屋鋪へ差越七ツ時歸宅

一近々大守様加世田日新寺殿伊集院妙圓寺殿へ御佛詣ニ付私領吉利

御通行ニ付近日中ヨリ差越居御水茶屋御立寄順聖院様御光越同様

御願申上筋ニ而今日私領御暇申上置候事

一夕ヨリ後醍院彦次郎殿被參日本書記講談有之候事

正月廿二日 雪天

一四ツ時弓場方へ出張其ヨリ直ニ脇田へ治部様加世田野間御神事ニ  
付爲御代參御越居今日御歸ニ付爲御迎差越夕歸宅

正月廿三日 晴天

一四ツ後南林寺工參詣其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅亦々隣權五郎殿宅へ

同席四五人被差越候由ニテ差越四ツ過歸宅

正月廿四日 晴

一四ツ時出殿九ツ過御暇尤今日者御法事相濟候伺御機嫌并ニ此節公  
義御炎上ニ付依御願金納御願之通御免被仰渡候段御到來御祝義尤

七萬兩御上納ニ相成候事

一昨晚喜入父上様御方ヨリ穴并御狀被成下今日直ニ御禮旁申上越候

事

一鎗稽古初メ七ツ後ヨリ山本五百介殿日高軍次郎殿富之介萬之進被  
參候表三本ツ、皆々仕方イタシ候尤内藏殿彌九郎殿梅田家へ入門

候筈ニ付右兩人モ被參候且又先生義ハ無據御差支之由ニ而断申來

候事

正月廿五日 半雨

一四ツ時出殿八ツ前歸宅尤今日ハ御法樂御能於敷舞臺有之拜見被仰  
付候且又明日ヨリ私領へ差越段届旁申置候左候得共未表向御暇不  
相濟候付表向御届之義者明後廿七日ヨリ差越候御届申上具候様書  
役方へ相願置候

一八ツ後ヨリ爲鐵炮出張歸り掛内藏殿所へ五百介軍次郎同道ニ而差  
越候事

正月廿六日 小雨風

一四ツ時弓場方へ出張九ツ時御暇直ニ打立吉利迄夕着尤鯨島惣三殿  
此節御通行ニ付御立場御茶屋向相頼同道ニ而差越候事

吉利滞在中

正月廿七日 晴風

一大心院様御日柄付山下涼代参申付候事

一四ツ後惣三殿同道ニ而池津ヨリ御水茶屋爲見分差越八ツ時分假屋  
へ歸り又々小鳥塚トシテ詰所へ差越夕歸宅

一西田次郎太根寐甚左衛門此節通行ニ付旁刀差引夕方差越候事

一根寐五郎九郎所ヨリ例年之通餅一重差出候事

一山田壯右衛門殿ヨリ書狀鹿府ヨリ参り候事

正月廿八日 晴

一四ツ後ヨリ御水茶屋へ差越昼時分歸宅

一左衛門殿昨日ヨリ被参候由承ル八ツ後壹刻差越直ニ歸宅

一此節御佛詣ニ付山口不阿彌殿爰許泊ニテ参候付假屋ニ而緩々咄夜  
入旅宿へ被歸候事

正月廿九日 晴

一太守様昨廿八日鹿兒島御發駕伊集院へ御泊今日九ツ過池津ヨリ御  
水茶屋へ被爲入暫ク者御立寄ニテ御機嫌能御立ニ相成候事旁御都  
合モヨロシク難有事ニ候尤御茶御菓子御酒御鉢等都而御前へ差上  
り候事

一進上物御棚師玉子一籠密柑一籠内々進上物

一干鯛 一箱 一御菓子 一對但フラスコ 御菓子入

一御茶 一箱 一御酒 一荷

右品々目錄ハ進上尤御目錄御側役山口直記殿方エ差出候事

一御水茶屋へ御入後御目見被仰付難有直記殿へ相付御禮申出候事

一御通行旁御都合宜シク安心イタシ候事

一日置假屋迄伺御機嫌トシテ根寐甚左衛門池端喜右衛門上根三彌差  
越候伊作へ者西田次郎太鳥濱分右衛門坂口玄達差越候事

正月晦日 陰

一加世田へ躡爲見物惣三甚左衛門同道ニ而四ツ過出立七ツ過着イタ

シ候尤川越傳兵衛ト申者ノ所へ差越一宿

二月朔日 晴

一躡爲拜見五ツ過御假屋下エ出張四ツ半時分相初り都而一通相濟候

上御晝ニ相成二度有之候事相濟候ト直ニ上下着用

一新寺殿へ参詣七ツ時分旅宿ニ歸着直ニ打立歸り掛阿多黒江休兵

衛處エ立寄夕出立吉利迄五ツ時分歸宅

如月二日 晴

一上様加世田六ツ時御立ノ由ニ而五ツ時ヨリ御水茶屋へ出張待上居

候處八ツ過御水茶屋へ被爲入御緩々御相付ニテ色々上り物等被召

上御立旁御都合モ宜鋪難有事ニ候七ツ過引取候事

一治部様此節御供ニ付最早只勤方相濟候付今晚者爰許エ御一宿之筈

二而七ツ時分御出直ニ假屋へ御案内申上候事尤書役久保雄右衛門外ニ西田次右衛門五代怨齋田尻善益右人數モ被泊候山口不阿彌殿ニモ爰元泊ニテ假屋へ被參候事尤萬之進ニモ被參候事

一御通行モ首尾能相濟候付爲祝役人物奉行諸役々召出候事尤二才人數野柏子モ有之賑々敷事ニ候

一伊集院御泊宿迄分右衛門三彌差越候事

如月三日 晴

一治部様御歸ニ付木場霞ヶ嶺へ爲御門送次郎太甚左衛門惣三同道ニ而差越候歸リ掛驪イタシ夜入過歸宅治部様ニモ七ツ過木場御先立也外人數モ同道ニ而被歸候事

一御カ、様御方ヨリ御狀壹通相届候事

如月四日 晴

一四ツ過吉利出立ニ而夜入過鹿兒島迄歸着横井迄西田次右衛門青山弓太郎久保雄右衛門町田六郎左衛門殿爲迎被參候今日次郎太甚左衛門惣三萬之進ニモ同道罷歸候事

一今日罷歸リ候得共イマタ御暇内故又々來ル九日ヨリ差越賦ニ而候事

如月五日 晴

一九ツ時ヨリオ福様御出緩々御咄ニ而夜入九ツ過御歸也

一指宿納右衛門殿園田彦左衛門殿隈元直次郎殿西田次郎太殿根藤甚

左衛門殿青山弓太郎殿鮫島惣三殿肝付萬之進殿見舞人數

二月六日 曇風天

一九ツ過ヨリ荒田エ罷出候

一相良治部様山元新之介町田六郎左衛門殿見舞

如月七日 雨天

一能勢權之介山元五百介殿青山弓太郎殿町田佐次右衛門殿久保雄右衛門殿右人數今日被參候夕ヨリ喜入屋敷へ差越夜入五ツ過歸宅

如月八日 曇

一夕ヨリ荒田へ罷出夜入五ツ時歸宅

一山元五百介殿同新之介殿壹刻ツ、被參候根藤甚左衛門青山弓太郎殿被參候

二月九日 半雨

一今日ヨリ吉利江初入部之式ヲ以差越候

一曉七ツ半時分鹿兒島出立伊集院町へ吉利ヨリ人參リ暫ク立寄大橋追着其ヨリ行列右乗物へ乗替八ツ時分仮屋迄安着尤境ヨリ惣人數供也尤此以前ハ御法事彼是之節ニ而初入部之場調兼其故此節也

一吉利着之上上下着用讓寶物役人持出床之前エ相備右拜見相濟而役人初奥通ノ人數エ孟其外諸役々へ通酒載カセ相濟候其儘ニ而吸物

取肴等差出孟取替飯迄仕廻上下着替式相濟候

一才近下ノニモ同道也

如月十日 雨

一七ツ後ヨリ濱邊へ差越直ニ歸宅

一天桂院様御日柄付山下涼代參相勤候内證ヨリ年寄梅野代參申付候事

二月十一日 雨天

一四ツ時歴計目麻袴着用

御靈大明神兩諏訪社建部大明神鬼丸大明神山王平野社稻荷江參詣直ニ歸宅引續キ書院ニ而五社參詣相濟候式有之候事

一五社參詣掛假屋内權現工參詣御正體御劔拜見之上油相付亦々本之通安納致候尤役人嶺崎段右衛門鎖前旁相勤候事

如月十二日 晴天

一四ツ後ヨリ蘭林寺御靈屋并御牌殿工參詣住持ヨリ御膳進上願出有之暫者隙取八ツ後引取歸掛皇德院跡御靈前工參詣歸宅尤蘭林寺へ出掛勝雄寺工モ參詣ヲシ候事亦々一ツ葉木爲見物北方村へ差越夕歸宅

一四ツ時ヨリ御役々御禮初而之御目見繼日家督等以御禮等初惣人數六十人計ニ而八ツ時過相濟候

一八ツ後庭エ一ツ葉植方イタシ其ヨリ濱邊工差越夕歸宅

一喜入父上様母上様御方へ御伺トシテ松露一苞ツ書狀相添明朝便ヨリ差上候様鹿納工申付置候事

一桂小吉郎殿四番御小姓與番頭工御役替新納内匠殿當番頭江御役替

一被仰付候段當番頭方ヨリ問合有之候事

一額五社工寄進役人方工申付今日掛方申付候事

一速心院様御日柄付代參山下涼申付候事

一廿八日三月十四日 小雨天

一九ツ時ヨリ稽古所工出張初術給足輕取手迄モ見分其ヨリ弓場ニ而

一諸士弓胤分イタシ候夕相濟候事皆々人數略ス目録旁役人方ヨリ取手

一當申付候事

一四ツ後大野弓五郎殿壹刻被參候

一任禮小平太殿當番頭御役被仰付候段月番方ヨリ問合相達候事

一廿九日三月十五日 晴天

一四ツ時ヨリ濱工出張所中調練見分イタシ引續キ鐵炮見分イタシ八

一ツ後相濟歸宅亦々工才共召列向山邊工兎狩トシテ差越候得共不獵

一而夕歸宅

一廿九日三月十六日 晴天

如月十九日 陰天

一四ツ時ヨリ見分共書物讀方見分イタシ八ツ時分相濟其ヨリ鐵炮人數分有之中敷射場へ出張拙者方相勝候歸掛村山八郎次所工立寄負方ヨリ庭鳥汁等差出五ツ過歸宅

一早朝伊集院彌右衛門殿肥後茂左衛門殿小牧良介殿外二壹人右人數馬改トシテ廻勤有之通行掛見舞也

一島津兵十郎殿十五日當番頭御役被仰付候段月番方ヨリ問合相達候

一尤右仲殿方ヨリ吹聴有之候由申來候事

一母上様先日ヨリ些御不例之由申來候付細々御左右御尋申上越候

一所少シ之御事ニテ最早日増御快方ニ向被遊御世話申上程之事ニ而

一モ無之由申來安心イタシ候事

一廿九日三月十七日 晴天

一四ツ時蘭林寺工清猷院様御靈屋工參詣直ニ歸宅

一七ツ後ヨリ富岡十左衛門所ニ而諸役諸士中ヨリ御膳進上之願申出

一差越候處役人物奉行與頭出席ニ而緩々イタシ夜入四ツ時分歸宅尤

一此以前假屋ニ而有之候得共役々吟味ニ而右之通也諸役諸士中へ目

一録遣ス

一廿九日三月十八日 晴天

一四ツ後ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一廿九日三月十九日 陰天

一晝時分爰元出立ニ而田布施小堀差越林太郎所工宿也

一島津左殿伊集院伊膳殿御用人兼務被仰付候段問合相達候島津平馬

一殿同仁十郎殿當番頭御役被仰付候段問合相達候

一廿九日三月廿日 曇天

一四ツ過小堀出立ニ而加世田増山馬寄場へ差越相濟之上麓西六郎左

衛門所へ差越二宿也

二月廿一日 曇天

一加世田四ツ時分御立ニ而晝時分吉利込歸宅

一七ツ後ヨリ池端喜右衛門所工御膳進上トシテ差越緩々イタシ夜入

一四ツ過歸宅

一山田壯右衛門殿ヨリ書狀并紙包相届直ニ返答申越候事

二月廿二日 曇

一五ツ時分土躍致見分候新櫓古所ヨリ繰出シ假屋内弓場ニ而有之候

一余程宜シク相揃候事尤躍人數へ目録并兩種差遣候事

一假屋櫻見有之事

一母上様先日ヨリ些御不例ニ被爲入候處一昨日ヨリ亦々御不塩梅

一段申來候付今九ツ時分打立御機嫌伺トシテ差越候七ツ過鹿兒島

一述着直ニ御伺申上候處今朝ヨリ余程宜敷御方ニ御向被遊御機嫌克

一被遊御座候付亦々夜入九ツ時分打立吉利込七ツ時分歸着也

二月廿三日 雨少々

一深同院爲參詣九ツ過ヨリ差越其ヨリ霞ケ嶺江差越櫻見致夜入五ツ

一時分歸宅尤所中櫻見ニ差越候事

一鯨鳴幽洞今日鹿府ヨリ差越候喜入母上様御病氣御伺申上形行申出

一ニ參候へヨリ増御快氣之方ニ御向被遊候由申出安心イタシ候事

二月廿四日 雨

一母上様江爲御伺文并早蕨少々今日便ヨリ差上候事

一鬼丸大明神額此節新敷調替ニ付今日鹿兒島工額文字書寫差遣候事

一七ツ後ヨリ嶺崎段右衛門所工差越夜入四ツ時分歸宅尤相伴鳥濱分

右衛門也

一鬼丸大明神社内ニ而神舞祭り家内安全所中安全ニテ爲祈念太夫共

一工申付四ツ時ヨリ參詣相詰七ツ半時分相濟歸宅

一生龍紋一貳端ニ御着代千疋

一右品々今日御小納戸伊集院仲二殿ヨリ用頼西田次郎太工御用ニ而

一此節太守様御光越ニ付御立寄爲御返被成申段承知之由ニ而品々今

一由鹿兒島ヨリ相届候事難有頂戴仕候事尤極々内分ヲ以拝領被仰付

由モ承知イタシ候事

一喜入屋敷母上様御塩梅日ニ増御快氣ニ御向被成候段申來候事

二月廿六日 曇

一早朝雉子認トシテ差越四ツ時分歸宅

一七ツ後ヨリ島濱分右衛門所工住根差越夜入四ツ過歸宅

二月廿七日 雨天

一無事

二月廿八日 晴

一早朝雉子認ニ差越候所ウトラニ而一羽獵有之候事

一八ツ後ヨリ村山八郎次所工差越夜入五ツ過歸宅

二月廿九日 曇

一晝時分ヨリ木場江認トシテ差越霞ケ嶺へ一宿也

一先日左衛門殿ヨリ以使兩種被贈候ハ今日口置役人方へ以使者一札

申越置候永吉ヨリモ同斷付同斷申越候事

三月朔日 晴天

一四ツ後木場ヨリ里工罷歸候

一八ツ時分ヨリ根寝越右衛門宅工差越庭ニ而角力有之緩々咄ニ而夜

入四ツ時分歸宅

彌生二日 半天

一四ツ後ヨリ濱ニテ鉄炮相企出張晝時分雨降出シ取止歸宅尤拙者組勝利也

同三日 晴天

一四ツ後ヨリ伊作馬追馬寄爲見物差越七ツ過歸宅

一七ツ過ヨリ根寐五郎九郎宅ニ招ニマカセ差越緩々咄ニ而夜入四ツ過歸宅

一今日迄ニ而私領御暇日數番合候付今朝罷歸候得共病氣之筋ニ而御殿向旁西田次郎太方へ頼越候事

一五郎九郎事幸左衛門ト改名親和多右衛門龜遊ト改名申付候事  
一鹿府ヨリ肝付勇四郎町田佐治右衛門殿ヨリ書狀相届候事

三月四日 曇天

一五ツ時蘭林寺へ爲佛詣差越直ニ歸宅

一四ツ時諸御禮願ニヨリ申付九ツ過相濟候

一八ツ後ヨリ木場へ爲躰差越霞ヶ嶺工一宿也

三月五日 雨天

一四ツ後霞ヶ嶺ヨリ假屋迄歸着

一鬼丸山王兩社工額寄進役坐方へ申付候事

一夕ヨリ役人物奉行諸役ヨリ爲追酒假屋へ参り賑々敷事ニ而四ツ過皆々罷歸候事

三月六日 小雨

一九ツ時分吉利打立横井町工暫ク立寄夜入過歸宅尤大橋口迄本行列其ヨリ馬ニテ供廻モ平日通ニテ候事

同七日 晴

一四ツ時出殿九ツ御暇掛喜入工差越亦々南林寺殿へ参詣其ヨリ馬寄爲見物差越七ツ過相濟歸宅亦々夕ヨリ肝付家へ差越夜入五ツ過歸

宅

一北郷作左衛門殿山本喜左衛門殿山本新之介殿田代源五右衛門殿右人數壹刻ツ、被参候

三月八日 陰

一四時弓場方へ出勤九ツ過御暇イタシ其ヨリ下方諸所祝義旁トシテ差越八ツ前歸宅

一夕ヨリ喜入屋鋪工差越四ツ前歸宅

一指宿納右衛門殿青山弓太郎殿山口彦五郎殿根寐甚左衛門西田次郎太能勢十郎右衛門殿右人數壹刻ツ、見舞也

三月九日 雨天

一四時弓場方へ出勤九ツ過御暇掛喜入屋敷へ差越七ツ時分歸宅

三月十日 半晴

一五ツ時ヨリ上方諸所へ差越四ツ時出殿九ツ過御暇歸宅

一七ツ後ヨリ喜入屋鋪へ差越夜入五ツ過歸宅

三月十一日 曇

一四ツ時ヨリ上方諸所へ差越同刻迄歸宅亦々夕ヨリ喜入屋鋪江差越五ツ過歸宅

一山田壯右衛門殿安田喜三太殿見舞也

三月十二日 雨天

一四ツ前下方へ差越弓場方工出勤九ツ時分御暇

一夕ヨリ喜入屋敷工差越五ツ過歸宅

一谷村愛之介殿伊地知桃岡殿見舞也

三月十三日 大晴天

一御發駕ニ付五ツ過出殿御機嫌能己之刻御發駕ニ相成御城下工罷出亦々出殿御祝義申上退出之筈候得共右之義者相願御城下ヨリ直ニ

御暇也

一七ツ後町田佐次右衛門殿被參門前二而馬乘イタシ候事

一夕ヨリ喜入屋鋪へ差越夜入四ツ時分歸宅

三月十四日 晴天

一四ツ時弓場方へ出勤八ツ前歸宅

一鬼丸大明神鳥井額今日出來吉利之様遣候様申付置候事

一七ツ後ヨリ原良屋敷へ差越夕歸宅亦々喜入屋敷へ差越五ツ時分歸宅

宅

一鎗式日付軍次郎殿被參候

三月十五日 晴

一四ツ出殿八ツ前歸宅喜入屋敷へ差越七ツ後歸宅同刻過ヨリ佐次右衛門殿被參馬乘方有之候夕ヨリ山元喜左衛門殿被參四ツ過被歸候

七ツ過壹刻内藏殿被參候事

三月十六日 晴

一四ツ前喜入屋敷へ差越其ヨリ弓場方へ出勤九ツ過歸宅

一夕ヨリ園田彦左衛門殿近々琉球國へ渡海ニ付色々頼越候義共有之招ニマカセ被參緩々咄ニ而九ツ時分被歸候尤武清大殿根様甚左衛門殿被參候事

三月十七日 晴

一四ツ時出勤九ツ過御暇イタシ谷山へ爲遠馬差越夕歸宅亦々喜入屋敷へ差越四ツ過歸宅

一昨日鬼丸大明神御祭ニ付代參根様越右衛門へ申付置候處相勤候段申出候尤天氣モ宜敷諸所ヨリ馬寄余多有之候段申來候事

三月十八日 曇晝ヨリ雨

一鹿籠馬寄爲見物四ツ後打立川邊町迄夕着一宿尤内藏殿彌九郎殿伊

十郎殿菰殿同道イタシ候事且馬栗毛供三彌今泉青毛ハ召列候事

三月十九日 晴

一四ツ時分川邊町出立鹿籠折口宿迄晝過着

三月廿日 晴

一四ツ後ヨリ瀬戸馬寄場へ爲見物差越大鐘時分相濟亦々折口宿之様歸り候事

今朝多門殿雄次郎殿旅宿枕崎へ差越候事

三月廿一日 晴

一五ツ時分鹿籠出立川邊野崎村迄七ツ時分着一宿尤田邊一郎殿地方檢者ニ而被參居何邊都合相頼世話ニ相成候事

三月廿二日 曇半雨

一早朝明山様御墓工參詣其ヨリ寺之方へモ差越任持へ相頼置候

一四ツ後野崎村出立鹿兒島迄七ツ半時分歸宅尤谷山町迄稻留轉島津權五郎殿爲迎被參候夕ヨリ母上様御方エ罷出五ツ過歸宅

三月廿三日 晴

一四ツ時弓場方エ出勤九ツ過御暇南林寺殿大中公英徳公御兩殿へ參詣歸宅

一江戸表ヨリ御飛脚着ニ而井伊掃部守下城之砌下馬先ニ而水戸浪人共手向イタシ打果騷動ニ相及候段申來候由承及候御家老方御下り夕方ニ及候事尤右人數へ御國者兩人交居候由モ承候事

三月廿四日 晴

一風邪氣分ニ而不致出勤候

一今夕亦々飛脚着ニ而御家老初御役々登城ニ相成候如何様之御用筋不承候

三月廿五日 晴

一鹿籠馬寄爲見物四ツ後打立川邊町迄夕着一宿尤内藏殿彌九郎殿伊

十郎殿菰殿同道イタシ候事且馬栗毛供三彌今泉青毛ハ召列候事

一四ツ時分川邊町出立鹿籠折口宿迄晝過着

三月廿日 晴

一四ツ後ヨリ瀬戸馬寄場へ爲見物差越大鐘時分相濟亦々折口宿之様歸り候事

今朝多門殿雄次郎殿旅宿枕崎へ差越候事

三月廿一日 晴

一五ツ時分鹿籠出立川邊野崎村迄七ツ時分着一宿尤田邊一郎殿地方檢者ニ而被參居何邊都合相頼世話ニ相成候事

三月廿二日 曇半雨

一早朝明山様御墓工參詣其ヨリ寺之方へモ差越任持へ相頼置候

一四ツ後野崎村出立鹿兒島迄七ツ半時分歸宅尤谷山町迄稻留轉島津權五郎殿爲迎被參候夕ヨリ母上様御方エ罷出五ツ過歸宅

三月廿三日 晴

一四ツ時弓場方エ出勤九ツ過御暇南林寺殿大中公英徳公御兩殿へ參詣歸宅

一江戸表ヨリ御飛脚着ニ而井伊掃部守下城之砌下馬先ニ而水戸浪人共手向イタシ打果騷動ニ相及候段申來候由承及候御家老方御下り夕方ニ及候事尤右人數へ御國者兩人交居候由モ承候事

三月廿四日 晴

一風邪氣分ニ而不致出勤候

一今夕亦々飛脚着ニ而御家老初御役々登城ニ相成候如何様之御用筋不承候

三月廿五日 晴

一鹿籠馬寄爲見物四ツ後打立川邊町迄夕着一宿尤内藏殿彌九郎殿伊



一今日モ不致出勤候

一太守様筑前松崎驛迄御光越被遊候得共御病氣ニ而御引返シ相成候

段今日御通達承知イタシ候定而江戸表變事到來ニ付而之事ト奉察候今日左衛門殿出立被致候誠ニ苦々敷世上ニ相成候事

一夕壹刻喜入屋敷迄差越直ニ歸宅

三月廿六日 晴

一大守様御病氣ニ而御引返ニ付四ツ時出殿謁御家老御機嫌ウカ、ヒ

申上候八ツ前歸宅

一喜入屋鋪ヘモ差越候

一江戸表之風聞取々ニ而候事

三月廿七日 晴

一四ツ時出殿九ツ半時分御暇歸宅

三月廿八日 晴

一四ツ時爲御祝義出殿九ツ時御暇歸宅

一弓場方今日迄頼越候事

一夕ヨリ喜入ヘ差越四ツ過歸宅

一町出助太郎殿同六郎左衛門殿中山尚之介殿山元新之介殿右人數用

事有之被參候事

三月廿九日 雨天

一早朝關山純殿所ヘ用事有之差越其ヨリ直ニ喜入屋鋪之様差越七ツ

時分歸宅

一夕ヨリ佐次右衛門殿軍次郎殿萬之進殿爲式日被參候事

三月晦日 晴

一四ツ出殿九ツ時分御暇掛喜入屋敷ヘ差越八ツ前歸宅

一七ツ後ヨリ軍次郎殿勇四郎殿同道ニ而内藏宅ヘ鎗ノ稽古差越夜入

四ツ前歸宅

三月朔日 大晴天

一早朝喜入屋敷ヘ差越其ヨリ南林寺大中公英徳公御兩殿ヘ參詣其ヨリ弓場方ヘ出勤八ツ前歸宅

一夕ヨリイセ家ヘ差越四ツ歸宅

一今和泉青毛六才今日西田町金貫度下之事ニ而差越候事

三月二日 雨天

一上様御事筑前松崎驛ヨリ御煩ニ而御引返ニ相成今日御着城ニ付五

ツ半時分出殿待上居候處九ツ過御着城ニ相成候尤兼而御立之場所

ニ罷出候事

一夕ヨリ喜入屋敷ヘ差越夜入五ツ過歸宅

三月三日 晴天

一御用談之義有之出殿在外候様昨日順達相達四ツ時出殿五ツ過御

暇歸宅其ヨリ谷山町迄父上様御歸付爲御迎差越夕歸宅

一谷山刀作ヘ刀頼方トシテ武清太殿ヘ相頼村山八郎次召付差遣候事

一島津内藏殿ヨリ弟勇四郎養子ニ被貫度下之相談承り居今日父上様

御歸之上内藏殿ヨリ右之形行被申一先者御斷ニ相成候得共是非ト

之事ニ而被遣段御返答ニ相成候事

三月四日 晴天

一四ツ時弓場方ヘ出張八ツ御暇

一七ツ後ヨリ梅田丸左衛門殿相良佐平太殿山元五百介殿日高軍次郎

殿島津内藏殿勇四郎殿萬之進殿鎗稽古トシテ被參候事

三月五日 雨天

一四ツ時喜入屋敷ヘ差越九ツ過ヨリ荒田ヘ罷出夜入五ツ時分歸宅

三月六日 雨天

一四ツ時出勤九ツ後御暇掛喜入屋敷工差越八ツ後歸宅  
一夕ヨリ佐次右衛門殿軍次郎殿被參候事

又三月七日 晴

一四ツ前出殿九ツ過御暇掛喜入屋敷へ差越八ツ時分歸宅

又三月八日 晴天

一曉五ツ時分ヨリ打立古江迄海上宜シク五ツ時分着鹿野屋町ニ而昼  
飯笠之原江暫ク立寄高山波見迄差越新右衛門殿申者之所エ一宿也  
尤山本五百介殿同道イタシ候事

又三月九日 晴

一五ツ過波見出立柏原へ暫立寄鹿野屋笠之原エ暫ク立寄候尤右所ニ  
而高山日高地藏院持馬致見分候所余程早モ有之候付直ニ貫請鹿  
野屋町迄夕着浅右衛門ト申者之所エ一宿也尤青毛七ツ

又三月十日 晴雨交

一早朝笠之原朴泰亥持馬町迄取寄致見分候處余程宜敷貫請直ニ引越  
候尤尾花星黒栗毛當歳五才也右町九ツ過打立花岡之内古江迄七ツ  
過着大鐘過船出帆夜入九ツ過歸着也尤馬之義者垂水小濱工相廻同  
所より海上之筈候事

又三月十一日 半天

一四ツ時出殿同刻過御暇掛喜入屋敷工差越九ツ過歸宅亦々重富都之  
城屋敷工差越七ツ前歸宅

一勇四郎殿來十四日ニ内藏殿所工養子ニ引越之筈候付爲暇乞被參候

一青毛駒栗毛駒九ツ過爰元エ着也

一七ツ過内藏殿處工用事有之差越其ヨリ相良家へ差越夜入五ツ過歸  
宅

又三月十二日 晴

一四ツ弓場方へ出張九ツ過御暇

一九ツ半時分出立ニ而吉利へ差越大鐘時分着イタシ候事尤西田次郎

太同道有夕シ候事

又三月十三日 晴

一速心院様淨照院様映鐘院様御法事トシテ五ツ過ヨリ園林寺エ差越  
九ツ過相濟假屋へ歸宅

一九ツ過吉利出立七ツ過歸宅亦々喜大屋敷工差越夜入五ツ過歸宅

一四ツ時弓場方エ出勤九ツ過歸宅亦々喜入屋敷工差越七ツ後ヨリ島

津内藏方エ今日勇四郎殿内々引越之筈候付同道ニ而差越彼是都合

向モ宜鋪夜入五ツ過歸宅尤相良治部様ニモ御同道也

又三月十五日 曇天

一四ツ時喜入屋鋪工差越其ヨリ直ニ出殿御祝義申上九ツ時御暇歸宅

一七ツ後ヨリ喜入工差越夕歸宅

又三月十六日 雨天

一四ツ後ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一夕ヨリ佐次右衛門殿軍次郎殿被參候

又三月十七日 晴

一九ツ時分ヨリ谷山町へ父上様御歸付爲御迎差越夕歸宅

一作左衛門殿壹刻被參候事

又三月十八日 晴

一四ツ後ヨリ荒田御隱居工罷出其ヨリ直ニ原良別荘エ差越夜入過歸

宅尤弓場方書役木藤源左衛門殿蒲生彦右衛門殿隈元直次郎殿西田

次郎太甚左衛門同道イタシ候事

又三月十九日 雨天

又三月十九日 雨天

一四ツ時若狹一列月次御禮罷出候面々大番頭以下へ奥表諸御役人御用付四ツ時出殿イタシ候處於敷舞臺ニ此節年號萬延ト改元被仰出候段月番御家老但馬殿ヨリ御達也

一九ツ時分ヨリ爲鉄炮出張大鐘時分相濟歸宅

又三月二十日 曇天

一四ツ時弓場方江出勤八ツ前御暇歸宅

一八ツ後ヨリ荒田エ罷出七ツ後ヨリ喜入雄次郎殿所江参り候様承候

付差越夜入四ツ時分歸宅

又三月廿一日 晴天

一七ツ時分ヨリ荒田へ罷出夜入過歸宅

一四ツ後甚之丞殿壹刻被参候

又三月廿二日 晴天

一四ツ時出勤九ツ過御暇歸宅

一七ツ時分ヨリ喜入屋敷エ差越夜入五ツ時歸宅父上様ニモ御出也尤

富之介今日島津内藏殿二女先日ヨリ貰請有之今日取合祝有之候事

又三月廿三日 雨天

一四ツ時弓場方へ出勤同刻過御暇掛大中公江参詣其ヨリ直ニ爲鉄炮

出張夕歸宅

又三月廿四日 晴

一四ツ時ヨリ荒田へ罷出八ツ後ヨリ父上様御供ニ而草牟田治部様御

宅エ差越夜入四ツ歸宅

又三月廿五日 晴

一四ツ後ヨリ爲鉄炮洲崎御軍役方射場へ出張夕歸宅亦々直ニ喜入屋

敷へ差越五ツ過歸宅

又三月廿六日 小雨

一七ツ後ヨリ黒田氏江差越夜入五ツ過歸宅

一山元五百介殿六郎左衛門殿壹刻被参候

又彌生廿七日 晴

一五ツ過荒田へ罷出直ニ弓場方へ出勤九ツ過歸宅父上様今日喜入

エ御出也

一七ツ過ヨリ島津内藏殿所エ差越夜入四ツ歸宅

又三月廿八日 晴

一四ツ後ヨリ一寸ト打立吉利木場へ爲認差越七ツ過着イタシ候事

又三月廿九日 雨天

一朝認エ差越昼ヨリ雨風ニテ認モ不調候

又三月晦日 雨天

一九ツ時分木場霞ヶ嶺出立鹿府迄大鐘時分着也

四月朔日 晴天

一四ツ時出殿同刻過御暇掛喜入屋敷エ差越九ツ時分歸宅

一七ツ後ヨリ内藏殿雄次郎殿藤十郎殿吉兵衛殿被参候治部様モ御出也

四月二日 晴天

一五ツ過大中公英徳公御兩殿エ参詣弓場方へ出勤九ツ時分御暇掛後

醜院氏前田龍五郎殿所へ昨日御役替付爲悦差越八ツ前歸宅尤吉利

家へモ壹刻差越候事

四月三日 半雨

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

四月四日 雨天

一四ツ後喜入屋敷エ差越八ツ前歸宅

四月五日 雨天

一御用談有之四ツ時出殿イタシ候様昨日順達相達四ツ出殿イタシ候處是迄當番頭兩人ツ、講堂エ差越候由候得共以來五人ツ、御用差支無之西殿線合差越候様尤八ツ掛御小姓與番頭諸席エ相詰候様被仰付候段筑後殿ヨリ御書付ヲ以被仰渡候拙者ニモイマタ弓場方別勤内ニテ相濟候上差越賦也九ツ過御暇掛喜入エ差越七ツ過歸宅

四月六日 曇

一早朝宮之原家法事ニ付差越其ヨリ弓場方へ出勤九ツ過御暇歸宅

一八ツ前出立ニ而明七日喜入馬追爲見物瀬々串込差越候尤内藏殿治部様伊東吉兵衛同道也

四月七日 雨天

一雨天ニ而馬追モ不相調五ツ過瀬々串ヨリ麓エ差越候

四月八日 曇

一爲馬追四ツ過ヨリ牧エ差越夕麓込歸リ候尤馬追ニモ至而首尾能相濟候事

一夕麓出立鹿府込四ツ前歸宅

四月九日 雨天

一爲鉄炮四ツ時分出張夕歸宅

一夕ヨリ伊勢氏被參候

四月十日 晴天

一四ツ時弓場方へ出勤同刻過御暇鹿籠屋敷エ差越其ヨリ谷山町へ父上様今日喜入ヨリ御歸付爲御迎差越候夕歸宅

四月十一日 晴天

一四ツ時弓場方エ出勤九ツ過歸宅

四月十二日 半天

一七ツ時分ヨリ荒田エ罷出夜入五ツ過歸宅

一四ツ時分弓場方へ出勤

四月十三日 晴

一四ツ時弓場方へ出勤同刻過御暇爲鉄炮出張夕歸宅

四月十四日 晴天

一五ツ過ヨリ吉野爲御馬追差越八ツ歸宅尤首尾能御馬追ニ而候

一馬追通爲見物郷原轉殿外ニ弓場方書役被參候

四月十五日 晴天

一七ツ後ヨリ荒田へ差越夜入四ツ時分歸宅

一四ツ後北原殿被參候

四月十六日 半天

一四ツ後喜入屋敷へ差越八ツ後歸宅七ツ後ヨリ原良別莊エ差越大鐘時分歸宅

四月十七日 雨天

一大鐘時分ヨリ内藏殿所エ父上様御出ニ付差越夜入五ツ過歸宅

四月十八日 晴天 入梅

一四ツ時出勤同刻過御暇掛喜入屋敷へ差越九ツ過歸宅

一七ツ後ヨリ重富御三居エ罷出夜入四ツ過歸宅

四月十九日 雨天

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

一夕ヨリ五百介殿佐平太殿佐次右衛門殿被參候

同廿日 小雨

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

四月廿一日 雨天

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

四月廿二日 雨天

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

一四ツ時出殿同刻過歸宅直ニ喜入屋敷へ差越八ツ前歸宅  
一タヨリ荒田へ差越四ツ過歸宅

四月廿三日 雨天

一五ツ時ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

四月廿四日 雨天

一四ツ時弓場方へ出勤九ツ前御暇掛大中公エ參詣其ヨリ洲崎へ爲鐵炮出張夕歸宅

四月廿五日 半雨

一四ツ時出殿同刻過御暇掛喜入屋敷エ差越八ツ後歸宅亦々垂水七夜御祝ニ付罷出夜入過御暇其ヨリ荒田へ差越四ツ過歸宅

四月廿六日 晴天

一四ツ時弓場方へ出勤同刻過御暇歸宅

一八ツ後ヨリ垂水屋敷内射場ニ而爲鐵炮出張夕歸宅

四月廿七日 朝雨晝ヨリ晴

一弓場方鐵炮相企有之候得共朝立雨天ニ而取止ニ相成候事  
一タヨリ内山四郎次殿前田龍五郎殿山口彦四郎殿被參候事

四月廿八日 晴

一八ツ後ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅直ニ喜入屋敷へ差越直ニ歸宅  
一勤太郎殿甚左衛門殿太郎兵衛殿正之助殿見舞也

四月廿九日 曇小雨

一四ツ時弓場方へ出勤九ツ時分ヨリ御暇爲鐵炮出張夕歸宅

五月朔日 雨天

一四ツ時出殿同刻過御暇掛喜入屋敷江差越其ヨリ都之城内濱假屋へ弓場方人數相招差越夜入過歸宅

五月二日 雨天

一四ツ後ヨリ爲鉄炮出張夕歸宅

五月三日 半天

一四ツ時大中公英徳公御兩殿エ參詣其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

五月四日 雨天

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

五月五日 雨天

一五ツ過喜入屋敷并垂水屋敷エ差越其ヨリ直ニ出殿同刻過御暇歸宅  
一七ツ後ヨリ荒田一罷出夜入五ツ過歸宅

五月六日 半天

一四ツ時御春屋内弓場方出張エ出勤九ツ過御暇歸宅  
一七ツ後ヨリ乘廻イタシ荒田へ差越夕歸宅

五月七日 風雨出梅

一五ツ過ヨリ爲鉄炮洲崎へ出張夕歸宅

五月八日 晴曇交

一四ツ時弓場方エ出勤九ツ過御暇エ出勤同刻過御暇歸宅  
一此節御初入部ニ付弓御上覽ニ付是迄別勤被仰付置候得共最早御用モ相濟今日迄ニ而弓場方引取ニ相成候事尤昨年五月朔日ヨリ別勤也

五月九日 晴雨交

一四ツ出勤同刻過御暇歸宅直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

五月十日 雨天

一四ツ時出勤同刻過御暇爲鐵炮洲崎エ出張夕歸宅  
一四ツ時講堂エ出勤九ツ過御暇其ヨリ直ニ爲鐵炮洲崎エ出張夕歸宅

五月十一日 晴天

五月十二日 晴雨交

一四ツ時出勤刻過御暇直ニ洲崎工爲鐵炮差越夕歸宅亦々喜入屋敷  
エ差越五ツ過歸宅

五月十三日 風雨

一六ツ半時分朝出ニ付出勤四ツ後御暇歸宅亦々直ニ爲鐵炮出張夕歸  
宅

五月十四日 大雨

一四ツ時出勤九ツ過御暇直ニ爲鐵炮洲崎御射場工出張夕歸宅

五月十五日 曇天

一四ツ時講堂工出勤八ツ歸宅

一七ツ後ヨリ荒田エ差越夕歸宅直ニ喜入屋敷エ差越夜入五ツ過歸宅

五月十六日 小雨

一四ツ時出勤刻過御暇歸宅

一八ツ時分ヨリ父上様治部様内藏殿御出緩々御咄ニ而夜入四ツ時分

御歸也外ニ勇四郎殿万之進殿下河邊氏相良佐平太殿伊東吉兵衛殿

黒田藤十郎殿千田佐左衛門殿日高新兵衛殿山元喜左衛門殿ニモ被

参候事

五月十七日 曇

一四ツ時出勤刻過御暇歸宅亦々直ニ爲鐵炮洲崎工出張夕歸宅尤父

上様御企也

一夜入過ヨリ六郎左衛門殿被参候事

五月十八日 小雨

一四ツ時出勤刻過御暇歸宅七ツ後ヨリ荒田工罷出其ヨリ家村彦八

殿所工参候様承居候處治部様御同道ニ而差越夜入過歸宅

五月十九日 雨小

一四ツ時講堂工差越同刻過御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

五月廿一日 小雨

一四ツ後大中公并英徳公御兩殿エ参詣其ヨリ直ニ爲鐵炮出張射込ニ  
而大鐘時分歸宅直ニ泊番ニ而出勤也

五月廿二日 曇

一今朝六ツ半歸宅尤朝出權五郎殿エ相頼候事

一四ツ後原良屋敷エ差越其ヨリ荒田へ差越夜入五ツ過歸宅

五月廿二日 雨

一別勤

一四ツ後ヨリ爲鐵炮御軍役方射場工出張夕歸宅

五月廿三日 晴天

一四ツ時大中公英徳公御兩殿エ参詣其ヨリ直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

五月廿四日 晴

一四ツ前喜入屋敷エ差越直ニ出勤九ツ歸宅

五月廿五日 晴

一四ツ出勤刻過御暇歸宅

一八ツ後ヨリ津留與右衛門同道ニ而喜入江船ヨリ差越候事

五月廿六日 晴

一今日ヨリ鐵炮有之射方イタシ候事

五月廿七日 晴

一昨日同勤

五月廿八日 晴

一七ツ過喜入出船夜入四ツ過歸宅

五月廿九日 晴

一四ツ時出勤刻過御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

六月朔日 大晴

一當月奏者方月番

六月十日 晴

一早朝南林寺大中公英徳公御兩殿江爲御祝義參詣歸宅

一四ツ時出勤八ツ後退出

一四ツ前出勤八ツ時歸宅掛喜入屋敷工差越歸宅

一七ツ後壹刻原良別莊工差越直ニ歸宅

林鐘二日 晴

六月十一日 晴夕立

一四ツ時出勤九ツ過御暇直ニ爲鐵炮洲崎工出張夕歸宅

一四ツ時出勤全刻過御暇

一夕ヨリ西太郎兵衛殿兒玉軍兵衛殿山元五百介殿同喜左衛門殿被參候

一九ツ時分ヨリ磯重久佐次右衛門別莊江招ニマカセ差越夜入五ツ時分歸宅

一異國船一艘七ツ過前之濱工來着碇ヲ卸ス候

林鐘十二日 晴夕立

六月三日 晴

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

一四ツ出勤同刻過月番相願御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

林鐘十三日 雨天

一異國船今大鐘時分出帆也尤水薪等貴方ニ來着候由也

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

六月四日 晴

同十四日 晴

一四ツ時出勤八ツ後歸宅同刻過ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一四ツ時出勤八ツ歸宅

六月五日 晴

一七ツ後ヨリ荒田工差越其ヨリ原良屋敷工差越夕歸宅

一四ツ時出勤御暇掛喜入屋敷工差越七ツ前歸宅

水月十五日 雨晴交

林鐘六日 晴大暑

一四ツ前出勤九ツ過御暇歸宅

一四ツ時出勤八ツ御暇

一祇園爲見物多人數客來有之候事

一八ツ後ヨリ小野相良家別莊江罷越夜入五ツ過歸宅

六月十六日 晴天

六月七日 晴

一四ツ出勤八ツ後歸宅

一四ツ出勤同刻過歸宅其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

晚夏十七日 晴天

六月八日 晴天

一清猷院様御日柄付護生寺工代參申付候

一四ツ時分洲崎工爲鐵炮出張射込ニ而八ツ時分櫻島藤野江相撲爲見

一五ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

物差越夜入五ツ過歸宅

一月番方相頼候事

六月九日 曇

同十八日 晴

一四ツ時出勤同刻過御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

晚夏十九日 晴天

一 曉七ツ過ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

同廿日 晴

一 四ツ過ヨリ爲鐵炮出張七ツ過射込歸宅

一 夕ヨリ重久佐次右衛門殿長倉猪八被參候外二用願人數

晚夏廿一日 晴立秋

一 四ツ時出勤八ツ退出

一 夕ヨリ前田龍五郎殿中山尚之介殿被參候

同廿二日 晴

一 四ツ前ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一 御用之儀候間明廿三日四ツ時可被罷出候以上

六月廿二日

鳴津 奎

小松帶刀殿

右之通承知イタシ候事

同廿三日 晴

一 四ツ時出勤御用人方工届申出候處左之通被仰付候

伊勢 雅樂

北郷作左衛門

小松 帶刀

右辨天波戸御臺場受持

右之通被仰付候条二ヶ月宛當番ニ而交代被仰付候此旨可申渡

候

六月 筑後

一 當夏秋中足痛ニ付<sup>(不明)</sup>相用度願申出置候處今日願之通御張紙ヲ以

被仰渡候

一 四ツ後退出掛大中公英徳公御兩殿工參詣其ヨリ直ニ爲鐵炮出張夕

歸宅又々喜入屋敷工差越四ツ過歸宅

晚夏廿四日 晴

一 四ツ時出勤八ツ後退出

一 昨日御臺場請持被仰付候付今日外人數工談合書附ヲ以御家老左衛

門殿方工相伺候書附別冊ニ相印候付略ス

一 鎗爲式日山元五百介殿日高軍次郎殿萬之進被參候事

六月十五日 晴

一 四ツ時出勤御暇イタシ九ツ過ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

林鐘廿六日 晴

一 四ツ時出勤八ツ前ヨリ御暇鐵炮工出張夕歸宅

同廿七日 晴

一 前條同斷

同廿八日 晴

一 四ツ出勤八ツ退出其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

六月廿九日 晴

一 四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

一 五ツ過鹿籠工差越候

一 御用人ヨリ御用有之名代相頼置候所定火消被成御免代リ稱留轉工

被仰越候旨承知候事

六月卅日 晴

一 四ツ時出勤同刻過御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

七月朔日 晴

一 四ツ時出勤同刻過御暇イタシ候事

一 來ル十三日盆ニ付南泉院工御燈爐御獻納ニ付御使者被仰付候段御



用次嶋津李川上正十郎兩人之名前ニ而候事

七月三日 晴

一四ツ時講堂工出勤八ツ歸宅

一夕ヨリ中山尚之介殿兒玉氏被參候

七月三日 晴

一四ツ後源良別莊工壹刻差越八ツ前歸宅

一七ツ時分爲夕詰出勤夕歸宅

一後醍院彦次郎殿爲咄被參候

一昨日江戸御飛脚着ニ而書狀等相届候事

七月四日 晴

一四ツ時講堂工出勤八ツ後退出

一夕ヨリ鹿籠屋敷工差越夜入九ツ過歸宅

七月五日 晴

一七ツ時分ヨリ原良別莊工差越夕歸宅

初秋六日 晴

一此晚ヨリ些不快ニ而出勤モ不致候赤崎圓齋相頼候事

同七日 晴

一イマダ不宜候付不致他出候

同八日 晴

昨日同斷

文月九日 曇

前条同斷

文月十日 晴風

一四ツ時出勤九ツ過御暇歸宅

一御日柄付護生寺工代參申付候事

一七ツ後壹刻平佐工差越直ニ歸宅

七月十一日 雨天

一四ツ時二之丸工差越歸掛喜入屋敷工差越九ツ過歸宅

七月十二日 晴小雨

一四ツ時講堂工差越八ツ御暇直ニ爲鐵炮洲崎工差越夕歸宅

七月十三日 晴小雨

一四ツ時南泉院工御燈爐御獻納御使者相勤歸宅

一八ツ後喜入屋敷工壹刻差越候事

一夕ヨリ例年之通御生靈様方表書院工御轉座

七月十四日 晴

御靈祭例年之通

一四ツ時分ヨリ淨光明寺殿福昌寺殿參詣其より重留御三居方へ罷出

喜入ニモ差越九ツ歸宅

七月十五日 晴

靈祭例年之通

一五ツ時出勤四ツ後歸宅尤壹刻

七月十六日 晴

一四ツ時講堂工出勤八ツ歸宅

一夕ヨリ鹿籠工差越九ツ過歸宅

七月十七日 晴

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

七月十八日 晴

一七ツ前ヨリ爲夕詰出勤夕歸宅

一夕ヨリ兒玉氏中山氏被參候

七月十九日 晴雨交

一 些不塩梅ニ而不致出勤候朝稻氏西郷氏相頼藥用等イタシ候事

七月廿日 晴

一 昨日同斷

七月廿一日 半天

一 早朝原良別莊工差越九ツ前歸宅

一 八ツ前ヨリ爲當番出勤七ツ歸宅

一 七ツ後ヨリ井上彌八郎殿相頼原良ニ襖繪書方相頼候事

七月廿二日 曇

一 四ツ時講堂工差越八ツ退出

七月廿三日 晴

一 五ツ時分ヨリ南林寺殿工參詣其ヨリ爲鐵炮出張七ツ過歸宅

一 永吉今日江戸ヨリ着ニ付七ツ後ヨリ差越夜入五ツ前歸宅

七月廿四日 晴

一 四ツ出勤九ツ過歸宅又々八ツ時分ヨリ原良工差越夕ヨリ鹿籠屋敷

一 工爲夜咄差越九ツ過歸宅

七月廿五日 晴

一 四ツ前ヨリ原良別莊工差越夕歸宅

七月廿六日 半

一 四ツ時講堂工差越其ヨリ御殿工出勤八ツ前歸宅又々直ニ原良別莊

一 工差越夕歸宅

七月廿七日 半

一 四ツ時ヨリ爲鐵炮洲崎工出張射込ニ而大鐘時分歸宅又々直ニ爲泊

出勤

七月廿八日 曇

一 五ツ時退出

一 八ツ前ヨリ原良工差越夜入過歸宅

七月廿九日 雨天

一 四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一 新橋下ニ而花見有之二階ヨリ見物イタシ候事

八月朔日 晴

一 四ツ時出勤御祝義申上琉球人登城ニ付奏者相勤九ツ前御暇直ニ福

昌寺順聖公へ御靈前工參詣其ヨリ重富工罷出喜入工差越八ツ過歸

宅

一 七ツ後ヨリ南林寺殿大中公英徳公御兩殿工參詣其ヨリ鹿籠へ差越

才福様へ御伺夜入八ツ前歸宅尤今晩者少々御塩梅モ宜御方ニテ仕

合之事ニ候

八月二日 曇

一 四ツ時ヨリ爲鐵炮洲崎松之木射場へ出張夕歸宅

八月三日 雨風強

一 四ツ時ヨリ爲鐵炮出張雨風嚴シク七ツ過取止ニ相成歸宅

八月四日 雨天

一 四ツ時出勤九ツ過御暇

一 先日ヨリ井上彌八郎殿相頼繪書方今日追相濟候事七ツ後ヨリ佐平

太殿五百介殿六郎左衛門殿被參候夜入過ヨリ加世田郷土川村覺右

衛門西六郎左衛門參り候事尤津留與右衛門ニモ被參候

八月五日 曇

一 四ツ時ヨリ講堂工出勤八ツ後歸宅

一 七ツ時分ヨリ喜入屋敷法事ニ付差越夕歸宅

一 夜入過ヨリ尚之介殿被參候

八月六日 曇

一四ツ時出勤九ツ過御暇

一八ツ前ヨリ原良別莊工差越夕歸宅

八月七日 曇

一四ツ時ヨリ造士館工出勤八ツ後御暇

一七ツ後後醍醐院氏工差越其ヨリ荒田父上様御方へ罷出夕ヨリ鹿籠之  
様差越夜入八ツ時分歸宅

八月八日 半晴

一四ツ後ヨリ原良別莊工差越七ツ後歸宅

一爲泊番出勤掛喜入工差越直ニ出殿

八月九日 曇

一五ツ時歸宅

一同刻過ヨリ南林寺大中公英徳公御兩殿工九拜直ニ爲鐵炮出張夕歸  
宅

一夜入過ヨリ六郎左衛門被參候

八月十日 半天

一四ツ後ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

八月十一日 曇

一四ツ後原良別莊工差越八ツ前歸宅

一七ツ前ヨリ爲夕詰出勤夕歸宅

一夕過ヨリ鹿籠屋敷工差越九ツ時分歸宅

八月十二日 曇

一四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

涼月十三日 曇

一四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一夕過ヨリ桂氏工用事有之差越候

八月十四日 晴

一四ツ時出勤八ツ歸宅

一七ツ後ヨリ原良別莊工差越夜入四ツ過歸宅

中秋十五日 晴

一喜入攝津殿今日江戸ヨリ着ニ付爲迎朝五ツ時ヨリ横井迄差越八ツ  
前歸宅又々七ツ時分ヨリ屋敷工差越夜入四ツ時分歸宅

八月十六日 晴

一無事

八月十七日 晴

一二之丸別勤四ツ前相勤候

一四ツ後ヨリ爲鐵炮出張夕歸掛イカ引ニテ松ヨリ罷歸候事

八月十八日 晴

一八ツ前ヨリ原良工差越夜入過歸宅山元五百介殿日高軍次郎殿鳥濱  
分右衛門村山八郎次召列候事

八月十九日 晴

一於訓練場爲鐵炮四ツ時ヨリ出張夕歸宅

八月廿日 晴

一五ツ時福昌寺順聖院公御靈前工參詣御惣靈様工詣之歸掛周防様御  
方工參上御目見九ツ時歸宅

一八ツ前ヨリ平佐別莊工差越夕ヨリ鹿籠へ差越夜入七ツ時分歸宅

八月廿一日 晴

一九ツ時ヨリ爲當番出勤七ツ後歸宅

一七ツ後ヨリ指宿納右衛門殿所工兵部様御同道ニ而差越夜入過歸宅

八月廿二日 晴

一四ツ時出勤九ツ時分御暇尤琉人登城奏者相勤候事

一九ツ過ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅  
一四ツ前喜入攝津殿御入來也

八月廿三日 晴

一風邪氣ニ而出勤モ不能候

八月廿四日 晴

一昨日同斷

八月廿五日 晴

一前条同斷

八月廿六日 曇

一昨同斷

八月廿七日 雨

一同斷

八月廿八日 曇

一四ツ出殿御暇掛喜入エ差越八ツ後歸宅

一夕ヨリ鹿籠エ差越七ツ時分歸宅

八月廿九日 晴

一四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅直ニ鹿籠エ爲御看病差越夜入七ツ過

歸宅

九月朔日 晴

一七ツ過ヨリ鹿籠エ差越夜入七ツ半過歸宅

九月二日 晴

一八ツ時分鹿籠エ差越大鐘時分歸宅

一於福様此間ヨリ御病氣之所今八ツ時分終ニ御養生無御叶御死去誠

ニ残念ニ存上候

九月三日 晴

一七ツ過ヨリ鹿籠エ差越夜入五ツ時分歸宅

一今夕御入棺有之候

一忌中之御届今日申出候

一爲悔見廻之人數略ス

九月四日 曇

一無事

九月五日 曇

一今晚鹿籠エ御引越ニ付拙者ニモ差越具候様承候付七ツ過ヨリ打立  
屋敷へ差越御燒香相濟夕ヨリ御跡ニ付鹿籠へ差越候事

九月六日 曇

一今八ツ過御遺躰長善寺エ御着拙者ニハ旅宿エ直ニ着夕ヨリ長善寺  
エ差越歸宅御内葬今晚也宿末野岩五郎ト申者也

九月七日 雨

一大鐘時分ヨリ長善寺エ差越夜入五ツ過御葬送相濟歸宿

九月八日 雨

一四ツ過ヨリ長善寺エ御中陰御法事ニ付差越七ツ過相濟御墓參歸宿

長月九日 雨

一早朝御墓參

一晝時分ヨリ枕崎エ多門殿九郎殿善左衛門殿同道ニ而差越夜入五ツ  
過歸宿尤役々人ヨリ精進落之事

九月十日 雨

一曉鹿籠出立川邊明山公御石碁エ參拜木場茶屋ニ而暫ク相息又々谷  
山町へ同斷夜入過無滯歸宅

九月十一日 晴

一大鐘時分ヨリ鹿籠屋敷エ差越夜入九ツ時分歸宅郷原轉殿四ツ後壹

刻見廻也

九月十二日 雨

一八ツ後ヨリ川上左太夫殿喜入嘉次郎殿被參候大鐘時分ヨリ六郎左衛門殿五百介殿被參候

長月十三日 雨

一七ツ後助太郎殿六郎左衛門殿被參候

一御用人高橋縫殿御取次ヲ以御用差支ニ付被成忌御免明日ヨリ出勤イタシ候様被仰渡御請書差出置候事

九月十四日 雨

一昨日忌御免被仰付候得共風邪氣ニ而出動難致候付其段勤場御用人座の方へモ津留與右衛門殿相願申出置候事

菊月十五日 小雨

一八ツ後ヨリ相良佐平太殿六郎左衛門殿軍次郎殿五百介殿被參候

菊月十六日 雨

一四ツ時出勤九ツ過御歸宅

一大鐘時分ヨリ兵部様郷右衛門殿宗之丞殿御同道ニ而御出緩々御咄也

菊月十七日 雨風

一四ツ時出勤八ツ歸宅

長月十八日 雨

一四ツ時出勤八ツ前御暇尤佐土原使者登城引進トシテ相勤候事

九月十九日 半晴

一爲泊夕ヨリ出勤

菊月廿日 晴

一明番ニ而五ツ前御暇

一市兵衛殿軍次郎殿被參候

一新之介殿甚左衛門新介五百介六郎左衛門殿助太郎殿壹刻ツ、被參候

菊月廿一日 雨

一當番ニテ四ツ過ヨリ出勤七ツ時代合歸宅

同廿二日 半雨

一四ツ時出勤同刻過御暇掛重富喜入エ差越七ツ時分歸宅

同廿三日 晴

一五ツ過南林寺殿エ參詣伊勢氏エ壹刻差越造士館エ出勤八ツ後歸宅

一七ツ後ヨリ桂家鹿籠屋敷其ヨリ荒田へ差越夜入五ツ過歸宅

菊月廿四日 晴

一五ツ過ヨリ新波戸御臺場エ出張大炮打方有之八ツ時分相濟歸宅

同廿五日 晴

一五ツ時ヨリ津畑山元藤助所エ立寄其ヨリ辨天波戸エ出張大炮打方

有之九ツ過相濟歸宅尤打方人數拾五人召列候

同廿六日 晴

爲夕詰七ツ時分出勤夕御暇掛喜入屋敷エ差越夜入五ツ過歸宅

同廿七日 晴

一四ツ出勤八ツ御暇

一七ツ後ヨリ原良別莊エ差越一宿イタシ候事

菊月廿八日 雨

一夜入四ツ過原良ヨリ歸宅尤家内中原良へ參り候事

菊月廿九日 晴天

一五ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一五百介殿六郎左衛門殿被參候

九月晦日 晴

一四ツ時出勤九ツ過御暇

一八ツ前ヨリ原良江差越泊尤六郎左衛門五百介軍次郎與節万之進佐

平太被參候

十月朔日 晴

一夜入過原良ヨリ歸宅

十月二日 晴天

一四ツ時出勤八ツ前御暇

一八ツ時分ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

十月三日 晴天

一四ツ時出勤同刻過御暇出勤掛平佐工壹刻差越候

一明四日五日於御臺場漂的打方願置候處御免ニ相成候付向々工問合

差出置候事

一四ツ後大中公エ參詣其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

十月四日 晴

一五ツ時ヨリ辨天波戸エ出張大炮打方稽古被仰付八ツ後相濟歸宅尤

標的打方也家來人數召列候事

十月五日 晴

一五ツ時ヨリ新波戸エ出張大炮打方有之大鐘時分相濟歸宅尤御究發

數ヨリモ都而打方イタシ候様與御小姓人數御遣御下知ニ而相重候

事

一伊作温泉工湯治御暇差出候事

一夕ヨリ爲泊出勤

十月六日 晴

一早朝歸宅亦々四ツ時ヨリ出勤御暇掛重富工罷出其ヨリ書籍方エ差

越七ツ後歸宅

一明七日於辨天波戸ニ大炮打方白分ニ而稽古爲仕度御座候付實丸火

藥申請ヲ以被仰付度段相伺候處其通被仰付候事

十月七日 晴

一五ツ時ヨリ於辨天波戸大炮打方御免被仰付出張都而打方イタシ日

入過相濟歸宅尤書籍方人數集成館人數御軍役方ヨリモ被參候與御

小姓人數三人被差遣候北郷作左衛門拙者兩人ニ而火藥申請打方イ

タシ候事

十月八日 晴

一四ツ時出勤八ツ御暇七ツ後ヨリ鹿籠エ差越候

一湯治御暇願通御免被仰付候尤御家迄攝津殿名前ニ而御張紙也

十月九日 晴

一四ツ過造士館エ出勤九ツ過御暇

一八ツ後ヨリ成田彦十郎殿木脇權一兵衛殿竹下清右衛門殿外ニ七八

人被參夜入五ツ過被歸候御臺場一件相談候事北郷氏モ被參候

十月十日 晴

一四ツ時出勤明日ヨリ差越御届申出退出

十月十一日 晴

一四ツ後出立吉利迤差越候

十月十二日 風天

一鴻ニテ相撲有之爲見物差越夕歸宅

十月十三日 晴

一早朝參參

一吉利勢揃爲快イタシ候處余程ヨロシク相揃候

一七ツ後ヨリ伊作温泉エ差越候

温泉中略ス無事

十一月朔日 晴

一九ツ時分伊作出立吉利迄歸宅

十一月二日 晴

一早朝ヨリ爲駉諸所徘徊イタシ候事

十一月三日 晴

一同斷

霜月四日 半晴

一朝之内小兒ニ才學文武藝見分イタシ候事

一昼時分吉利出立夜入五ツ時分歸着尤横井迄根占甚左衛門林正之介

爲迎參リ居候事

十一月五日 晴

一今日迄ハ御暇内ニ而出勤モ不致候

十一月六日 晴

一四ツ時出勤御禮御届申出候御暇掛喜入屋敷エ差越七ツ時分歸宅

十一月七日 晴

一九ツ後ヨリ重富垂水入來平佐へ差越七ツ時分歸宅

一四ツ後作左衛門殿被參候

一爲泊夕ヨリ出勤

十一月八日 晴

一五ツ過歸宅

一八ツ前ヨリ永吉町田家へ差越其ヨリ原良別莊へ甚左衛門富之介同

道ニ而差越夜入過歸宅

十一月九日 陰

一爲鐵炮五ツ前ヨリ出張夕歸宅

霜月十日 陰

一爲夕詰七ツ時ヨリ出勤夕歸宅

霜月十一日 陰

一四ツ時出勤同刻過御暇祇園之洲御臺場ニ而大炮打方有之爲拜見差

越八ツ歸宅

一八ツ後ヨリ攝津殿御見舞七ツ過被歸候

十一月十二日 晴

一四ツ時造士館エ出勤八ツ歸宅

十一月十三日 半晴

一五ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

霜月十四日 大晴

一四ツ時造士館エ出勤御暇イタシ大門口御臺場へ大炮打方爲拜見差

越九ツ時分相濟歸宅亦々直ニ市爲見物差越夕歸宅

十一月十五日 晴

一四ツ時出勤御暇掛喜入屋敷エ差越候

一八ツ後ヨリ鹿籠エ差越其ヨリ鳴津大藏殿所エ差越夜入五ツ過歸宅

霜月十六日 陰

一五ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

十一月十七日 陰

一前条同斷

霜月十八日 雨

一四ツ時出勤八ツ歸宅

霜月十九日 晴

一五ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

霜月廿日 晴

一四ツ時講堂出勤同刻過ヨリ御殿工差越御暇掛福昌寺殿工參詣其ヨリ市爲見物差越歸掛鳴津勇馬殿所工差越御暇夜入歸宅

十一月廿一日 陰

一四ツ出勤

一タヨリ喜入屋敷工差越四ツ過歸宅

十一月廿二日 大霜晴天

一五ツヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

霜月廿三日 晴天

一早朝南林寺殿大中公英徳公江參詣其ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

霜月廿四日 晴雨交

一四ツ時出勤八ツ御暇

一七ツ後ヨリ草牟田へ差越夜入歸宅

十一月廿五日 半晴小寒人

一朝出トシテ出勤四ツ過御暇掛平佐へ差越同道ニ而市爲見物差越夕

歸宅

十一月廿六日 小雨

一五ツ時ヨリ爲鐵炮出張射込歸宅

一八ツ後ヨリ登殿隼見殿權五郎殿良馬殿主殿殿被參緩々咄ニ而候

十一月廿七日 陰

一八ツ後ヨリ攝津殿多門殿雄次郎殿外二四五人客來也

霜月廿八日 陰

一四ツ時出勤九ツ過御暇掛喜入屋敷工差越直ニ歸宅亦々七ツ後ヨリ

内藏殿所工今日弟勇四郎養子成之御禮申上候付爲祝差越夜入五ツ

過歸宅

霜月廿九日 雨天

一四ツ時分爲鐵炮出張夕歸宅

一夕過ヨリ大久保正助殿有村竹次殿被參候事

十一月晦日 雨天

一四ツ後ヨリ市爲見物差越七ツ過歸宅

一夕ヨリ爲泊出勤

十二月朔日 雨天卯辰之風大強

一泊明ニ而五ツ過歸宅

一八ツ後伊集院次左衛門殿壹刻被參候

十二月二日 小雨

一四ツ時出勤九ツ過御暇

一重富樂水殿奥方此間ヨリ御病氣有之内實ハ御死去之由ニ付爲御悔

御三方へ罷上歸宅

一夕ヨリ喜入屋敷工差越候

十二月三日 陰

一四ツヨリ爲鐵炮出張七ツ後歸宅

一七ツ後ヨリ重富御引越候付罷出夜入過歸宅

師走四日 陰

一四ツ後鹿籠工爲悔差越候

一夕詰ニ而七ツ前ヨリ出勤夕歸宅

一夜入過ヨリ有村奈良原被參候

十二月五日 陰

一四ツ出勤

一八ツ後ヨリ内藏殿薨殿軍次郎殿治部様同道イタシ原良別壯工差越

夜入過歸宅

十二月六日 陰天



一當番夕詰ニ而九ツ時分出勤夕御暇

一夕ヨリ喜入屋敷工差越候事

十二月七日 晴天

一爲鐵炮五ツヨリ出張夕歸宅

一夕ヨリ喜入屋敷工差越候

十二月八日 曇天

一四ツヨリ講堂工出勤八ツ御暇歸宅

一夕ヨリ伊集院次左衛門殿有川七之助殿被參候

十二月九日 雨天

一五ツヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一鎗爲式日五百介殿軍次郎殿萬之進被參候

十二月十日 曇天

一四ツ時出勤八ツ後御暇歸宅

一夕過ヨリ市成工差越候

一喜入多門殿加治木門前ニ而落馬怪我被致則拙宅之様被參療治等相

加五ツ過被歸候事

十二月十一日 小雨

一四ツ時出勤

一七ツ後ヨリ原良別莊工次左衛門殿同道ニ而差越拙者義ハ泊次左衛

門殿ニハ四ツ過被歸候事

十二月十二日 晴天

一五ツ過原良ヨリ歸宅

一夕ヨリ尚之介殿彦市郎殿被參候

十二月十三日 晴天

一爲鐵炮五ツ過ヨリ出張夕歸宅

十二月十四日 晴天

一四ツ時出勤八ツ御暇

一夕ヨリ義臣傳讀方相企北郷作左衛門殿町田助太郎殿入來院恰殿鳴

津仁十郎殿二階堂部殿島津權五郎殿同兵十郎殿被參七ツ過相濟被

歸候

十二月十五日 陰

一四ツ時出勤九ツ過御暇

一夕ヨリ平佐工差越候

十二月十六日 雨天

一四ツ時造土館工出勤八ツ後歸宅

一八ツ後ヨリ福昌寺殿英徳公御靈屋工參詣其ヨリ重富工壹刻罷出歸

宅

一夕ヨリ雄市郎殿被參候

十二月十七日 雨天

一爲鐵炮四ツ時ヨリ出張夕歸宅

十二月十八日 晴天

一御兵具方取會鐵炮ニ付六ツ過ヨリ出張射込七ツ過歸宅

一爲泊夕出勤

十二月十九日 曇天

泊明ニ而五ツ過歸宅

一四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

十二月廿日 晴

一當番付九ツ時分出勤御暇掛喜入屋敷工差越夕歸宅亦々平佐工差越

五ツ過歸宅萬之進殿明日御側ヨリ御用承知

十二月廿一日 雪天

一五ツ時喜入屋敷工差越萬之進同道イタシ出勤九ツ過御暇爲鐵炮出張射込イタシ又々七ツ過ヨリ喜入屋敷工差越夜入四ツ過歸宅尤萬之進今日表御小姓被仰付難有悦ヒ有之事

十二月廿二日 雪天

一爲夕詰七ツヨリ出勤夕御暇

師走廿三日 雨天

一爲鐵炮五ツ前ヨリ出張夕歸宅

十二月廿四日 曇天

一四ツ時出勤

十二月廿五日 雨天

一五ツ過南林寺殿大中公英徳公御兩殿工參詣直ニ歸宅

一四ツ時出勤九ツ過御暇

十二月廿六日 小雨

一四ツ時ヨリ爲鐵炮出張夕歸宅

一夕ヨリ大久保正助殿被參候

十二月廿七日 半晴

一四ツ時出勤

一夕ヨリ黒木工壹刻差越候

一伊勢雅樂殿御臺場請持同役被仰付置候得共聞得候趣有之御役御免被成候由ニ而右跡代準人殿へ被仰付候

十二月廿八日 小雨

一四ツ時出勤御暇掛福昌寺殿英徳公御靈屋工九拜其ヨリ重富工爲歳暮參上七ツ過歸宅

暮參上七ツ過歸宅

小松 帶刀

右ハ來正月廿日加世田野間權現御祭禮ニ付御代參被仰付候条着服

素袍烏帽子ニ而被相勤御代參前以猪鹿之類賜候儀日數廿日遠慮可有之候

右之通可被相勤旨可申渡候

十二月

織部

右之通今日名代ニ而被仰付候段申來候事

一七ツ後ヨリ永吉町田家梅田家隣へ爲歳暮差越夕歸宅

十二月廿九日 雨天

一四ツ時出勤九ツ過御暇歸宅

一爲泊番夕ヨリ出勤

一七ツ後御臺場へ準人殿同道ニ而差越直ニ歸宅

十二月晦日 曇

一泊明ニ而五ツ前歸宅

# 小松帶刀日記(文久元年)

(未)  
文久改元二月廿八日ヨリ

萬延二辛酉正月ヨリ

(未)  
御側役勤五月十八日被仰付候  
御參勤御供八月三日被仰付候事

日記  
大 二 三 五 七 九 十二  
小 正 四 六 八 十 十一

凡日數三百五十四日

平 清兼

一 彼岸	二ノ七	一 大寒	十二ノ廿一
一 入梅	八ノ十六	一 節分	
一 出梅	五ノ廿三	一 春分	二ノ十
一 小暑	五ノ晦	一 夏至	五ノ十四
一 大暑	六ノ十六	一 秋分	八ノ十九
一 土用	三ノ八、六ノ十二、 九ノ十七、十二ノ十九	一 冬至	十一ノ廿一
一 小寒	十二ノ六	一 二百十日	七ノ廿七

酉正月元日 晴

- 一 早朝ヨリ上方エ爲年禮差越候
- 一 五社并福ヶ迫諏訪社福昌寺殿工參詣七ツ前歸宅
- 一 七ツ後ヨリ下方へ差越夕歸宅
- 一 八ツ後吉書初イタシ候事
- 一 朝夕規式毎例之通

正月二日 陰晴

- 一 四ツ後ヨリ下方エ爲年禮差越七ツ後歸宅
- 一 南林寺殿大中公英徳公御兩殿工參詣
- 一 喜入父上様御方へ以書狀御祝儀申上候
- 一 七ツ半時分ヨリ於表庭諸稽古初有之候事
- 正月三日 大雨
- 一 五ツ時出殿七ツ過御式相濟歸宅

正月四日 曇

- 一 四ツ時出勤九ツ過御暇掛上方エ爲年禮差越夕歸宅

正月五日 半晴

- 一 四ツ出勤八ツ後御暇歸宅
- 一 夕ヨリ北郷作左衛門殿八木稱平殿宇宿彦右衛門殿野津七左衛門殿町田助太郎殿被參候事

五月六日 曇

- 一 四ツ時出勤八ツ御暇掛平佐エ差越七ツ過歸宅
- 一 夕ヨリ宇宿彦右衛門殿被參候

正月七日 雨天

- 一 四ツ時出勤八ツ御暇夕ヨリ喜入工差越四ツ過歸宅

正月八日 曇天

- 一 四ツ時出勤八ツ御暇

正月九日 半天

- 一 四ツ出勤同刻過御暇直ニ爲鐵炮出張夕歸宅

正月十日 半天

- 一 四ツ時出勤八ツ御暇

- 一 大鐘時分ヨリ乘廻ニテ原良別莊工差越夜入五ツ過歸宅

正月十一日 晴天

一五ツ時出勤於御用人座御用人三原藤五郎ヨリ左之通被仰付候

小松 帶刀

右ハ御用有之出崎被仰付九州賦被下置候条仕廻次第立日限被申出候様可申渡候

但御臺場受持被仰付置候付被罷歸迄之間親類等之内ヨリ致差

引候様被仰付

正月 筑後

右同斷北郷作左衛門ニモ被仰付候

則日北郷談合左之通書付ヲ以申出置候

覺

私共事御用有之出崎被仰付左候而九州賦被成下候段被仰渡難有仕合奉存候右ニ付テハ兼而難有大祿ヲモ被下置候ニ付自分ニテ相勤申度奉存候間右御賦之義ハ差上度奉存候此段申上候以上

西正月十一日

北郷作左衛門

小松 帶刀

一四ツ後退出掛喜入屋敷工差越直ニ歸宅爲御禮筑後殿取次御用人等工差越候

正月十二日 晴天

一四ツ時出勤九ツ過御暇掛北郷氏工壹刻差越歸宅

一夕ヨリ五百介殿六郎左衛門殿被參候

正月十三日 曇

一四ツ時ヨリ爲鐵炮洲崎工出張夕歸宅

正月十四日 半晴

一四ツ出勤九ツ過御暇直ニ市成下屋敷工任招差越夜入五ツ過歸宅

正月十五日 曇

一四ツ時出勤九ツ過御暇直ニ原良別莊工差越夕過歸宅

同 十六日 曇

一四ツ後ヨリ平佐屋敷工差越夜入五ツ過歸宅

正月十七日 半天

一四ツ時出勤同刻過御暇

一七ツ過ヨリ此節於長崎御買入相成候蒸氣船廻船ニ付御臺場工出張入津之上乗込拜見被仰付夜入五ツ過歸宅

正月十八日 半晴

一四ツ出勤同刻過御暇

一上様御船御覽ニ御出御歸掛御臺場御見分被遊段被仰渡候付九ツ前

ヨリ出張待上居候處八ツ前御出ニ相成旁御都合能御見分モ相濟八ツ後歸宅

正月十九日 半晴

一四ツ時出勤同刻過御暇諸所爲暇乞差越八ツ過歸宅亦々七ツ過ヨリ護生寺工佛詣其ヨリ下方詰所工差越夕歸宅直ニ喜入屋敷工差越夜入五ツ過歸宅

筑後殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右ハ御用有之出崎被仰付置候付蒸氣船工乗船被仰付被遣候条可

申渡事

右之通御用人三原藤五郎御取付ヲ以被仰付候事

正月廿日 半晴

一早朝福昌寺英徳公工拜重富周防様御方工モ罷出其ヨリ福ヶ迫諏訪社工參詣直ニ出勤九ツ過歸掛喜入屋敷工差越直ニ歸宅

一明日出船ニ付七ツ過ヨリ段々客來有之候事

正月廿一日 晴天

一六ツ半過ヨリ段々客來有之五ツ時出立津畑田邊所エ壹刻立寄直ニ乗船也尤段々津畑船追見送人數在之候事

一七ツ過前之濱出帆蒸氣也

一供嶺崎市太夫上脇三彌人足仁平次召列候事濱崎中日簿別冊ニ記ス故略ス

三月十八日 晴天

一市來湊早朝出立ニテ無事ニ而大鐘時分安着イタシ候事

一段々客來在之候事

三月十九日 雨天

一四ツ時出勤御禮御屈御用人工相付申出候處御家老謁之義ハ御座支ニ付爲有之筋ニ相心得候様被仰付候事

一九ツ過御暇掛福昌寺英徳公エ參詣其ヨリ重富周防様御方エ罷出詰所廻勤七ツ過歸宅

一御繪圖 一枚

右八木稱平殿譯方被仰付候内壹枚丈出來ニ而持越御小納戸中山尚之介殿御取付ニテ差出置候事

三月廿日 晴

一四ツ出勤九ツ過御暇福昌寺英徳公エ拜其ヨリ諸所エ差越七ツ過歸宅

一夜入過ヨリキ入屋シキエ差越四ツ過歸宅

三月廿一日 晴天

一四ツ前出勤九ツ過御暇歸宅直ニ御用有之亦々罷出候處此節長崎表ニ而傳習之着發彈水雷可被遊御覽旨被仰出候段御側役平田伊兵衛

殿ヨリ致承知候事

三月廿二日 曇

一四ツ時出勤八ツ後御暇  
一夕ヨリ平佐エ差越候事

三月廿三日 晴

一四ツ過南林寺殿大中公英徳公エ參詣直ニ歸宅  
一九ツ過ヨリ爲當番出勤九ツ過歸宅

三月廿四日 晴

一大鐘過ヨリ重富御三居様エ罷出夜入四ツ過歸宅  
一夕詰トシテ七ツヨリ出勤夕歸宅

三月廿五日 半晴

一四ツ時重富エ罷出九ツ過歸宅  
二月廿六日 半晴

一四ツ時出勤九ツ過御暇  
一夕過ヨリ山野平之丞被參候

彌生廿七日 半晴

一每之通出勤九ツ過御暇  
一夕ヨリ大久保氏被參候事

三月廿八日 半晴

一四時前出勤九ツ過御暇  
一御目見有之奏者相勤候事

一八ツ後諸所エ廻勤七ツ過歸宅

一夕ヨリ奈良原喜八郎殿町田六郎左衛門殿被參候事

三月廿九日 曇

一四時爲鐵炮出張夕歸宅

一 鎗爲式日日高軍次郎殿被參候事

三月晦日 曇天

一 四時出勤九ツ過御暇

一 夕ヨリ奈良原氏工差越四ツ過歸宅

四月朔日 曇

一 當月中奏者方月番之事

一 早朝出勤八ツ御暇

一 南林寺殿大中公英徳公工參詣

四月二日 晴天

一 五ツ過出勤八ツ御暇

一 八ツ後攝津殿被參暫ク咄ニテ被歸候事

一 七ツ過ヨリ諸所廻勤イタシ候事

四月三日 雨天

一 四時出勤八ツ退出

一 夕ヨリキ入工差越四ツ過歸宅

四月四日 晴天

一 四時出勤八ツ前御暇

一 七ツ前ヨリ原良別莊工差越一泊

四月五日 曇天

一 早朝歸宅

一 爲當番九ツ時ヨリ出勤七ツ過歸宅

一 夕ヨリ石川確太郎殿被參候事

四月六日 曇

一 四時出勤八ツ退出

四月七日 雨天

一 四ツ時出勤八ツ退出

四月八日 晴天

一 四ツ出勤八ツ退出

一 七ツ過ヨリ中村工屋敷爲見分差越夕歸宅

一 夕過ヨリ北郷作左衛門殿山田良介殿相良<sup>ママ</sup>殿野津七左衛門殿津

留與右衛門殿禰甚左衛門殿被參候事

四月九日 曇

一 四ツ出勤九ツ過御暇掛集成館工差越夕歸宅

一 夕ヨリ六郎左衛門殿軍次郎殿吉利勇藏ニモ參り候事

四月十日 半晴

一 四ツ出勤退出ヨリ平佐工差越七ツ過歸宅

四月十一日 半晴

一 每之通出勤八ツ退出

四月十二日 小雨

一 月番相頼候事

一 鳴津壬生殿江戸ヨリ着ニ而横井迄爲迎北郷同道ニ而差越九ツ過歸宅

一 蒸氣船江戸ヨリ今日人津尤右御船天祐丸ト相唱候様先度被仰渡候事

四月十三日 雨天

一 四ツ出勤九ツ過御暇掛下町下會所工此節天祐丸ヨリ長崎地役人本庄寛二郎杉山徳三郎被參付北郷同道イタシ見舞之事

四月十四日 半晴

一 四ツ出勤九ツ過御暇掛集成館工差越七ツ過歸宅

一 夕ヨリ六郎左衛門殿軍次郎殿萬之進殿被參候事

四月十四日 半晴

一 四ツ出勤九ツ過御暇掛集成館工差越七ツ過歸宅

一 夕ヨリ六郎左衛門殿軍次郎殿萬之進殿被參候事

四月十五日 晴天

一四ツ出勤八ツ退出

一七ツ過ヨリ郡本村水車場工爲見分差越歸掛鹿籠屋鋪工差越夜入九ツ過歸宅

四月十六日 半晴

一四ツ時出勤退出ヨリ磯集成館工差越七ツ半過歸宅

四月十七日 雨天

一四ツ出勤八ツ退出

一夕ヨリ宇宿彦右衛門殿鎌田市兵衛殿山元喜左衛門殿黒田藤十郎殿被參候事

四月十八日 晴天

一四ツ出勤退出ヨリ磯集成館工差越夕歸宅

同十九日 半晴

一四ツ出勤八ツ退出

四月廿日 雨天

一四ツ出勤八ツ退出

一七ツ過ヨリキ入工差越夜入五ツ過歸宅

一福昌寺殿英徳公工參詣

四月廿一日 半晴

一上様吉野御馬追ニ付爲御登相成候付五ツ過ヨリ罷登八ツ過歸宅

一市兵衛殿車次郎殿甚左衛門被參候

四月廿二日 雨天

一四ツ出勤八ツ退出

四月廿三日 小雨

一四ツ出勤退出ヨリ集成館工差越七ツ過歸宅

一來ル廿六日谷山工御遠馬ニ付於調練場着發彈御覽可被遊旨被仰渡候事

一夕ヨリ大久保堀被參候

四月廿四日 雨天

一御殿別勤

一四ツ時ヨリ調練場工標の拵方爲見分差越九ツ過歸宅尤御作事奉行立合ニテ候事

四月廿五日 半晴

一四ツ出勤同刻過ヨリ集成館工差越夕歸宅

四月廿六日 雨天

一於調練場着發彈御覽ニ付六ツ過ヨリ出張五ツ過御出ニ相成直ニ打方被仰付候尤拙者被召御前彈之仕込等御覽段々難有義御意同刻過打方相濟谷山之様御越ニ相成候事

一打方人數書籍方人數也

一七ツ時ヨリ重富御三居様先達而御煩有之右御快氣御祝ニ付罷出候様被仰付罷出夜入五ツ過歸宅

四月廿七日 雨天

一五ツ過出勤八ツ退出

一御小納戸御側役工相付昨日之御禮申出置候事

四月廿八日 半晴

一五ツ過出勤八ツ退出掛平佐工差越七ツ過歸宅

一夕ヨリ脇方工差越候事

四月廿九日 曇天

一四ツ時出勤八ツ退出

五月朔日 雨天

- 一 當番頭方奏者方月番之事
- 一 五ツ過出勤九ツ過御暇
- 一 福昌寺英徳公歸掛重富エモ罷出候事
- 一 南林寺殿大中公エモ參詣
- 一 當月ヨリ御臺場當番
- 一 五月二日 晴天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 治部様杯キ入ヨリ御歸ニ付爲迎相良佐平太同道ニ而谷山町迄八ツヨリ差越夕歸宅
- 一 青毛駒八才
- 一 右寺尾氏ヨリ賞請候付取付左平太殿ニ而候事
- 一 夕ヨリ内藏殿同道ニ而平佐エ差越候事
- 一 五月二日 陰天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 五月四日 雨天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 五月五日 雨天
- 一 五ツ過出勤御祝義申上九ツヨリ御暇掛福昌寺殿英徳公御惣靈様エ拜重富和泉様御方エモ罷出諸所爲祝義差越七ツ過歸宅
- 一 一七ツ過ヨリ入來院家ニ男初昇ニ付差越夕歸宅
- 一 夕ヨリ客來也
- 一 五月六日 雨天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 五月七日 雨天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 一七ツ後ヨリ平佐下屋敷エ差越夕歸宅
- 一 夕ヨリ林庄之介西田次郎太被參候事
- 一 五月八日 小雨
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 才通様七ツ時分ヨリ御出也
- 一 五月九日 雨天 入梅
- 一 今日ヨリ霍亂塩梅ニ而引入御殿相頼越候事
- 一 五月十日 曇天
- 一 少々ハ快氣之方
- 一 昨日御軍役方ヨリ御用有之北郷名代承被具候由着發彈往々經ケンイタシ候様御沙汰之由承知イタシ候事
- 一 五月十一日 晴天
- 一 彌今日ハ宜敷候事
- 一 五月十二日 晴
- 一 今日迄ハ出勤不致候事
- 一 五月十三日 晴天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 キ入エモ差越候事
- 一 五月十四日 雨天
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 町田助太郎殿所エ爲悔差越直ニ歸宅
- 一 五月十五日 晴
- 一 四ツ出勤八ツ退出
- 一 夕ヨリ軍次郎殿參候事
- 一 五月十六日 晴



一當番ニ付四ツ過出勤七ツ過退出

五月十七日 晴

一辨天波戸御臺場大炮打方トシテ早朝出張四ツ過相濟歸宅直ニ出勤

九ツ過御暇掛喜入屋シキエ差越直ニ歸宅

一九ツ過於御座但馬殿ヨリ御側御用人谷川次郎兵衛御取付御供目付

原田才之丞ヨリ明四ツ時御差圖御用之段承知イタシ御請申出置候事

一夕ヨリ治部様富之介勇四郎外ニ用頼被參候事

五月十八日 曇天

一五ツ過出殿谷川次郎兵衛殿工御届申出置候處四ツ時鹿之間ニ而左之通被仰付候

御側役勤

小松 帶刀

當御役ニ而右之通被

仰付候

五月 但馬

一右之通承知直ニ御用部屋工罷出口直記平田伊兵衛工逢則相詰候事

一御目見直記殿被召列於御休息所御禮申上候事

一八ツ前ヨリ御暇直ニ福昌寺殿

英徳公惣御靈様工拜

和泉様御方御次込御禮申上諸所爲御禮廻差越八ツ過歸宅亦々下方

エ差越七ツ半時分歸宅

一客來モ段々有之候九ツ過引取ニ相成候事

五月十九日 半晴

一五ツ時出勤八ツ後退出ヨリ重富

和泉様御方エ拜謁七ツ過歸宅

一七ツ後ヨリ下方エ廻勤夕歸宅

一夕ヨリ中山被參候事

五月廿日 半晴

一早朝福昌寺殿

英徳公エ拜其ヨリ直ニ出勤八ツ後退出同刻過ヨリ下方エ廻勤夕歸宅

一夕ヨリ北郷氏被參候事

五月廿一日 曇

一五ツ過出勤八ツ後退出

一八ツ後ヨリ上方エ見舞歸宅

一夕ヨリキ入屋シキエ差越四ツ時分歸宅

五月廿二日 同

一五ツ過出勤八ツ退出

一夕ヨリ客來有之候事

五月廿三日 晴

一早朝南林寺殿

大中公

英徳公エ參詣歸宅直ニ出勤八ツ後退出

一爲泊夕ヨリ出勤

五月廿四日 雨天

一八ツ後退出

一夕ヨリ客來有之候事

五月廿五日 晴天

一五ツ過出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ児玉氏入來

五月廿六日 晴

一 五ツ過出勤ハツ後退出

一 夕ヨリ青山町田左被參候事

五月廿七日 晴

一 五ツ過出勤ハツ後退出

五月廿八日 雨天

一 五ツ過出勤ハツ後退出

一 七ツ過ヨリ靜洞様兵部様治部様御出緩々御咄ニ而四ツ過御立也尤

用頼甚左衛門恕三被參候事

五月廿九日 雨天

一 四ツ前出勤ハツ後退出

一 喜入多門殿今日當番頭御役被仰付候段吹聽申來候

五月晦日 曇天

一 五ツ過出勤ハツ後退出

一 夕ヨリ町田内膳殿被參夜人四ツ過被歸候書役有馬九左衛門ニモ參

リ候事

六月朔日 雨天

一 於御對面所忠孝之者

御覽被 遊候事

一 早朝福昌寺殿

英徳公

惣御靈様工拜

和泉様御方工爲御祝義參上其ヨリ出勤ハツ後退出

一 七ツ後南林寺殿

大中公

英徳公工參詣其ヨリ鹿籠工爲祝義差越夕歸宅

六月二日 半天

一 五ツ過出勤ハツ後退出

林鐘三日 曇天

一 五ツ過出勤ハツ後退出尤今日ハ日舉之事

六月四日 晴曇交

一 四ツ前出勤ハツ後退出

夕ヨリ市成工差越五ツ退歸宅

林鐘五日 晴

一 五ツ過喜入屋敷工差越其ヨリ出勤ハツ後退出

小松 帶刀

右ハ辨天波戸御臺場請持被仰付置候得共被成御免候条可申渡候

六月 攝津

右之通被仰渡候則御軍役方エモ届申出置候事代リ嶋津主殿殿工被

仰付候申承候

一 爲泊番夕ヨリ出勤

六月六日 晴

一 泊明ニ而九ツ過退出

一 暉姫様

勝姫様

寧姫様

右御禮狀

一 詰之御家老式部殿大目附龍衛殿工御禮書狀仙波氏エモ吹聽狀

右之通今日定式御飛脚便ヨリ申上候尤御用部屋書役所ニ而認方相

頼候事

一七ツ過ヨリ原良別荘ニ差越夜入過歸宅

林鐘七日 晴

一四ツ前出勤八ツ後退出掛喜入屋敷ニ差越同刻過歸宅

一夕ヨリ中山大久保被參候事

晚夏八日 晴夕立

一五ツ過出勤八ツ退出

一夕ヨリ北郷宇宿加治木被參候事

六月九日 晴

一五ツ過出勤八ツ後退出

一八ツ過ヨリ調練場ニ而着發彈打方トシテ出張ニ發打方イタシ候處

貳發ハ余程宜敷壹發ハ不宜候七ツ過歸宅

一七ツ過ヨリ外御庭御馬ニ付罷出候様御沙汰ニ付罷出尤持馬人來青

毛駒爲率候様

御沙汰ニ付爲率町田佐次右衛門乗方

御覽ニ相成候事且亦相良家水青毛モ備

上覽候事

林鐘十日 晴

一四ツ前出勤八ツ後歸宅

一夕ヨリ中山石川被參候同過ヨリ堀大久保被參候事

六月十一日 晴

一四ツ前出勤八ツ後退出

一七ツ時分ヨリ

和泉様御方エ罷上り夕歸宅

林鐘十二日 大晴土用入

一入來青毛駒御廐ヨリ御用有之率出候様昨日申來四ツ時爲率差出

一青毛被爲

御率候由ニ付進上イタシ候事御取次御小納戸伊集院中ニヨリ被遊

御貫段承知イタシ候事

一四ツ出勤八ツ御暇

一八ツ後ヨリ御用部屋御側御用人座書役召呼候事

六月十二日 晴

今日ヨリ

上様磯工御越四ツ時御供揃同刻過磯御茶屋工御入 御滞在

一御先番トシテ五ツ過ヨリ磯工出勤八ツ半時分御用相濟御暇掛

和泉様御方エ上り七ツ半歸宅

林鐘十四日 大晴

一於磯此節拙者北郷傳習之水雷

御覽ニ付四ツ前ヨリ罷出八ツ半過相濟御暇尤水雷余程能出來仕合

之至御座候石川確太郎萬端前廣ヨリ手當イタシ今日モ石川仕掛候

事

造化神巧人奪來 乾坤洪力一絲媒

不容醜虜窺灣口 齊粉鐵船奮怒雷

奉賀

小松平佐君電氣水雷

橘 光龍稿

右石川確太郎ヨリ被贈候付留置

六月十五日 晴

一四ツ時出勤八ツ後退出

一八ツ後ヨリ祇園山見物トシテ不及殿軍悅殿助之丞九左衛門祐右衛

門市郎右衛門新左衛門被參候

林鐘十六日 晴 大暑入

一四ツ前出勤八ツ後退出

一五ツ時ヨリ福昌寺殿

英徳公 御廟所エ參詣其ヨリ和泉様御方エモ御伺トシテ罷出山田

壯右衛門殿所エモ此節御用取次被仰出候爲祝義差越候事

一七ツ後ヨリ打立吉利エ明日法事ニ付差越夕着致シ候事尤用頼根占

甚左衛門被差越候事

六月十七日 晴

一清猷院様七回御忌法事ニ付五ツ過ヨリ蘭林寺エ差越八ツ後首尾能

相濟惣御靈ヘモ拜假屋工歸宅

一七ツ半時分吉利打立歸宅

一御殿右形行ニ付相頼候事

六月十八日 晴

一四ツ前出勤八ツ後御暇掛喜入屋敷エ差越七ツ歸宅

一七ツ後垂水ヨリ参リ呉候様承候付差越讃岐殿同道イタシ重富御三

居エ罷出夕歸宅

一淨光明寺殿エ代參差上候

六月十九日 晴

一磯詰トシテ四ツ前船ヨリ出勤七ツ過退出

一北郷氏ヨリ二百目車砲被差上候事

林鐘廿日 晴

一福昌寺惠燈院淨光明寺殿

御參詣

一御參詣惠燈院工爲 御見番差越

御參詣相濟歸掛諸所暑中見舞イタシ七ツ前歸宅

一英徳公 御忌日付參詣

惣御靈様ヘモ拜

一淨光明寺殿

得佛公エモ參詣

一七ツ過ヨリ鹿籠日置大藏殿菱刈殿エ暑中見舞イタシ夕歸宅

六月廿一日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一先日水雷火被遊

御覽候處余程宜鋪出來

御滿悦ニ被

思召ニ付爲 御褒美晒壹延拝領被仰付候段町田内膳ヨリ致承知難

有御礼申上置候事尤北郷ニモ同斷被仰付候事

一夕ヨリ中山石川被參候事

林鐘廿二日 晴

一五ツ過ヨリ磯御茶屋エ出勤八ツ後御暇

一夕ヨリ大久保被參候事

六月廿三日 晴夕立

一南林寺殿

御忌日付磯御茶屋エ四ツ時御供揃ニ而

御參詣御供トシテ五ツ前罷出候事

一御出ニハ御船ヨリ 御出ニ相成候得共

御歸館之折ハ少々風強ク相成陸地ヨリ亦々磯之様 御歸館也八ツ

半過歸宅

一七ツ過南林寺

大中公 英徳公エ参詣直ニ歸宅

一夕壹刻青山被參候

六月廿四日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出

一花火作トテ青山被參候事

一夕ヨリキ入エ差越五ツ前歸宅

一飯繩大明神六月堂ニ付参詣イタシ候事

林鐘廿五日 雨天

一磯詰トシテ五ツ過ヨリ出勤八ツ後退出

一今日モ花火作トシテ青山被參候事

六月廿六日 晴夕立

一四ツ出勤八ツ後退出

一八ツ後攝津殿入來

一七ツ後ヨリ中山被參候事

六月廿七日 晴夕立

一四ツ出勤八ツ後退出

一八ツ過ヨリ下方エ暑中見廻トシテ差越夕歸宅

六月廿八日 晴

一太守様磯御茶屋エ六ツ半時 御供揃ニ而

御歸殿月次御禮初而之御目見相濟九ツ時分又々磯之様被遊 御出

候事

一六ツ半時分出勤八ツ後退出

一重富御家督之御禮ニ付兩種差上候事

一又次郎殿周防殿ト御改名被成候事

一周防様ヨリ 御酒一樽 御肴一折 御祝之品トシテ被成下候事

一七ツ過ヨリ見玉雄一郎殿被參候事

六月廿九日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ過ヨリ重富エ昨日之御祝義且御禮トシテ罷出歸掛平佐喜入エ

差越夕歸宅

一青山花火作トシテ被參候事

一軍次郎萬之進式日トシテ被參候事

七月朔日 曇天

一早朝福昌寺エ参詣其ヨリ 和泉様御方エ爲御祝義罷上其ヨリ磯詰

ニ付出勤八ツ後退出

一夕ヨリ中山被參候事

七月二日 陰東風

一四ツ出勤八ツ後退出

一笹山東吾方ヨリ書狀并外國行日記外ニ紙包末廣等被贈相届候事

一二之丸鏡智院式日付罷出夕歸宅

一七ツ後橋口莊助殿被參候事

七月三日 雨天北東風

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ後大久保被參候事

一夕ヨリ喜入屋敷エ差越夜入五ツ過歸宅

七月四日 曇

一四ツ出勤八ツ後退出

一甚左衛門宗之丞殿被參候事

一昨日ヨリ今日兩日之内天氣次第蒸氣船乘廻方被仰付置候得共今日

追毛風并不宜段御船頭ヨリ申出形行ヲ以磯御茶屋エ申上置候事

七月五日 晴

一五ツ過ヨリ磯詰トシテ出勤

一八ツ後ヨリ蒸汽船運働方トシテ磯御茶屋下ヨリ櫻島古郷湯之元瀬

一戸御臺場之所迄運動夜入五ツ前磯込着直ニ運動之次第旁申上置候

一事尤石川確太郎田中壯之進ニモ乗船也

一四ツ過御暇歸宅

七月六日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

七月七日 晴

一四ツ出勤九ツ御暇掛福昌寺

一英徳公 御靈并惣御靈様エ参詣其ヨリ重富北泉様御方エ御祝義トシテ参上御目見被仰付候御三居喜入ヘモ差越七ツ過歸宅

七月八日 晴

一四ツ前入來家エ差越喜入エモ立寄出勤八ツ御暇

一七ツ時分ヨリ町田内膳殿所エ差越大鐘時分歸宅

一今日モ青山被参候事

七月九日 晴

一磯詰トシテ五ツ過出勤八ツ御暇

一夕ヨリ客來

一鎗式日トシテ軍次郎五百介萬之進被参候事

一青山今日モ被参候事

七月十日 晴

一五ツ過喜入エ差越其ヨリ出勤八ツ後退出

一青山被参候事

一淨照院様御正忌日付護生寺エ代参申付候事

一夕ヨリ客來

七月十一日 晴七ツ過夕立

一四ツ出勤八ツ後退出

一夕ヨリ兵部様御出

七月十二日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ半過ヨリ喜入屋敷エ生身御魂祝トシテ差越夜入四ツ時分歸宅

七月十三日 晴

一五ツ過ヨリ磯詰トシテ出勤

一八ツ時磯御茶屋エ御供揃御茶屋下ヨリ蒸氣船エ被爲召出物藏様脇御渡戸ヨリ 御上陸御馬ニ而御歸殿ニ付御供相勤七ツ半過歸宅

七月十四日 晴

一例年之通 靈祭

一五ツ過出勤九ツ過御暇掛福昌寺并淨光明寺殿エ参詣喜入屋敷エモ差越七ツ時分歸宅

一福昌寺惠燈院淨光明寺 御参詣之事

一今日ハ日擧

七月十五日 晴昼夕立

一靈祭例年之通

一四ツ後ヨリ鹿籠屋敷エ差越其ヨリ南林寺殿

大中公 英徳公エ参詣九ツ過歸宅

七月十六日 晴

一早朝福昌寺

一英徳公御正忌日付参詣直ニ歸宅

一四ツ時出勤八ツ後御暇

一 夕ヨリ客來

七月十七日 晴

一 四ツ前出勤八ツ後御暇

一 晝夜共客來

七月十八日 晴

一 四ツ前出勤八ツ後 御講釋相講退出

一 青山被參候花火今日迄出來山伏相頼清メ置候事

一 「連珠」 「奇峯雷鳴双黃龍」

右貳ツ晝

一 「欺雪晴」 「紅白二段」 「芭蕉火」

右三品宵打上ケ五寸口

右ハ近々磯ニ而花火被遊御賦付作方イタシ候様先頃被仰付候付青

山氏談合相調候事

一 夕ヨリ竹下清右衛門ドノ被參候事

初秋十九日 晴夕夕立

一 四ツ出勤八ツ後御暇

一 八ツ過ヨリ原良別莊エ差越夜入九ツ過歸宅尤兩三人客來有之候事

七月廿日 陰夕立交

一 福昌寺

御參詣ニ付爲御供五ツ過出勤 御供相勤九ツ半時分御暇掛又々福

昌寺殿

英徳公 御正忌日付參詣直ニ歸宅

初秋廿一日 雨晝ヨリ晴

一 五ツ時御供揃ニ而磯 御出 御逗留

一 爲御先番六ツ過ヨリ磯エ出勤八ツ後御暇歸宅

一 夕ヨリ權太郎被參候事

初秋廿二日 陰

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ兩三輩入來

初秋廿三日 晴陰交

一 五ツ過南林寺殿

大中公

英徳公エ參詣其ヨリ直ニ出勤八ツ後退出

一 七ツ過ヨリ喜入屋敷エ差越夜入過歸宅

七月廿四日 晴東風

一 四ツ前出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ石川被參候事

七月廿五日 陰小雨東風強

一 五ツ過ヨリ磯詰トシ出勤八ツ後歸宅

一 八日立御飛脚相付御用部屋御用封差出候事尤極々急キ飛脚也宛書

之通爲持差遣候事

七月廿六日 陰小雨東風

一 四ツ出勤八ツ後退出

打揚

昼

一 白煙玉雙黃龍上黒雲

一 白龍縱橫行

一 奇峯雷鳴双黃龍

一 連珠

夜

一鉛鱗昇降龍

一登龍發氣車

一星夜玉含獨龍

一欺雪ノ星

一芭蕉火

都合九本

右之通磯御茶屋工爲持差上候事

一福ヶ迫諏訪社工代參申付差遣候事

七月廿七日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

七月廿八日 晴

一五ツ時磯御茶屋工御供揃新橋口迄ハ御乘廻ニ而御歸殿月次之御禮

並初而之 御目見等上覽亦々前條之通ニ而磯御茶屋工被爲

入被遊 御逗留候事

一前條ニ付爲御供六ツ過磯御茶屋之様罷出御供相勤八ツ前歸宅

七月廿九日 晴

一五ツ過ヨリ爲磯詰出勤八ツ後御暇

一四日立御飛脚今朝五ツ時着イタシ候事

七月晦日 晴陰小雨

一四ツ出勤八ツ後御暇

御泥障 壹掛

但熊之皮

一右之緒

但青

一御轡 貳間

一麻緒御上下地 貳端

右之御品先日馬進上イタシ候御返シトシテ頂載被仰付段於御近

習番所伊集院中ニ御取次ヲ以拝領イタシ御禮當人工申出置候事

一町田六郎左衛門殿ヨリ注文具書狀等相届候事

八月朔日 小陰小雨東風強

一五ツ時磯御茶屋工御供揃

御乘廻ニ而新橋ヨリ壹本御道具御行列打立御歸殿八朔之御式 御

請亦々御供揃御乘廻ニ而磯之様被爲 入被遊 御逗留候事

六ツ過爲御供磯之様出勤 御供相勤候事

御歸殿直ニ罷歸リ服着替直ニ出勤九ツ過御暇掛

大奥エモ御祝儀申上其ヨリ福昌寺殿

英徳公其御外

御惣靈様工參詣

北泉様御次迄御祝儀申上御三居方エモ罷出喜入エモ差越八ツ過歸

宅

一七ツ過ヨリ登殿左衛門殿町田家

大中公エ參詣同刻過歸宅

一來成春

御參勤御供御家老島津登殿工被仰付候事

一見舞之人數略ス

一喜入田舎エハ狀ヲ以御祝儀申上候事

八月二日 小雨東風昼過ヨリ南風

一磯詰トシテ五ツ過出勤七ツ前御暇

一御茶屋下ニ而二階堂與右衛門野村彦兵衛小山田真藏火花打揚被遊

御覽筈候得共風波ニ而今日之所ハ



御取止ニ相成明日明後日之間天氣次第被遊上覽旨被仰出其段相達候事尤

御手元ヨリモ被仰付候

上様ニモ御作り被遊候事

一御用之儀候間明三日四時可被罷出旨登殿依御差圖申達候以上

八月二日

小松帶刀殿

谷川次郎兵衛

御請書

右之通承知イタシ仰之通御請差出置候事

一喜入屋敷エ差越夕歸宅

一夕ヨリ客來

八月三日 小雨風強

一五ツ過出勤八ツ退出

一登殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松帶刀

右來成年

御參勤御供被仰付候条可申渡候

八月 登

一登殿ヨリ被相渡候御書付之寫

町田 内膳

山口 直記

小松 帶刀

右來成年

御參勤御供被仰付候付御旅御側御用人方御用モ承候様被仰付候

条申渡可承向エモ可申渡候

八月 登

右之通谷川次郎兵衛殿ヨリ於御側御用人座御供目付席詰ニ而被相渡候

一右之通

御參勤御供被仰付候付爲御禮登殿處エ差越候事

一於磯

花火力

御本花有之候付爲拜見八ツ過ヨリ罷出昼之分相濟候處夕方ヨリ大

風ニ相成夜之義ハ御取止ニ相成候事

一又次郎殿圖書殿被召候事

花火力

一御本花數百貳本外ニ連發

八月四日 小雨

一五ツ出勤八ツ後退出

一五ツ時職

御茶屋工御供揃同刻

御歸殿

一前之濱ニ而夜之打揚

御覽有之候事

一花火數百拾八本外ニ連發

八月五日 晴

一四ツ前出勤八ツ後退出

一御納戸奉行御小納戸御小姓御供目付御茶道與醫師御小姓御小坊主

來春

御參勤 御供被仰付申渡候事

八月六日 曇

一今朝六ツ時御供揃ニ而躍之内榮之尾工爲御湯治被遊

御差越候事同役御供山口直記外略ス

一 右付未明出勤

御立後御暇亦々四ツ出勤八ツ後退出

一 去月廿二日立極々急キ御飛脚今朝着イタシ候事

八月七日 雨天

一 御再聞ニ付諾トシテ四ツ時出席同刻過相濟歸宅

八月八日 朝雨昼ヨリ陰晴

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 雞卵 壹籠

右 御光越先ヨリ頂載イタシ候事

一 櫻島温泉工湯治御暇三七日申出置候事

一 夕ヨリ客來

八月九日 晴

一 痲病煩ニ而勤場相頼候事

八月十日 晴

一 昨日同斷

一 御光越先ヨリ問合相達候付内膳殿方工相頼越候事

一 櫻島工三廻湯治御暇申出置候處願之通被仰付候旨攝津殿ヨリ御張紙ヲ以被相下候由ニ而得野新左衛門持參候事

八月十一日 陰

一 今日モ出勤不致候事

一 西郷幽泉殿相頼療養イタシ候事

八月十二日 晴

一 昨日同斷

八月十三日 晴

一 昨日同斷

八月十四日 晴

一 前条同斷

一 來ル十七日天祐丸長崎表工廻船ニ付笹山方工書狀品物相頼候事

八月十五日 曇

一 四ツ出勤八後退出

一 喜入屋鋪工モ壹刻今朝差越候事

一 八ツ後段々客來略ス

一 夕ヨリ西田次郎太林正之介根寐甚左衛門被參候事

一 月少々雲間ニサユル

八月十六日 晴 彼岸入

一 四ツ出勤八ツ後退出

八月十七日 晴

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 爲泊番夕出勤

一 去月廿九日立中急御飛脚着イタシ候事

八月十八日 晴

一 九ツ過御暇ニ而歸宅

一 夕ヨリ山田良介被參候事

八月十九日 曇天

一 四出勤八ツ後退出

八月廿日 雨天

一 早朝南林寺

英徳公  
大中公工參詣直ニ歸宅

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ後喜入屋鋪工差越大鐘時分歸宅

八月廿一日 曇天

一四ツ出勤八ツ後退出

八月廿二日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出

八月廿三日 晴天

一早朝南林寺殿

大中公

英徳公エ参詣直ニ歸宅

一四ツ出勤八ツ後退出

八月廿四日 晴天

一四ツ出勤八ツ後歸宅

一七ツ過ヨリ原良村別荘工爲歩行差越夜入五ツ過歸宅

八月廿六日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一八ツ後當月八日江戸出立御飛脚相付候由ニ而御用部屋御用封相達

開封之上

御左右啓シ平田氏エ相願越候外ニ四本方エ爲持願越候 御書入山

田壯右衛門殿宛ニ而参リ直ニ爲持遣置候事

八月廿七日 晴

一御吟味詰トシテ五ツ時出張四ツ前相濟歸宅

一四ツ後榮之尾ヨリ問合相達開封之上平田氏エ頼越候事

一九ツ過ヨリ原良別荘工差越夕ヨリ鹿籠工差越夜入四ツ過歸宅

八月廿八日 半雨

一四ツ出勤八ツ後退出

一來月六日榮之尾

御立國分地頭假屋御泊ニ而翌七日

御乗切ニ而被遊

御歸殿申來承知イタシ候事

一爲泊夕ヨリ出勤

一今申刻山川兒ケ水工英吉利蒸氣船壹艘碇船之段山川詰御裁許掛方

ヨリ御届夜半過相達候事

八月廿九日 曇天

一九ツ後退出

一異船之義長崎通船ニ而明日ハ出帆イタシ候段應接相分候由再度之

御届四ツ後相達候事

一七ツ過碇船之異船辰之上刻出帆巳之方エ乘行候段山川詰御裁許掛

ヨリ御届相達候事

一七ツ半時分ヨリ乘廻トシテ草牟田ヨリ原良邊乘廻夕歸宅

一夜入過ヨリ山名半之悉被参候事

九月朔日 晴天小

一早朝南林寺殿

大中公

英徳公エ参詣直ニ歸宅

一四ツ出勤八ツ後御暇惣

和泉様御方エ當日爲御祝儀罷出歸掛喜入屋シキエ差越七ツ前歸宅

一夕ヨリ客來

九月二日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出

一 佐多嶋泊邊工異國船壹艘相見得候段山川兒ケ水遠見番ヨリ届申出候由ニ而所役ヨリ御届申出九ツ過相達候事

一 夕ヨリ北郷氏平川貴島被參候事

九月三日 晴雨交

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 五ツ前山川詰御裁許掛ヨリ佐多嶋泊浦工碇泊之蒸氣船壹艘英國之由外言語不通之由申來候事

一 九ツ前佐多ヨリ御軍役方工御届同斷

御光越先エモ形行ヲ以申上候事

一 夕ヨリ喜入屋鋪工差越夜入過歸宅

九月四日 晴天

一 早朝鹿籠工爲法事差越四ツ前歸宅

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 乘氣船壹艘佐多嶋泊浦工碇泊イタシ居候の昨日山川兒ケ水浦工碇

泊之段諸御裁許掛米良助右衛門方ヨリ御届相達候事

一 夕ヨリ竹下清右衛門下ノ被參候事

九月五日 曇天

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 退出ヨリ原良別亭工差越夜入五ツ過歸宅尤御用部屋書役三人同道イタシ候事

長月六日 晴

一 蒸氣船御座之間御出來ニ付爲見分四ツ後ヨリ差越諸所廻船ニ而八ツ過歸宅

長月七日 晴

一 御歸殿付御供トシテ四ツ時ヨリ吉野庄屋役所迄差越待上居彼之所

ヨリ御供イタシ大鐘時分御機嫌能被遊

御着御暇イタシ候事

長月八日 陰天

一 五ツ過出勤八ツ後退出掛喜入屋敷工差越直ニ歸宅

一 碇泊之異船昨日出帆イタシ候段今日御届相成候事

長月九日 小雨風

一 五ツ時出勤九ツ過御暇掛福昌寺

英徳公御靈工拜

御惣靈様工モ拜

一 和泉様御次迄當日之御祝義申上候

一 重陽之御式被遊

御出座候事

一 大日附町田内膳殿御側御用人御側役兼務谷川次郎兵衛殿被仰付候事

宅

一 平田伊兵衛殿來春

御供被仰付候事

一 重留工モ御祝義町田氏工モ爲祝義差越キ入屋敷工モ差越八ツ後歸宅

宅

登殿ヨリ被相渡候御書付之寫

一 演武館掛

一 造士館掛

小松 帶刀

右之通掛被仰付候条可申渡候

九月登

右之通御側御用人伊集院周右衛門御取次ヲ以被仰付候事

長月十日 雨天

一五ツ過出勤七ツ後退出

一寄合以上八都而

一講義科中

一師員一役壹人宛

右之通二之丸工御呼出索續講義等被仰付七ツ過相濟候事尤今朝御

達二相成早々罷出候事

一夕ヨリ客來

菊月十一日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ過ヨリキ入屋鋪工差越夕ヨリ爲泊出勤

九月十二日 曇小雨

一八ツ後退出

一夜入過ヨリ喜入屋シキエ差越四ツ過歸宅

長月十三日 小雨

一四ツ出勤八ツ後退出

九月十四日 曇

一四ツ出勤八ツ後退出

一去ル十二日ヨリ

金剛定院様 御法事今日追二候

一御佛詣福昌寺惠燈院浄光明寺

九月十五日 曇天

一日舉

一五ツ過出勤八ツ後退出掛喜入屋敷工差越直ニ歸宅

一御參勤方御座梅之間工相立候事尤御酒御取肴等皆々頂載イタシ候

事

登殿ヨリ被相渡候御書付之寫

一市來

一野田

小松 帶刀

右來成年

御參勤之節地頭代被仰付候条此旨申渡可承向エモ可申渡候

九月 登

右之通梅之間ニ而承知イタシ候事

一夕ヨリ北原甚助ドノ被參候事

九月十六日 晴陰交

一四ツ前出勤夕退出

一二之丸工演武館出席人數

御呼出有川梅田兩家罷出候外二海老原坂元之兩所出席無之候事

一早朝南林寺工參詣

長月十七日 晴天

一四ツ前出勤八ツ後退出

一夕ヨリ客來

長月十八日 雨天

一四ツ前出勤八ツ半時分退出

一本門修甫今日ヨリ取付候事

一夕ヨリ喜入屋敷工差越六ツ半過歸宅

九月十九日 晴

一五ツ過出勤八ツ後退出

長月廿日 晴天

一 早朝福昌寺

英徳公御着日付参詣其ヨリ出勤

一 御佛詣ニ付御供相勤候

福昌寺惠燈院御参詣也

九月廿一日 晴天

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ喜入屋敷工差越五ツ過歸宅

九月廿二日 晴天

一 四ツ前出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ鹿籠屋敷工差越候

一 封物邊見仲太川上助八郎兩人ヨリ相請取置候事

一 昨日言路之義仰渡相成候事別ニ相記候付略ス

長月廿三日 晴天

一 五ツヨリ南林寺

大中公

英徳公エ参詣其ヨリ出勤八ツ後退出

一 海老原庄藏坂元廉四郎門弟之内人指ニ而ニ之丸エ

御呼出ニ而稽古被遊

上覽候右ニ相詰候事

一 夕ヨリ爲泊出勤

長月廿四日 晴天

一 泊明ニ而八ツ前御暇歸宅

一 五日立中急御飛脚今曉着イタシ候事

一 七ツ後ヨリ喜入屋シキ宮参リ祝トシテ差越夜入五ツ過歸宅

一 夜半過山川出張御裁許掛ヨリ蒸氣船壹艘佐多嶋泊浦工碇ヲ卸シ候

段御届相成候事

九月廿五日 晴

一 四ツ出勤八ツ半過退出

一 東郷藤兵衛門弟加藤權兵衛門弟四ツ時分ニ之丸エ御呼出八ツ過相

濟候事尤人指ニ而御呼出也

和泉様ニモ御出也

一 佐多來泊之異船出帆相成候段御届相成候事

一 夕ヨリ來客五ツ過ヨリ兵部様壹刻御出也

長月廿六日 晴天

一 四ツ出勤八ツ後退出掛肝付家工壹刻差越其ヨリ

和泉様御方エ参堂大鐘時分歸宅

一 御矢數有之御人數被召加候事

一 明日尾畦<sup>(畔)</sup>御出ニ付 御供觸相達候事

長月廿七日 半天

一 尾畦<sup>(畔)</sup>

御出ニ付御供トシテ五ツ過出勤大鐘時分御歸殿御暇イタシ候事

一 南泉院下嶋津伯耆殿屋鋪角柵門涯ヨリ

御行列開平之馬場柿本寺通高麗町上之園詰所

御乘廻田上織殿工被爲

入庄屋

御呼寄百姓榮勞年之豐祭巨祭ニ

御開ニ相成候其ヨリ護生寺内馬頭觀音工御立寄其ヨリ福島屋シキ

榎之谷迄

御乘廻亦々本之御道ニテ八ツ過尾畦<sup>(畔)</sup>御茶屋迄被爲

入候處余程大雨ニ相成

御乗切二而

御歸殿尤周防殿御同道也

長月廿八日 晴天

一四ツ前出勤八ツ半御暇

九月廿九日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出

一江戸御飛脚被差立候事

一八ツ後新納次郎四郎殿被参候事

一夕刻ヨリ堀被参候事

長月晦日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ過ヨリ原良別莊エ差越夕歸宅

一夕ヨリ客來

十月朔日 晴 小

一出勤掛

大中公

英徳公エ参詣其ヨリ直ニ出勤八ツ後退出掛重富

和泉様御方エ御祝義申上喜入エモ差越八ツ半過歸宅

一御風邪氣ニ而今日不被遊

御出座候事

十月二日 陰晴交

一四ツ出勤八ツ後退出

十月三日 晴天

一四ツ出勤八ツ退出ヨリ直記殿伊兵衛殿同道ニ而登殿所エ來年

御参勤之義ニ付爲御用談参リ候様承居候付差越夜入五ツ過歸宅尤

御用部屋書役四本助之丞有馬九左衛門ニモ被招呼候御家老座書役

養田傳兵衛市來正之丞有川七之助井上直左衛門被参居候事

十月四日 曇

一四ツ出勤八ツ後退出掛喜入屋鋪エ差越七ツ時分歸宅

十月五日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出

一夕ヨリ黒岩政右衛門参リ候事

十月六日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出ヨリ

和泉様御方エ御用ニ付罷出夕歸宅

一夕ヨリ泊トシテ出勤

十月七日 晴天

一泊明ニ而八ツ前御暇

一山田壯右衛門事御船奉行道奉行勤堀仲左衛門事御小納戸被仰付候事

事

一堀御内用之義有之仕廻次第出府被仰付候事

十月八日 晴天 玄猪

一玄猪之御式被遊

御請候事

一四ツ前出勤八ツ後退出ヨリ

和泉様御方エ罷出候得共少々

御風邪ニ而御逢無之候事七ツ後歸宅

一夕ヨリ中山尚之介堀仲左衛門被参候事

十月九日 晴曇

一四ツ出勤八ツ後退出

一 夕堀壹刻被參候事

十月十日 晴天

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 七ツ過ヨリ島津内藏下ノ所工壹刻差越歸掛駕籠工差越歸宅

十月十一日 晴天

一 四ツ前出勤八ツ後御暇

一 島津左衛門殿御城代一篇安藝殿御名代ニ而椿之間ニ而被仰付候事

一 夕ヨリ喜入屋鋪工差越五ツ過歸宅

一 夜四ツ前間急キ御飛脚着ニ而御用部屋御用封相達候事尤表ヨリ御

用ニ而被差立候由

一 左衛門殿跡掛喜入攝津殿工被

仰付候事

一 堀次郎仲左衛門御内用之義ニ付出府被仰付尤筑前エモ御用有之差

寄候様被仰付今日出立イタシ候事

十月十二日 曇天

一 四ツ前出勤八ツ後退出

一 御側役勤平田伊兵衛殿御側御用人一篇之勤被仰付候事

一 八ツ後北郷作左衛門殿木脇佑阿彌殿壹刻ツ、被參候事

一 朝五ツ過攝津殿御出四ツ前追咄也

一 谷川次郎兵衛殿來春

御參勤御供被

仰付候尤拙者梅之間ニ而相達候事

一 夕ヨリ中山大久保被參候事

十月十三日 晴天

一 四ツ出勤七ツ前退出

一 御講釋ニ付相詰候事

十月十四日 時雨

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ伊地知龍右衛門被參候事

十月十五日 晴天

一 五ツ過出勤退出ヨリ

和泉様御方工爲御祝義罷出其ヨリ御三居方工罷出喜入屋敷エモ差

越七ツ過歸宅

一 御用之義有之出府式部殿交代島津登殿

一來成年 御參勤御供 喜入攝津殿

一 當務ニ而寺社奉行勤町田内膳殿

其外段々御役替有之略ス

一 夕ヨリ喜入家工差越夜入五ツ過歸宅

十月十六日 晴天

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 東次郎左衛門門弟之内小野強右衛門門弟之内人指ニ而二之丸工御

呼出有之候付相詰候事

一 表ヨリ急キ飛脚被差立候付堀氏工壹封差出候事

一 八ツ後町田圖書殿新納次郎四郎殿被參候事

十月十七日 晴天

一 四ツ前出勤八ツ後退出

一日擧

一 八ツ後ヨリ岩下佐次衛門下ノ入來

一 夕ヨリ爲泊番出勤

十月十八日 晴



一八ツ後退出

一七ツ前ヨリ原良別莊工差越夜入四ツ時分歸宅

十月十九日 晴天

一六ツ時早目御供揃ニ而尾畦<sup>畔</sup>御茶屋工御出掛新上橋口ニ而御行列相

開夫ヨリ御放鷹ニ而被爲 入善候付御供トシテ曉七ツ時出勤御供

イタシ候事

一六ツ過御出新上橋口ヨリ

御場 御入込下伊敷庄屋役所迄 御出其ヨリ御分鷹ニ而田上村之

様差越候ヘトモ一羽モ取得無之八ツ過尾畦<sup>畔</sup>差越候夫ヨリ五反田

邊雁鴨御合ニ而本河井田持留當分御用地ニ相成候場所等御見分尾

畦<sup>畔</sup>之様被爲

入候大鐘時分御歸殿也

一御得物御鷹頭寺師六兵衛雁貳羽相合御獵ニ候

一夕ヨリ中山尚之介岸良眞之丞被參候事

十月廿日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出

一福昌寺御佛詣被遊候事

一客來段々有之候事

一夕ヨリ喜入屋敷工差越五ツ過歸宅

但馬殿ヨリ被相渡候御書付之寫

一御改革方御内用掛

小松 帶刀

右之通被仰付候左候而御用向之義ハ同席一統工相談之上致取扱

候様被仰付候条可申渡候

十月 但馬

右之通御側用人平田伊兵衛ヲ以被仰付候事

十月廿一日 晴天

一四ツ出勤八ツ後退出

一中山入來大久保同斷

一八ツ後ヨリ

和泉様御方工罷出候事

神無月廿二日 半晴

一四ツ出勤八ツ御暇ヨリ玉里御殿迄爲見分差越夕歸宅尤中山尚之介

同道イタシ候事

一夕ヨリ相良佐平太日高軍次郎被參候事

一御甲冑方掛被仰付候事

十月廿三日 晴

一五ツ過南林寺

大中公

英徳公エ參詣其ヨリ直ニ出勤八ツ御暇掛ヨリ重富

和泉様御方工罷上リ夕御暇

一夕ヨリ中山氏被參候事

十月廿四日

一吉野菖蒲谷工爲

御駈 御出ニ付爲御供五ツ過出勤夜入五ツ過

御歸殿也尤小鳥并鳩御駈也我々共ニモ御駈御相手被仰付候四ツ過

歸宅

一極々急キ御飛脚堀方工差出候事

十月廿五日 晴天

一四ツ出勤八ツ前ヨリ玉里 御殿迄爲見分差越夕歸掛駕籠工差越夜

入七ツ過歸宅

一 玉里御殿廻之内二之丸工御曳直ニ被仰出右ニ付掛破仰付候同席山

口エモ被仰付候事

一 御家老掛喜入攝津殿其外諸役場掛被仰付候事

十月廿六日 晴

一 早朝ヨリ客來略ス

一 四ツ出勤七ツ後退出

一 二之丸エ山吹之間人數御呼出ニ而學文武藝被遊 上覽候尤 和泉

様ニモ御出也

一 夕ヨリ喜入屋敷エ差越夜入五ツ歸宅

一 昨夜定式御飛脚着イタシ候事

十月廿七日 晴天

一 四ツ出勤九ツ後ヨリ二之丸御地面爲見分差越七ツ過歸宅

一 御大工頭兩人召寄 御曳直御繪圖面取仕立方イタシ候事

一 夕ヨリ爲泊番出勤

十月廿八日 曇天

一 泊明ニ而九ツ過御暇ヨリ二之丸御地面爲見分差越八ツ歸宅

一 八ツ後ヨリ重富

和泉様御方エ爲伺事罷上リ夕歸宅

十月廿九日 小雨

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 夕ヨリ中山大久保被參候事

十一月朔日 晴 小

一 四ツ出勤夕退出

一 御大工頭召呼二之丸御繪圖面取仕立方イタシ候夕ヨリ中山ニモ被

參候事

霜月二日 晴天

一 四ツ出勤八ツ後退出ヨリ二之丸エ差越七ツ前歸宅

一 夕ヨリ奈良原喜左衛門殿有村武次殿被參候事

一 先度進上イタシ候大崎青毛駒又々被召下候付被越下段御小納戸鈴

木宇左衛門ヨリ承知イタシ今日七ツ後御廐ヨリ相請取候事

霜月三日 晴

一 御初入部初而稻荷

御神事ニ付

御參詣備馬被遊

上覽候付爲御先番御機敷エ五ツ過差越八ツ時分首尾能相濟七ツ前

歸宅

霜月四日 晴

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 定式御飛脚被召延置今日御差立相成候事

一 夕ヨリ客來御家老座書役田畑東郷被參候事

一 服部政次郎一昨晩下着ニ付召呼候事

十一月五日 晴

一 四ツ出勤八ツ後退出

一 中山尚之介岸良真之丞此兩人仕廻次第上京被仰付候事

一 夕ヨリ中山岸良大久保被參候事

霜月六日 晴

一 御放鷹トシテ

御出之事

一 和泉様御方ヨリ御用申來五ツ過ヨリ罷出四ツ半過御暇ヨリ出勤七

ツ半過歸宅

霜月七日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

霜月初八日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ後岸良被參候夕ヨリ大久保被參候事

霜月九日 雨天

一日舉

一五ツ過出勤八ツ後退出

一中山岸良上京被仰付今日出立ニ相成候事

一八ツ後吉井岩下被參候事

一夕ヨリ喜入屋敷エ差越五ツ過歸宅

霜月十日 晴

一四ツ出勤御暇掛ニ之丸見分イタシ七ツ時分歸宅

一爲泊番夕出勤

一北郷作左衛門御用人勤御軍賦役伊地知龍右衛門被仰付候

霜月十一日 曇

一九ツ過御暇ヨリ甲冑方エ

御鑑一条ニ付差越七ツ前歸宅尤書役四本有馬召列候歸リニ兩人共

参り直ニ被歸候

一和泉様御方ヨリ御用申來七ツ時分ヨリ罷出夕歸宅

一夕ヨリ大久保被參候事

霜月十二日 雨天

一四ツ出勤九ツ過ヨリ御用ニ付

和泉様御方エ罷出八ツ過御殿之様出勤七ツ半歸宅

一京中山岸良方江戸堀方エ極々急キ御飛脚七ツ過差立候尤御兵具方足輕兩人差立候事

一服部出水米之津ヨリ立歸候中山岸良ヨリ書狀モ持参イタシ候事

一七ツ半ヨリ大久保被參夜入過被歸候事

十一月十三日 曇晴交

一四ツ出勤八ツ後退出

一夕ヨリ大久保森山東園下之關住人白石廉作被參候事

霜月十四日 大晴

一櫻島エ

御懇ニ御渡海ニ付御供トシテ五ツ過出勤夜入過

御歸殿ニ而御暇イタシ候事

霜月十五日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出掛ニ之丸御地面繩張御家老御見分有之相勤七ツ過歸宅

一七ツヨリ伊地知龍右衛門大久保正助被參夕被歸候事

一若年寄川上龍衛被仰付候事

霜月十六日 曇天

一四ツ出勤八ツ後退出

一二之丸 御稽古所エ深見休八門弟和田小十郎門弟 御呼出之事

一肥前蒸氣船觀光丸昨晝過前之濱エ來着イタシ候事

一大鐘過ヨリ駕籠屋敷エ差越夜入四ツ過歸宅

霜月十七日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ過ヨリ大久保被參候事

一夕ヨリ大久保同道ニ而平佐エ差越四ツ過歸宅

十一月十八日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出ヨリ喜入屋敷工差越夜入過歸宅尤明日万之進  
御用承知イタシ候付差越候事

十一月十九日 曇

一日舉ニ而五ツ過出勤八ツ後退出

一七ツ時分ヨリ

和泉様御方エ罷上リ夕御暇掛喜入屋敷工差越四ツ過歸宅尤万之進  
奥御小姓御近習番所詰被仰付候祝ニ差越候事

霜月廿日 晴

一福昌寺恵燈院浄光明寺エ

御佛詣ニ付御先番トシテ恵燈院エ差越九ツ過ヨリ出勤八ツ後歸宅  
英徳殿エモ参詣

一御用之義候間明廿一日四ツ時麻袴着用可被罷出候以上

十一月廿日

御小納戸

小松帶刀殿

右之通承知イタシ候付御請書差出候事

一七ツ過ヨリ喜入屋敷工差越其ヨリ爲泊出勤

一父上様昨日御歸被遊候事

霜月廿一日 雨天

一八ツ過退出

一御上下壹具

一御綿入一ツ

一御袷壹ツ

一御帷子壹ツ

一御袴壹ツ

右之御品御座之間ニ而拜領イタシ候事

十一月廿二日 陰

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ後ヨリ父上様母上様治部様富之介勇四郎萬之進ニモ被參候事  
其外客來略ス

霜月廿三日 晴天

一四ツ出勤七ツ半時分退出

一於外御庭御一門方二男三男ヨリ寄合ニ  
馬術被遊

御視候 周防殿御家老拜見被仰付候事

一万之進事來春

御供被仰付候付夜入過ヨリ差越候事

一早朝南林寺エ参詣イタシ候事

十一月廿四日 晴

一明廿五日比志島鹿倉 御駈御狩トシテ吉田市出隼人假屋迄

御出ニ付五ツ過御供トシテ出勤四ツ時御出ニ相成候右假屋迄御供  
相勤其ヨリ比志島村エ差越一宿

十一月廿五日 晴

一曉七ツ過ヨリ狩集エ出張夜明ヨリ荒谷犬木屋之元間伏エ差越候處

鹿エ貳發矢放イタシ候處一ツハ自分打留ニ相成候事

一上様ニハ市田假屋ヨリ直ニ犬木屋之元

御六垣エ被爲

入鹿一丸 御打留在之候事

一二番鹿倉 御門伏新猿氏

一拙者ニ番間伏中尾之大瀬戸

一御狩濟之上磯工 御供ニ而差越夜入過御暇歸宅  
一完六丸御獵

十一月廿六日 曇

一四ツ出勤八ツ後退出

一明廿七日惣陣御狩ニ付爲 御先番菖蒲谷エ七ツ時分ヨリ差越一宿

霜月廿七日 雨

一雨天ニ而 御狩御延引ニ相成候事

一菖蒲谷エ滞留

十一月廿八日 晴風強子之風朝雪降

一曉七ツ時分ヨリ芝之元 御野立エ爲

御先番差越候事

一磯 御茶屋曉七ツ半時

御出立ニ而六ツ過芝之元迄 御着有之候事

一一番御鹿倉惣陣

御六垣松ケ枝亦々芝之元エ御出

一ニ番御鹿倉井手之山扇山南木場

御六垣 木鹿一丸御獵

一惣陣拙者間伏古堀

一ニ番鹿倉間伏人見ケ杉鹿エ一放

一惣去拾參斗御獵打留人數略ス

御狩濟之上御暇夕歸宅

十一月廿九日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一七ツ時分ヨリ鹿籠工大久保同道ニ而差越夜入過歸宅

一定式御飛脚昨日着イタシ候由ニ而御用封ニ相達候事

十二月朔日 雪雨天

一四ツ出勤八ツ後退出

一九ツ時 御供揃ニ而磯御茶屋エ

御出被遊

御滞留候事

一御直元服初而之御目見有之候事

一肝付千之介初而之御目見相濟候祝トシテ八ツ後ヨリ差越七ツ過歸宅

一明日ヨリ

御馳御狩ニ付大鐘時分ヨリ磯エ出勤イタシ候事

十二月二日 晴天

一曉七ツ半時磯御茶屋御出白濱エ御着

一一番御狩倉白濱

御六垣椽呂木五才女猪壹丸

御打留

一貳番御狩倉日暮

御六垣山吹ケ谷鹿壹丸

御打留

一一番御狩倉拙間伏菜園場女鹿貳丸三才女猪壹丸打留候

一貳番御狩倉拙間伏梅木

七ツ半過磯御茶屋エ

御歸亭

一惣去貳拾九犬喰打留取交

十二月三日 半天

一六ツ時磯 御茶屋 御立塩ケ水エ

御着

一 一番御狩倉荒平孝々ヶ谷

御六垣炭竈之元鹿七丸

御打留

一 貳番御狩倉為之巢三舟

御六垣田之頭

一 一番間伏新右衛門川之頭

一 貳番名不存 一放シ打ハツシ

七ツ過磯御茶屋エ

御歸亭 御供相勤大鐘時分御暇歸宅

一 昨日打留之猪壹丸項載被仰付候事

十二月四日 晴

一 四ツ後

御歸殿

一 四ツ出勤ハツ後退出

一 八ツ後ヨリ大久保同道ニ而訓練場工車砲見分トシテ差越夕ヨリ喜

入氏エ差越夜入九ツ過歸宅

十二月五日 晴

一 四ツ出勤ハツ後退出

一 定式御飛脚今日被差立候事

一 泊番トシテ夕出勤

十二月六日 晴

一 泊明ニ而八ツ前御暇退出

一 八ツ後ヨリ

和泉様御方エ御用ニ付罷出夕御暇掛喜入屋敷エ差越夜入過歸宅

十二月七日 晴

一 四ツ時御再聞ニ付相詰九ツ時分相濟其ヨリ出勤ハツ後退出

十二月八日 曇天

一 四ツ出勤ハツ過退出

一 夕ヨリ大久保氏被參候事

十二月九日 半晴

一 昨夜ヨリ風邪氣ニ而出勤不致候事

一 勤場之義谷川氏山口氏エ書面ヲ以頼越候事

一 赤崎猿齋相頼候事

十二月十日 晴

一 未不宜出勤不致候事

十二月十一日 半天

一 前条同斷

十二月十二日 雨天

一 同斷

十二月十三日 雪天

一 全快ニ而今日ヨリ出勤九ツ過御暇掛喜入屋敷エ差越ハツ後歸宅

一 出勤掛諏訪數馬殿宅エ御用ニ付差越候事

一 七ツ時分ヨリ御用ニ付喜入攝津殿宅エ差越夜入過歸宅

一 夜入過ヨリ大久保被參候事

一 京師中山方ヨリ飛脚相達候事

十二月十四日 晴天

一 四ツ出勤ハツ半時分御暇掛御鑽方エ御腹卷御成就ニ付爲見分差越

歸リ掛北郷作左衛門殿宅エ差越夕歸宅

一 九ツ過江戸表堀次郎方ヨリ飛脚相達候事

筑後殿ヨリ被相渡候御書附之寫

一金 七拾兩

小松 帶刀

右ハ御改革方御内用向取扱被仰付置候付而者御銀主共會釋旁及入價候付御改革年限中江戸御國許出立之節ニ爲仕廻料右之通被下候  
条申渡可承向エモ可申渡候

十二月 筑後

右之通昨日御側御用人取次ヲ以被仰付候事

十二月十五日 晴天

一五ツ半時出勤ハツ後御暇掛喜入屋敷エ差越七ツ時分歸宅

一御召

御腹卷御成就ニ相成今日差出牡丹之間ニ

御仰付相成奥向人數御家老若年寄大目附御側御用人等エ拜見被仰付候事

一島津豊前殿元服ニ付爲祝家内差越候事

一夕ヨリ大久保被參候事

十二月十六日

一四ツ出勤ハツ後御暇掛ニ之丸御作事方見分トシテ差越七ツ前歸宅

一七ツ後ヨリ伊集院次左衛門被參候事

夜入過ヨリ大久保氏被參候事

十二月十七日 晴

一四ツ出勤ハツ後退出ヨリ

和泉様御方エ御用ニ付罷上リ夕御暇直ニ爲泊出勤

一二之丸御稽古所エ田代宗次郎門弟川上八郎右衛門門弟御呼出被遊

御覽候事

十二月十八日 晴曇交

一泊明ニ而ハツ過御暇

一大久保正助殿上京被仰付候事

一御改革方御内用向取扱被仰付置候ニ付足輕兩人被召付置度願出置候處願之通被仰付候尤名前田中龍太郎大迫清太被仰付候事願書等別ニ相印故略ス

一夕ヨリ喜入屋シキエ差越夜入五ツ時分歸宅

十二月十九日 晴天

一四ツ出勤ハツ後退出

一來春

御參勤ニ付中小姓御供御定式外二百貳拾人重被仰付候右中小姓付

長拾貳人被仰付候事

一八ツ後ヨリ大久保被參夜入過被歸候事

一長崎表ヨリ段々書狀相達候事

十二月廿日 晴

一四ツ前出勤九ツ過ヨリ

和泉公御方エ御用ニ付罷出御用濟ヨリ福昌寺

英徳公エ參詣七ツ前歸宅

一九ツ過大坂ヨリ町便相達江戸芝御屋鋪御類焼之由申來候事未江戸

ヨリ之御飛脚不相達候事

十二月廿一日 晴

一四ツ前出勤ハツ後退出

一去ル七日申之下刻芝御屋鋪御出火之段極々急キ御飛脚相達恐入次

第二候事

筑後殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右江戸エ御内用之儀有之仕廻次第急ニ而致出府候様被仰付候条可

申渡候

十二月 筑後

右之通御側御用人亀山甚之丞御取次ヲ以被仰付候事

一用頼之人數被參候事

十二月廿二日 半晴

一四ツ出勤八ツ後退出

筑後殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右者江戸エ御内用之儀有之急ニ而出府被仰付候付御國道中井二道

中御賄料ヲ以天祐丸ヨリ被差越候条可申渡候

但被召附候面々モ同様被仰付候

十二月 筑後

右之通御側御用人御取次ヲ以被仰付候事

十二月廿三日 曇

一五ツ過出勤八ツ後退出

一大中公

英徳公エ參詣イダシ候事

一八ツ後ヨリ四本助之丞有馬九左衛門和田九十郎松元彦兵衛被參候

事

十二月廿四日 半晴

一四ツ前出勤八ツ後退出

一八ツ後ヨリ有馬被參候而 御用物荷作方イダシ候事

十二月廿五日 雨天

一四ツ前出勤八ツ後御暇

御自分事當御役ニ而御側役勤被仰付候得共御禮之沙汰ニ不及家格

二付進上物被致來候間來年頭ヨリ家格付御太刀進上被仰付候尤年々仰渡ハ無之候此旨大藏殿被仰候以上

但御請之届可被申出候

十二月廿五日

鳴津 右門  
福崎 助八

小松 帶刀殿

右之通問合相達候付御請書差出候事

十二月廿六日 雪天

一四ツ前出勤八ツ後退出

十二月廿七日 半晴

一四ツ前出勤八ツ後退出

一昨日中山下着イダシ候事

一大久保一藏御用ニ而呼返シ八ツ前ヨリ被參居候事夕ヨリ中山モ被

參候事

極月廿八日 半晴

一四ツ出勤八ツ後退出

一喜入エモ壹刻差越候事

十二月廿九日 曇天

一四ツ出勤八ツ後退出

一竹下清右衛門五代才助陸ヨリ罷歸リ候由ニ而七ツ時分被參候處天

祐丸器機少々洋中ニ而損シ候由ニ而右之御届トシテ罷歸候付形行

早々中山ヲ以

和泉様御方エ申上越候左候而今晚陸地ヨリ出立可仕段モ奉伺候處

今晚ハ見合居候様承知イダシ候事

一谷村愛之介今晚急ニ而出立被仰付候付出立イダシ候事



十二月晦日 雨天

一四ツ出勤八ツ後退出掛喜入工差越直ニ歸宅  
筑後殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右者御内用之儀有之天祐丸ヨリ出府被仰付置候得共暫被差止候条  
可申渡候

但被召付面々モ同様被仰付候

十二月 筑後

右之通御側御用人御取次ヲ以被仰付候事

一飯綱大明神御靈社様方工暮之御祝義申上候事

一暮之式書院ニ而祝ヒ候事

年中首尾

小松帶刀日記 (文久二年)

文久二年正月ヨリ  
(朱)正月十一日伊作地頭被仰付候  
 同月十五日大番頭勤方は通之通被仰付候事

日躰 大正三四六八九十二  
 小二五七閏八十二

凡日數三百八十四日

平 清廉

一節分 正ノ五 一出梅 五ノ廿八  
 一春分 二ノ十五 一小暑 六ノ十一  
 一夏至 五ノ廿五 一大暑 六ノ廿七  
 一秋分 八ノ晦 一小寒 十一ノ十七  
 一冬至 十一ノ二 一大寒 十二ノ一  
 一彼岸 二ノ十八 一土用 三ノ十九 六ノ廿四  
 八ノ廿七 閏八ノ廿八 十一ノ廿九  
 一入梅 五ノ十 一二百十日 八ノ八

成正月元日 晴雨交

一年頭御規式被遊

御請候事

一六ツ半時出勤夕御暇

正月二日 晴

一五ツ時出勤九ツ過御暇

一五社福昌寺淨光明寺エ參詣其ヨリ諸所年禮トシテ差越夕歸宅

正月三日 曇

一五ツ過出勤夕御暇

正月四日 曇

一五ツ過出勤八ツ後御暇

一八ツ後島津相馬殿加治木一条ニ付被參候事

一泊番トシテ夕ヨリ出勤

正月五日 晴

一四ツ半過御暇

一東郷家稽古初二付出席其ヨリ諸所エ年禮トシテ差越夕歸宅

正月六日 曇 立春

一五ツ過出勤八ツ後御暇 日舉

一筑後殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右者

二九御殿廻御成就相成候上

一和泉様御住居付掛被仰付候条可申渡候

正月 筑後

一右者御側御用人有馬舍人御取次ヲ以被仰付候事

一夕ヨリ中山被參候事

正月七日 晴

一五ツ過出勤八ツ後御暇ヨリ

一和泉公御方エ罷出夕歸宅

一喜入屋シキエモ差越候事

正月八日 晴

一五ツ過出勤八ツ後御暇

一吉井中助筑前工御用之義有之出立被仰付今日被差立候右ニ付吉永源八郎方工拙者ヨリ以書面申遣候事

一夕ヨリ客來

正月九日 晴

一御鷹野初トシテ

御出ニ付御供トシテ六ツ時分出勤六ツ半時御出夕

御歸殿之上御暇

一夜入過ヨリ海江田奈良原被參候事

正月十日 曇天

一四ツ出勤七ツ半過御暇

一御殿ニ而明十一日五ツ時御用人島津右門御取次ヲ以攝津殿ヨリ御

差圖御用之段御目付永江箭七郎ヨリ鳴子口ニ而承知イタシ候段申

置候事

一島津勇四郎ニモ明日御用承知イタシ候付夕ヨリ差越夜入四ツ前歸

宅

一急キ御飛脚江戸表ヨリ着イタシ候事

正月十一日 晴

一五ツ前出勤

御書付寫

伊作

小松 帶刀

右之通地頭職被

仰付候

正月 攝津

右之通於敷舞臺被

仰付候事

一八ツ前御暇イタシ

泉公御方御二役方御禮廻トシテ差越

南林寺

大中公

英徳公エ參詣七ツ半時分歸宅

一客來段々有之候事

一地頭取次林正之助エ相願候事

一勇四郎事詰衆被仰付候事

正月十二日 晴

一四ツ前出勤八ツ後御暇ヨリ下方エ差越七ツ半過歸宅

一去月七日江戸上御屋敷御燒失ニ付 御差扣御差出ニ相成候處可被

遊 御遠慮段御承知之處イマタ其 御左右不相達内ニ 御遠慮御

免之義モ被仰出候付伺 御機嫌且恐悦申上候様被仰渡御一門方初

今日登

城ニ而申上ニ相成候事

一此節地頭職被仰付候付吉利ヨリ役人嶺崎市太夫與頭阿多助市參リ

候事

一夕ヨリ中山被參候事

正月十三日 晴

一四ツ出勤八ツ後退出ヨリ

泉公御方エ御用付罷上リ夕御暇

一磯エ

御出有之候事

正月十四日 晴

一四ツ前出勤ハツ後御暇

一明五ツ時但馬殿ヨリ御用人福崎助八御目付藥丸猪之助御取次ヲ以

御用之段鳴子口ニ而承知イタシ御請申出置尤勤方相伺候處差扣ニ

不及段山口直記ヨリ承知イタシ候事

正月十五日 晴

一五ツ前出勤御用人工届申出置候事

一敷舞臺ニ而御家老御列席左之通被仰付候事

一大番頭

一勤方は迄之通

小松 帶刀

右之通御役替被

仰付候左候而別段

思召之譯被爲

在候付御家老中吟味之儀モ都而承候様被仰付候

正月 攝津

右之通攝津殿御讀渡

一八ツ前御暇大奥エモ御禮申上其ヨリ

英徳公エ参詣諸所御禮廻トシテ差越七ツ過歸宅

一客來段々有之略ス

一御用部屋書役有馬九左衛門今日御用ニ而出立イタシ候事

一島津大藏殿御家老被

仰付候其外之御役替略ス

一夜半過江戸表ヨリ急キ御飛脚相達候事

正月十六日 晴

一四ツ前出勤ハツ後退出

一江戸上御屋敷御焼失ニ付當秋迄 御參勤

御延引御願ニ相成候處出格之御取譯ヲ以御願濟ニ相成候段御到來

事

一前条同斷ニ付東海殿其外濃州勢州川々御普請御上納金残り四万兩

御用捨之段モ御到來候事

一此節江戸上御屋敷御焼失付當秋迄御月延之義 御願濟相成候付一

昨春ヨリ打重之御願ニ付

公邊御都合如何ト被

思召候付此節之御禮且御斷旁トシテ

御熟談之上當春中

和泉様可被遊

御參府旨被

仰出候条可承向々エ可申渡候

正月

右之通御發ニ相成候事

攝津殿ヨリ被相渡候御書付之寫

右當春中

和泉様御出府付御供被

仰付候条可申渡候

正月 攝津

右之通御側御用人有馬舍人御取次ヲ以被仰付候事

一八ツ後伊作年寄與頭其外役々参り候事尤書院ニ而孟イタシ候事

一七ツ時分ヨリ

和泉様御方エ罷上リ夕御暇

一夜入過ヨリ中山被參候事

正月十七日 晴

一四ツ前出勤大鐘時分御暇

攝津殿ヨリ被相渡候御書付之寫

小松 帶刀

右菅春中

和泉様御出府御供被仰付候付御旅御側御用人方御用モ承候様被仰

付候条可申渡候

正月 攝津

右之通御側御用人有馬舍人御取次ヲ以被仰付候事

一水天宮御札筑前ヨリ相届候事

正月十八日 晴天

一五ツ半過出勤七ツ時分御暇

一二月廿二日午刻

右 御首途

一二月廿五日己刻

右 御發駕

右之通

和泉様 御首途 御發駕被

仰出候

一泊トシテ夕出勤

正月十九日 曇

一泊明八ツ退出

一夕ヨリ中山被參候事

正月廿日 晴天

一四ツ前出勤七ツ過御暇ヨリ福昌寺

英徳公エ參詣歸宅

一夕ヨリ生座海江田奈良原被參候事

一夜半過天祐丸長崎表ヨリ廻船ニ相成候事

正月廿一日 曇小雨

一四ツ出勤八ツ半過退出

一天祐丸エ御座之御取立ニ付爲見分七ツ過ヨリ中山同道ニテ差越夕

歸宅

小松帶刀日記(慶應二年)

寅の彌生十日あまりより  
榮之尾温泉江参ける日記

寅の三月十四日より霧島榮之尾

温泉江参りける日記

三月十四日 晴

一八ツ過鹿府より里出船七ツ時分國府濱之市江着船一泊排毒散今日より相用

三月十五日 晴

一五ツ頃濱之市出發横瀬に而晝仕廻八ツ過温泉場江着直ニ入湯二度  
御家老座書役東郷源左衛門堀剛十郎用達鎌田十郎太同道

弥生十六日 晴

一早朝本陳湯夫より硫黄湯へ兩度都合三度入湯  
一小倉甚助見舞也

同 十七日 晴

一朝本陳湯四ツ過打込夕刻硫黄湯江入湯也  
外無事

同 十八日 晴

一朝本陳湯晝打込夕硫黄湯入湯  
外無事

同 十九日 晴

一朝打込晝打込兩度夕硫黄湯入湯也

一有馬甚左衛門用向ニ付晝過着也右用向者ニ之丸御子様養子ニ被下

歟之御内沙汰之事也尤去ル十六日ニ御側役伊集院平治ヨリ兵部様

江御内達相成候事

一安田轍藏西直八郎北原甚助湯治江参候由ニ而見舞之事

三月 廿日 雨天

一朝本陳湯晝打込兩度入湯也

外無事

三月廿一日 曇

一朝本陳湯

一五ツ半時分より狩として差越候初鹿倉山城ニ番中尾ニ番千本

壹番鹿倉間伏千本野ニ番たら野けやの本四才鹿の子打はつし候事

三番千本中野

狩濟夕前歸宿打込入湯也

一狩人黒江善八外略ス

三月廿二日 晴

一朝本陳湯夫より硫黄湯江差越候事

一有馬甚左衛門今日罷歸候打越小哉太用向ニ付甚左衛門同道吉利達

差遣候事

一夕硫黄湯入湯

三月廿三日 晴

一朝本陳湯夫より硫黄湯

一五ツ過より狩として差越候白く彙集り新毛くうらうこふち赤く彙

一鹿倉間伏小山肩四才男鹿狩人打留三才女鹿中村矢三次初矢夕前歸

宿

一 硫黄谷湯入湯

一 村山下總父子塩浸より見舞として入來滞在事

三月廿四日 晴

一 朝本陳湯夫より硫黄湯

一 北郷敷馬殿湯治江被參候而今朝見舞之事

一 鳥濱文右衛門湯治見舞として参り書状持参之事

三月廿五日 晴

一 朝本陳湯晝打込夕硫黄湯村山父子塩浸江歸る

鳥濱歸る書状差遣候事

三月廿六日 大雨

一 朝本陳湯晝打込夕本陳湯入

一 晝過神宮司助左衛門参り候事

一 内村温泉より奈良原老封相達候返答いたし候事

三月廿七日 曇小雨

一 朝本陳湯夫より硫黄谷湯晝過本陳湯夕硫黄谷湯入湯也

一 硫黄山詰銃藥方掛見分役田實善之助見舞之事

三月廿八日 朝曇

一 朝硫黄湯

一 五ツ過より狩として差越夕歸宿夕硫黄湯

一 吉井幸輔坂元龍馬塩浸より見舞として入來之事

三月廿九日 晴

一 朝本陳湯

一 堀剛十郎今日罷歸候事

一 坂元者霧島山江參詣之事

一 晝硫黄湯夫より狩として白もへ邊江差越夕同所湯入夕歸宿之事

一 打越小哉太阿多才輔今日參候事

一 大島清太夫當所御普請二付參見舞之事

一 西筑右衛門今日見舞之事

三月卅日 晴

一 朝本陳湯晝硫黄湯夕同断

一 谷村小吉湯治として今日當所江被參候事有村甲藏同道也

四月朔日 曇

一 朝本陳湯晝硫黄湯

一 吉井坂元も今日塩浸之様被歸候事

一 神宮司助左衛門にも今日罷歸候事

一 晝過本陳湯夕硫黄湯

四月二日 雨天

一 朝本陳湯晝打込

一 郡方書役有馬十郎見舞之事

一 川上助八郎見舞之事

四月三日 晴

一 朝本陳湯晝打込

一 有村甲藏今日罷歸候事

一 桂家より老封相達返答有村ヲ以差出候事

一 硫黄湯入湯也

一 西筑今日罷歸候事

四月四日 雨

一 朝本陳湯晝夕打込入湯

一 税所長藏武宮十太郎被參候事

一赤崎園齊にも今日参候事

一朝之内近邊を鹿倉狩いたし候事

四月五日 曇

一朝本陳湯晝打込夕硫黄谷入湯也

一七ツ後よ里遠丁打ためしいたし候事

一吉村被参候事

四月六日 晴

一朝本陳湯

一四ツ過より新鹿邊江狩として差越夕歸也尤鹿出候得ども取得無之

事

一前田黄雲見舞之事

一鮫島幽洞にも今日参候事

一去ル四日二定式飛脚着候而岩下家よりの問合右衛門殿今相届候事

一西郷より大久保手紙問合相達候事

一税所長藏には今日歸候事

一夕打込入湯也

四月七日 朝雨

一朝本陳湯晝打込夕打込入湯

一明日出立二付中村矢三次今日濱之市迄手當申付遣し候事

一桂家よ里之壹封晝時分相達候事

四月八日 晴

一早朝打込湯入湯

一六半時榮之尾出立躍之内持松村江立寄桂坂邊水損見分内村江差越

尤郡奉行大島清太夫出役いたし候事書役有馬十郎也八ツ過より八

幡宮江参詣夕刻濱之市迄着尤宮内迄北郷氏西郷税所等被参候事

武宮十太郎有村甲藏大山弥九郎歸府二付同道いたし候事

一夜五ツ過乗船洩前濱江着船未明上陸歸宅

英學稽古出崎人数

田中 喜治郎 鮫島 武之助 上原 勇左衛門

堀家 治郎 毛利 権平 吉井 太七郎

大山 弥九郎 武宮 雄之助

江戸書生

大重 弥早太 四本源五左衛門 肝付 吉之丞

地理書 一歴史 一究理書 一文法書 其他科有之

御勝手方

琉球産物方

三島方諸島

物奉行方

白糖方

新銭方

諸方交易方

御勘定方

一定式方

一海軍方

開成所 御船手

集成館 蒸氣船

一造士館方



一 武藝方

一 陸軍方

銃藥方 精練所方

一 外國方

當分開成所入塾

一出府 上原 勇左衛門

英學願望 毛利 權平

一 英式訓練人數下馬訓練ニ出席之事

三原玄甫砲術稽古望願之事

一 陸小姓人數外御庭訓練ニ出席被仰付事

一 ミニケル稽古出席人數此段之訓練ニ出事

一 御領國中惣高御藏入米取調之事

一 惣人躰取調之事

一 大島其外砂糖出來大概之見賦

一 右砂糖大坂ニ而御賣拂相成候代料其外御產物等之代金取調之事

一 冲永良部砂糖代之事

一 御領國中惣產物高取調之事

一 御領國中馬生立候事

一 開成所御差分金如何相成哉之事

一 集成館同断之事

一 精練所同断之事

一 陸軍方之事

一 金山方之事

一 御製藥之事

一 御作事方之事

一 諸所御普請場之事

一 毛利覺助伊東郁之助運用稽古方出府願望之事

一 竹下清右衛門相良壯一郎江旅扶持被下度事

一 飯牟礼伴助御徒目付御廣敷横目両様之間願望之事

一 遊學生出府願之事

一 肝付半平野元助八差出候事

一 三島弥兵衛之事

一 村山下總之事

一 西川嘉兵衛之事

一 川元覺左衛門御心附願之事

一 園田郷右衛門内願之条

一 肝付吉之丞書生願之条

一 松元覺兵衛之事

一 大重弥早太四本源五左衛門江戸江砲術稽古被差出事

一 御勘定小頭義岡善之丞御記録方書役中江仲之丞出崎之事西田次郎

太取次ニ而承候事

二等書生 二等書生

一 田中喜次郎 吉井太七郎出崎英學本田弥より承願之事

二等書生 二等書生

一 鮫島武之助江戸同断

一 房村鐵之助皆吉九平太砲術稽古出府願望之事

一 大山彦助之事

一 金花盛成りける

一 契り置きしこ路ハさらになけれとも

われをまちて加 花ハ咲くら舞

山家閑居

よの中のたよりもき加す成しより

中々ものハおもはさ利け利

一土阿両士之事申上事

一榮之尾御茶屋後御普請之事御側役方江申入事

一松田甚左衛門生産方掛ニ而上洛被仰付度事

一湯地賢二郎筑前守衛方不時交替之事

一岸良彦七英學稽古出崎願之事

一加納利助之事

一岩元ヨリ船ニテ差通之事

一柴山龍五郎藍玉方掛被仰付度事

一有馬十郎御廣敷横目願之事

谷印

一和田郷左衛門之事

一前田黄雲之事

## 小松帶刀日記（明治元年）

- 一 正月六日御軍艦春日丸四時着船江戸表兵庫表等之一左右井上新右衛門赤塚源六ヨリ申出候事 森岡村田上京 追田本田出崎
- 一 七日串木野一小隊隈之城一小隊垂水大砲隊半座平佐同断總裁島津織之助談合役江夏喜藏今日出立被差出候事
- 一 八日高岡一小隊都之城一小隊差引監軍兼鳥丸六左衛門柴山龍五郎今日細島へ被差出候事
- 一 岩下清之丞林正之進長崎ヨリ便船ニテ兵糧手當厚鐵船壹條申含今晚差立候事
- 一 九日高見彌一細田勇藏探索方トシテ今日長崎表へ差出候事 右兩人便ヨリ英人ヲートルス書翰岩下江差送候事
- 一 春日丸船將兩人へ金拾兩ツ、
- 一 同士官七兩貳部ツ、
- 一 水夫頭三兩ツ、
- 一 青銅貳千疋機關者ヨリ水夫迄 此節航海戰爭御褒美トシテ被下候事
- 一 十日四時三邦丸長崎ヨリ昨九日本船ニテ着船市來六左衛門着ノ事
- 一 宮之城御上京被仰付候事
- 一 長崎出兵
- 一 三邦丸今日四 差引 益滿新之丞 時着船ノ事 監軍 渋谷 彦介
- 一 蒲生一小隊與力一小隊國分大砲半座出兵ノ事
- 一 野村宗七渋谷同断出崎ノ事
- 一 御船奉行一人阿久根江出舟差引トシテ差出候事
- 一 十一日入來一小隊長崎急應トシテ阿久根迄出兵ノ事
- 一 西郷助八蒲生ニ差曳トシテ出兵申渡ノ事
- 一 拙者上京被仰付候事
- 一 十二日夜入過本田追田長崎ヨリ着一左右六日鹿府出九日朝崎陽着 十日晚長崎立上國ノ左右
- 一 横濱ヨリ上海工通船ノ英船崎港十日昼時分着江戸變事之左右相分候由
- 一 兵庫六日出帆英船上海通船港口迄廻船一人上陸サセ京攝ノ新聞左之通
- 一 三日伏見ト大坂トノ間ニノ戰爭相聞ケ初メ薩兵ト徳川兵ト相戰 藝長土三藩應援ニテ官軍大勝利四日迄戰爭四日ニ徳川浪花城工曳 取候トノ事
- 一 長崎向キ不相替九日晚夜半ヨリ十日昼頃迄燒失火元本古川町也
- 一 佐土原酒匂求馬伺トシテ被差越候事
- 一 十三日長州御使者今朝逢取候而出ノ事
- 一 春日丸御修甫差急ニ付本田彌右衛門井上新右衛門掛被仰付候事
- 一 乾行丸一往來船將北郷主水江被仰付候事
- 一 春日丸一往來島津相馬江同断被仰付候事
- 一 市田隼人海軍所掛被仰付候事
- 一 西目惣督島津左衛門談合役椎原與右衛門染川五郎左衛門有川十右衛門出水エ人数揃之上京師急應トシ被差出 左ノ人数
- 一 御城下一小队 十六日 御當地着
- 一 伊集院郡山合一小队
- 一 出水一小隊

加世田頼娃合大砲一座

- 一 入來阿久根迄差出ノ人數長崎ニ差出候様達候事
- 一 春日丸船將談合役指揮役兼務

赤塚 源六

右之通被仰付候事

一 安藤作之丞細島へ上國ノ御左右旁申含差越候事

一 御軍艦船將以下卯六相下ケ候事

一 阿久根白濱勤兵衛夜入過參り森岡十日五ツ時分ニ熊本着其夜九ツ

同所出立上國之方ニ差向候事山形典二郎江面會イタシ候由

一 平運丸去ル九日日州細島江着船之段高岡ヨリ暮前届來候事

一 一橋下坂之節肥後藩木村徳太郎隨從下坂之段者相分居候段山形咄候由

一 志布志ヨリ一左右平運丸十二日曉日州外浦エ着船之段得能佐平次

門合夜五ツ前相達候事

一 十四日

御城下一小隊

同大砲半座

海軍隊

與力一小隊

右御軍艦春日丸三邦丸乘船來ル十八日出帆之段申渡候事

一 右隊差曳トシテ奈良原幸五郎被仰付候事

一 春日丸三邦丸來ル十八日出船申渡候事

一 此節出兵ノ兵隊終日稽古之事申渡候

一 岸良彦七長崎ヨリ着イタシ平運丸船將得能佐平次問合相達候事

一 夜七ツ時分崎陽ヨリ高見彌一報知英軍艦ヨリノ新聞

英軍艦兵庫ヨリ正月十日出帆同十三日八ツ時長崎ニ着ス

一 正月八日戰爭大キニ官軍勝利

一 同九日大坂城落城江戸兵壹人モ無之都而打チラシ官軍大坂中惣カ

タメ相成尤大坂市中不殘燒失

一 同十日江戸惣引取相成右英艦長崎縣念相成態々參り候

一 大君方盡ク敗走薩摩兵士大坂ヲ半ハ燒シ

一 英商人兵庫英船へ乗組ノ義「ミニストル」ヨリ申付候

一 大君兵士河邊地名神戶ニ曳去レリ是ハ英居留地故ニ這入レリ

一 大坂奉行英蒸氣船ニ借役人其外ヲ横濱ニ載去レリ運上所ハ閉チタ

リ

一 磯英人エノ書翰持參本田エ托シ差遣ス事

一 十五日

一 太守公議定職被爲蒙仰候御祝義惣出仕

一 龜山甚助阿久根ヨリ歸リ阿久根人數モ陸行ニテ今曉出兵ニ相成届

ノ事

一 馬關ヨリ鮫島元吉夕着上國ノ様子相分候事

一 十六日未明堀直太郎去ル六日京師出發相達上國戰爭ノ次第一左右

申出候三日ヨリノ戰爭官軍大御勝利ノ御吉左右相分恐悅之至

一 五ツ半出殿早鐘ノ相圖イタシ勢揃川尻調練場工行軍ニテ調練臺場

モ同斷調練炮發拙者ニテ海軍兵士曳列出張ノ事

一 夕刻肥後ヨリ谷村小吉安田泰助歸着肥後應答松崎傳助眞釣一多左

衛門兩人ノ由

一 十七日朝森清助一左右長崎鎮臺十二日夜曳取云々之事

一 夜四ツ時有川勘介崎陽ヨリ着ミニヘル貳千百五挺沖松方ヨリ贈

越候英人ピールト云人ヨリ世話ニ相成候事立田丸上海航便ヨリ脇

元エ上陸之事

但玉藥要具皆相添

一長崎行ノ蒲生與力ノ貳小隊豊後日田工差向夫ヨリ上京ノ賦參謀谷村小吉堀直太郎五代競太被召付候事

一十八日未明豊瑞丸着船遠藤金吉着福山落城等之一左右相分候事

一四ツ時二之丸工出御用濟

一照國社工參詣九ツ過三邦丸工乘船三字前ノ濱出航

兵隊

御城下ノ小隊

與力一小隊

大炮隊御城下半座

海軍隊少々

御側役御使伊東彦助其外便舟略ス

御家老座書役東郷源左衛門被召付候事

一春日丸ニモ朝船六ツ出帆海軍軍隊相乗セ候事

一兵隊差曳奈良原幸五郎

一山川沖夜入

一十九日外ノ浦二里餘迄夜明北東ノ風

一豊後セン崎沖ニテ夜入夜一字十分佐賀關工入錨

一昨夕春日丸ニハ前ノ濱出船今日四字佐賀關工碇泊イタシ候

一廿日未明五字佐賀關出船春日丸同斷

北東風

一字二十分三田尻ニ入錨奈良原幸五郎鮫島元吉上陸申候事

二字比ヨリ雪降

一廿一朝雪積曇

一朝八字鮫島元吉樺山彦太郎舟ニ來ル御城へ面會上國ノ様子粗相分

世子公明廿二日當地<sup>山口</sup>御出發御陸行ニテ御上京ノ由

一九字三田尻出船春日丸同字出船北風

長嶋ニテ日没十字御手洗着

一廿二日曇北風

七字二十五分御手洗出船九字十分尾ノ道工入錨一字出船

<sup>(丸カ)</sup>九龜少シ迄日暮

一廿三日大晴朝六字兵庫港工入錨

同字二十分春日丸碇入

八字二十分兵庫港出船十字阿治川沖工碇泊春日丸同斷

十二字浪花着

征討大將軍仁和寺宮御本營本願寺ニ御出張萬端御指揮相成居候事

一廿四日晴

四字十五分川舟工乘船兵隊モ夕刻迄追々上伏ノ事

一廿五日未明六字二十分前伏見工着

十二字過二本松御邸工着平孫別荘工旅宿之事

一廿六日五ツ過ヨリ御花畑重富工罷出夫ヨリ出勤六字四十分退出ノ事

事

一廿七日雨足痛ニテ不參十二字武庫滞在岩下家ヨリ一封相達直ニ西

郷方工差廻候事

一廿八日晴十字二十分出殿

大政官代外國掛ヨリ只今御用有之候得共病氣ニテ今日ノ處者御留

主居附役ヲ以中出候事

一四字四十七分退出

一新納刑部伊地知壯之丞上京ノ事

一太政官代ヨリ七ツ時分只今御用有之候得共病氣ニテ御斷トシテ御

留主居附役赤井直之進被差出候處名代ニテ左之通被仰付候事

薩州

小松 帶刀

可爲徵士參與被仰出候事

正月

三條様ヨリ御渡シ

薩州

小松 帶刀

外國事務掛被仰出候事

正月

字和島侯ヨリ御達

一廿九日雨

一奈良原幸五郎今日差立候事

一參與外國掛御請申出候事

一十二字過出勤四時過御暇

一宿元狀等奈良原江相願遣候事

二月一日 雨

一未明五代有川問合浪花ヨリ相達候

一未明新納家伊地知出立ノ事

一十字過ヨリ中將公御使者トシテ太政官代二條城工御留守居内田仲

之助同伴

天氣御伺相勤非藏人松室丹波工申置同刻過歸宅

參與方今日者無之候事

小松 帶刀

於大坂表御用筋有之候故早々下坂可有之候事

二月朔日

外國事務局

右之通字和島侯ヨリ御達之由ニテ夜入七字四十分吉井幸輔方ヨリ

差廻候事

一二日曇晴

九字比ヨリ大久保工參十一字二條城太政官代工出勤

一貨幣器械ノ事

一楮幣形ノ事

一外國貨幣ノ事

一金札ノ事

斷然御止之事

年貢

一米ノ事

一新田壹条

一與力同心之事

一銅座皮座ノ事

一厚鉄舟米岡士へ談判ノ事

吉井方へ否申越事

一與力同心兵隊ノ事

一舟運上ノ事

一淀川サラへ方ノ事

小松 帶刀

總裁局顧問被仰付候事

右之通於殿中岩倉少將様ヨリ被仰付候事

一三日辰刻太政官代工臨幸ノ事

一太政官代ヨリ大坂表御用筋ニ付下坂被仰付九字出立十二字伏見着

一字三分伏見出船七字五十分浪花着伊丹七江宿ス東郷被召付候事

一四日九字裁判所工出席三字歸宿

裁判所本西町奉行所工被召立候

宇和島侯裁判所へ御出席ノ事

申渡等別冊ニ印ス

一五日雨風邪氣ニテ不参ノ事

一六日雨晴

九字裁判所工出席醍醐大納言様裁判所惣督トシテ今昼御下坂ニ付

二字過御旅館本姫路屋敷江出四字過歸宿

一備前御所置ノ事ニテ宇和島公神戸工御出相成候岩下五代ニモ被差

越候事

一夜入過ヨリ白山入來十字引取相成候事

一三邦丸今日十二字出帆末野貢右船ヨリ差返候事

一七日晴

九字役所工出席ノ處佛ミニストル兵庫工廻船云々ノ事白山ヨリ申

出直ニ歸宿

一白山へ田中中村福島召付夕刻兵庫出立ノ事

一税所長藏七ツ半頃京師へ差立候事

五字比ヨリ醍醐様江出夜入過歸宿

一夜半京師ヨリ飛脚相達御國元工申越候様左之通朝廷ヨリ御承知之

由

薩摩 少將

此度御親征被仰出候付其藩持合之軍艦壹艘御用被仰付候条諸事

總督之指揮モ請ケ勉勵可致御沙汰候事

二月六日

但二月十五日廿日迄之間兵庫港江着碇之上早速太政官代軍務局

江届出候様被仰付候事

右之通有之ニ付乾行丸早々廻艦相成候様町便ヲ以申越候事

一八日晴

一米屋平右衛門手代彌三七鴻池屋可兵衛平瀬龜之助手代猪兵衛神田

彦兵衛参り會計方ヨリ承知之趣洋銀壹条等承候事

一銅座壹件米屋長兵衛日向屋信太郎ヨリ承候吉井幸輔ヨリ一翰持参候事

一十一字出勤

一後藤氏三岡氏江御用封四字御出ノ事

一今橋一丁目平野屋五郎兵衛所工轉宅

東町奉行所見分相濟

一五字歸宅

一有川十吉今日着坂ノ事

一島津織之助江夏喜藏着坂之事

一後藤氏三岡氏工四字御用封差出候事

一九日晴曇十字裁判所工出勤夕歸宿

一大須賀謙次郎等市中取締等申渡候事

一十日雨十字出勤

醍醐様東久世様天王寺中寺町公使館西本願寺御見分ニ付十二字ヨ

リ御出御隨從夕歸宅

一備前外國壹条御所置六日ニ相濟候段兵庫ヨリ申來候事

一各國公使上坂ニ付左之通市中工相達候事

明十二日各國公使上坂之筈候条通行之節市中并川筋不法之義無之

様申觸候事

一十一日雪天十字出勤五字半歸宿

- 一 五代四字過神戸ヨリ罷歸候事
- 一 早朝三岡氏ヨリノ壹封相違候事
- 一 税所長藏下坂ニテ夜參候事
- 一 東郷源右衛門急御用向申付夕船ヨリ上京イタサセ候事
- 一 十二日晴有川七之助事先日攝州有馬郡下山口村エ差出置候處罷歸候テ八字比參り候事
- 一 各國公使上坂ニ付迎トシテ一字ヨリ八軒屋エ出張候事
- 一 前条同断ニ付市岡新田ヘハ西園寺雪江出張ノ事
- 一 川口ヨリ警衛岸和田并二本玉造口與力江騎馬ニテ申達候事
- 一 八軒屋前工日丸ノ旗相立置候事
- 一 公使館中寺町寺内ニ候事
- 一 公使館工八五代出張ノ事
- 一 英佛蘭米伊索ノ公使夕刻迫着坂相成候事
- 一 各國公使館江見舞トシテ差越候事
- 一 曳取掛久世公江罷出候事
- 一 一夜入十字歸宿
- 一 十三日雨
- 一 久世宇和公各國公使館ヘ御見舞相成候事
- 一 三条公岩倉公エ兩公ヨリノ御書拙ヨリ木戸後藤ヘ御用封差出ス
- 一 三橋樓ヘ兩公モ御出拂ミニストル四字過ヨリ參り夜入八字過曳取候
- 一 急御用向ニ付後藤木戸ヘ壹封丸屋ヨリ差出候事宇和公ヨリ極御急キノ御用被仰付候事
- 一 十字歸宿ノ事
- 一 今早朝三岡下坂ニ相成候事
- 一 十四日晴
- 一 九字過出勤
- 一 十二字過ヨリ西本願寺エ各國公使應接トシテ出張五字過歸宿
- 一 各國公使上京ノ義三条公ヨリ御達ノ趣木戸後藤ヨリノ壹封夕八字ニ相違候事
- 一 白山エ日本マンシウルゼ子ラルノ命今日十一字ニ役所ニテ久世宇和公ヨリ御達ニ相成候事
- 一 一夜十字東郷下坂相成云々之事
- 一 十五日晴
- 一 九字出勤
- 一 一來ル十八日大坂出立ニテ各國公使上京ノ義今日相違候事
- 一 六字ヨリ佛公使館工醍醐様久世公宇和公御出ノ義先日ヨリ御願違相成御同様差越候事一字過裁判所エ出勤
- 一 泉州堺ニテ佛人ヘ土州兵隊ヨリ及炮發候云々ノ事
- 一 未明暫時歸宿
- 一 十六日七字比ヨリ出勤
- 一 京師工昨日ヨリノ形行申越候事
- 一 久世公宇和公佛公使工御出ニ候得共御達御断申上書面差出候事
- 一 久世公塚エ二字過ヨリ御出ノ事五代中井御供ノ事
- 一 一夜入四ツ過久世公御歸リニ相成候事
- 一 死鉢七人相分候事
- 一 十七日曇西風
- 一 未明五字ヨリ久世公宇和島公佛公使船ベニスエ御出ニ相成候小生ニモ御同様五代モ差越候
- 一 佛人死鉢今日本船工差送候事



二月十九日十一字三十分

外國ニ對シテモ不都合ニ候

御門政府ニ對シテモ不忠ノ至佛ニ對シテモ此上モ無不禮ノ事此節ノ事ハ佛一國ニ限ラス外國人ト云所ニ候得者時分一人ニ申上候事

ニモ不致前以各國江申談候而申上候全体御門政府ニ對シ佛ニ對シ余程ノ恥ヲアタヘ外國人江對シ不布命之義三ヶ条ニ相當事ニテ此

節柄御門政府ニ敵對致シ候前前ニ心得候若此上不都合ノ義有之候而者外國交際モ夫限ノ事ニテ戰爭ニモ相成候半以後ノ御所置第一

ノ事ト存候此義能リ貴君ハ御分相成候カ

京師ノ御役人モ不殘此趣意能ク貫通イタシ候様

一御所置之義ハ其節號令ヲ下シ候隊長兩人發炮ノ人數塚表ニオイテ

御所置外國人十官兵卒モ差出候

右下死人所置相濟候上此方手負等之人數ノ妻子其外養ノ爲ニ償ヒ

金十五萬トル土州ヨリ差出候様

外國人ニ對シ以來ノ御所置ノ處モ有之安心モ出來不申一統相示候道筋相立不申候間外國事務第一等ノ御方ベニースエ御出御挨拶相

成候得者宜敷

土佐公モ一緒ニ御出ニ相成度候

御答

土佐在國中ニ有之候又左様ナラハ土佐ノ城下近キ處ニ參リ土佐公

御出ニ相成度事

右ノ事件モ各國公使申談此御所置各國江申談相當ノ事ト存此上者少シモ減少モ無之候間早々御所置有之度候

一土佐ノ方ニ役人壹人ベニース船ヨリ兩三人先ニ土佐エ差越候方都

合可宜ト相考候

右ノ御所置相濟候而日本國中ノ所モ則戰等モ相止鎮靜相成候得者御門政府ニ對シ十分御爲ニ相成候様盡力仕度候

一堺御所置之義第一速ニ御取窮相付外モ皆々夫ヨリ追々速ニ御所置有之度

一兵庫ノ土佐船差留方伊藤俊介エ申置候得共土州堺出張ノ人數滞坂ノ上者右船差留ニ不及候半其後此方ヨリ通シ候様願トノ事

一長谷様ノ事ハ余程御念入候事

兵庫ヘ御出ノ事

一堺御所置ノ節者役人ハ勿論土佐家老不殘出席ノ事

一開港場等外國人參候處ニ者土州ノ兵卒先當分ノ内御差留相成候事

談判濟

一船將工御挨拶

左之通宇和島公ベニース船ニオイテ佛公使ニ御應接ノ始末大略

一ベニース上州航ニ付水先ノ事

一英船エドウエンチャ、カヒタンヒツクレ 公使乗船

一川蒸氣ノ事 レワスチマ

一厚鐵船 スチームダンス

一アヤンクラード

一セツクレタレイ

公使ノ下役

一新文紙ノ事 ニウスベイハ

安田ヨリ承候事件ノ名前清水敬吉ノ手代河内屋兵助

一ウユニス

コンマンタント、ロワ

一 コンマンタント

一 デュプレツキス船將デュペテイトワール

一 佛公使

一 蘭セクレスリー

一 ケレンチス

三月三日才御仮立談判ノコト

一 國內布告狀六日晝迄ニ神戸江差遣ス事

一 神戸居留地ノ事

一 神戸へ兵卒遣ス事

一 公使代等曳合人役人ノ事

一 岡士曳合人ノ事

一 長崎ニテ兩人殺シノ事

一 公使館見物ノ事

一 二千五百トル位

一 議事堂ノ事

五代ヨリ承ルケ条

一 洋行諸生壹条

一 大坂邸中ニテ焼失ホートエンへ八月中二万トル十月中二萬トル後

一 四萬兩余當年中政府ヨリ拂方壹条

一 佛へ注文ノ小銃一条

一 修舟場壹条長崎曳合ノ事

一 金地金一ヶ月千挺ツ、ハ御用へクトノ事

一 永見寛二請合ノ事

但百目ニ付天吉百九十九兩外一兩下リアリ

一 帆前舟分捕有之哉ニ付拝借云々ノ事奈良原ヨリ承ル

一 コムトデモントベルロー

一 佛第一セクレタリー

一 ルセツト

一 第二等セクレタリー

一 各國使節云々ノ事

一 丁抹ノールヘーケン條約全權云々ノ事

一 銀主へ被下モノ、事

一 江戸へ米送ル事

一 御跡ヨリ續ケ金ノ事

一 醫師兩人程江戸へ列越ノ事

一 春日丸一条小野へ申入ル、事

一 大砲隊欠後大坂ニアル内ヨリ見合ノ事

一 江戸御本營ノ事

奥羽報知

一 佐竹領分大館へ澤郷三小隊滞陣秋田領能代へ當分御出張ノ由

一 五月廿一日大館出立箱館ヨリプロイセン使舟横濱へ十日着

一 樺山仲左衛門米澤天童南方津輕秋田庄内九條卿醍醐仙臺へ囚同

一 様ノ様子

一 越後口戦争ノ覺

一 鯨浪戦争 壬四月廿八日初リ柏崎卅日方

一 推屋戦八日方

一 小出島 壬四月廿九日

會領五月三日片貝攻

長岡落城五月十九日朝杉澤村戰廿三日

仁禮武兵衛ヨリ承ル

新潟へハ米澤柴田ノ兵滯陣ノ由

一十三日三字出船富士山三邦丸長飛順丸薩三小隊佐土原一小隊大村

一小隊先鋒奥州平潟上陸ノ由

白川ヨリ二十里斗因備ノ兵下利根川へ相待居候

正親町様惣督トシテ船歸リノ上御出ノ由

一英國ミニストルヨリ金銀銅鐵山床ノ數

朝廷御年貢高ノ員

右相分候ハ、承度トノ事取調否可申答候

佛ピツケー方残り鐵炮

元込銃 九拾七櫃 貳拾四挺入

小銃 四十櫃

加列印 貳拾三櫃

ムスケットン四櫃

同騎兵之持 六櫃

元込銃 九拾七櫃 貳拾四挺入

元込銃 九拾櫃 貳拾挺入

元込銃 四拾七櫃 貳拾四挺入

小銃 三十九櫃 貳拾挺入

加列印 五十五櫃 同断

ムスケットン十七櫃 同断

騎兵之持同 四櫃 同断

兵裝具 貳百七十三櫃

未着港

但同器什

千八百六十八年第七月迄皆納返濟ノ賦リニ川勝近江守成嶋大隅守

ヨリ談判相成居候

拂方

當六月中三万弗同七月ヨリ月々壹萬弗ツ、相拂候約定ニ決シ候事

長崎泡浦入用金舊政府ニテ和蘭商社江借請ノ残高拾參萬五千弗有

之候處此節新ニ約束ヲ改メ

我六月中 壹萬弗

七月中 同

八月中 同

九月中 同

十月中 同

十一月中 二万弗

十二月中 同

來巳年

正月中 同

二月中 同

相拂可申候尤右ハ大坂ヨリ横濱エ參リ候金ヲ以相拂可申候ニ付其

月ノ拂日ハ難定候仍證書如件

慶應四年 辰六月

神奈川裁判所

小松 帶刀

和蘭岡士

ハンデルダック君

一富士山ノ事

ル有川ノ事

大印へ談スル事

一箱館工清水谷其外被遣候形行各國公使へ知官事ヨリ書翰差遣ス事

一イスパニア條約一条

御委任書之事急便ヲ以太政官ニ申遣ス事

一ミ子ルブ船名

コンマンナント

シヤイエ

アトミラル名

一ベノハット

ベリキヨス船名

辰六月廿二日英國公使方ニテ聞ヘシ新聞

一大坂ニテアメリカ海軍士官ヤトヒシト云説

燈明臺

一長崎硫黃島

一佐多ノ岬

一紀州大嶋二ヶ所

一伊豆岬小島ミコモト

一相模岬

一觀音岬

右三ヶ所佛

一箱館港燈明臺

一横濱港燈明臺

一繪ノ嶋

燈明臺七ヶ所

高臺貳ヶ所

インケンニール三人

機械取調所廣所一ヶ所

インケンニール役人旅宿

西洋昨年六月十三日サウスヘムトニ出帆ノ日ヨリ勘定ス

上等一ヶ月給金 四百五十トル

下等 百五十トル

パンドステルゾンク 千五百十八枚

旧幕府ヨリ右ノ數相拂相成居候由

英兵卒屯集所修甫ノ事掛ノ役人明日申遣ス事

一佐野藩西村左内建白スル由

一イスパニヤ新條約ノ事

一大坂表へ明日方蒸汽船出帆ノ由

六月廿三日

一蘭岡士ハンレルタツク并カラタマ兩人へ裁判所ニテ曳合ノ事

舊幕ニテ雇ヒ置シ折舍蜜方「カラタマ」舍蜜所取立場所ノ義大

坂ニテ可然ト言置候入拂等ノ義ハホトトキエン方ニテ承知ノヨシ

道具毛澤山付添ヒシナリ今日ヨリ三十日ノ内ニ場所取究大坂ヨリ

返答ニ可及段申入候事

分折道具江戸開成所へ一同請取相成居候事

一明後廿五日夕七字半ニハンレルタツク方へ寺島中井同道参リ呉ト

ノ事ニ候差支アレハ明廿四中斷申入候事

一英兵卒屯集所修甫見分トシテ土曜日第十字二十七日

横濱第十一番バンクエ差入候證書寫

證書

金子借用之事

金貳萬弗利年中壹歩貳厘之割

右者此度字漏生人ヨリ箱館裁判所爲入用船買入候ニ付右金員數不足ニ付致借用度候返濟之義ハ箱館産物昆布又ハ石炭ヲ以我九月中限無相違差出シ可申候仍而後日證文如件

慶應四辰年六月廿二日

箱館裁判所判事

井上 石見

神奈川同判事

井關齊右衛門

右英十一番バンクヨリ箱館用トシテ借用相成候事

一英五十九番

ハク療治金入方少々出來候由

大坂遊歩場大和川船橋村南境

キヨウ興寺村佐田境

大坂開港條約ノ内遊歩場右之通ニ有之

加州藩佐野鼎外國エモ参り候人ニ而燈明臺へ役人等被仰付可然歟

英公使咄

六月廿八日朝有川ヨリ承ル平瀧壹条道ニ印ス

十四日品海出帆十六日七字五分ニ平瀧ニ着ス直ニ兵隊上陸少々戰

爭十七日ニモ戰ニテ富士艦ヨリモ發炮小名濱迄参り平瀧へ歸ル廿

四日添田戰八幡山乗取ノ事大戰ノ由

燒失植田添野大島小名濱石炭小屋道少々富士山三邦丸廿五日平瀧

出帆廿七日横濱着船ナリ

佐倉

佐藤 春海

一水野若狹松浦武三郎ノ事

一江戸開市期限ノ事

一金札一条

一十里四方管轄ノ事

一市政裁判所へ外國掛役人御用之節ハ出勤被仰付候事

一會計局エ外國掛ノ役人掛被仰付候事

一横須賀ニテ天保吹立ノ事品海臺場大炮之事

一米里堅海軍教師ノ事

一英海軍士官ノ事

一佛陸軍教師ノ事

一貳千五百俵ノ内五百俵箱館へ遣シ候事大村氏へ談置ヘキ事

一六月廿四日棚倉落城

一廿五日比三嶋ヨリ七里計東ノ方伊豆ノ内アシロト云邊へ賊兵千人

計参り候トノ説有之乗組舟翻龍丸ニテアルトノ事

秋月藩 坂田 潔

岩村 虎雄

兩人ノ咄

横濱江戸行日簿

一六月一日晴朝四字大坂ヲ發シ九字三十五分神戸着川口ヨリ蒸氣船

鐵ヤ旅宿

米艦へ行

一二日晴 滞在

朝佛軍艦リプレクスへ見舞ニ行

伊東へ見舞

一三日晴十一字半ヨリ伊東中井山口同道リブレッキスへ行ニ字歸ル

六字飛脚船コスタリカ着港

夕七字過コスタリカへ乗艦

一四日晴十一字過出船海上静也

一五日晴海上静也六字横濱着直ニ寺嶋氏へ参リ十字旅宿へ着也

一長工出兵被差出度事

一肥後工谷村被差出事

一蒲生一小隊與力一小隊國分大砲半座

惣差曳益滿新之丞監軍澁谷彦助外言人者長崎ニテ被仰付事

一宮之城御上京壹条

一永吉上京壹条

一英船借用ノ事

一海軍所壹条

一長州御使者副使児玉五郎兵衛使者中谷茂十郎江御品被下ノ事

一日州細島方工誰ソ差出ノ事

一春日丸乾行丸船將ノ事

一西目惣督人數曳列被差出事

一御軍艦ヨリ人數被差出事

一郷原内紀三邦丸江被召乗事

一日高仁左衛門外ヨリ申出ノ事

一長崎六十斤砲御取寄ノ事

但右ノ臺製ノ事

一本田彌右衛門ノ事

一久木田喜平次之事

脇船頭被下方同役同前蒸氣機關方勤代ニ與力代々海軍所付

黒岩ノ事

一加世田新左衛門ノ事

土佐御使者遠藤陸助前野悦次郎十二月廿九日着正月八日出立ノ事

一上方ノ左右奥工申上事

大脇正之丞壹条

伊集院徳四郎ノ事

永谷次郎太ノ事

岩元六右衛門ノ事

長崎奉行河内伊豆守

一中路權右衛門ノ事

一兵庫工金ツ、ケノ事

一鳥丸卿鎮撫ノ節大和郡山紀州銀差出相成金云々ノ事

一兵庫碇泊ノ軍艦

十二封貳挺本込

十八封一挺口込

筋入代金五千トル

外ニ

十二封九 一挺

新銅庫入替船底銅板張替六ヶ月前凡打建十年

一英船軍船長崎ニ在ル船名ユークン子ル

春日丸片航

大砲四挺

内一挺四十封口込

一 挺六十封口込  
二 挺二十四封本込

馬力六十疋

スクルーフニツ

船進日本十里ヨリ十一里之方

打立ヨリ六ヶ月

拾壹万五千トル日本金八萬六千二百五十兩

一 アメリカ軍艦加賀守ヲルスコンベニ

大炮六挺位

代金十萬トル

外ニ壹艘本英米旗當分

百五十封壹挺

外ニアルムストロンク杯乗セ付

十二萬五千トル

古船ニテ不宜

外ニ貳艘 米

八十封壹挺

四十封ヨリ三十封込六挺乗セ付

當分横濱ニアル

内壹艘十萬トル

同 十二萬五千トル

一分捕金取替上セ方ノ事

木場ヨリ承候事

一同米ノ事

一 橋口甚四郎ノ事

一 岩下清之丞ノ事

一 白山壹条

一 兵隊夜具等ノ事

一 乾行丸出來次第早々攝海工廻艦ノ事

一 長沼只雄

一 内海壹条大坂屋貞次郎工申付事

一 大和銅山ノ事

一 兵庫石炭方ノ事

一 與力大須賀八田三人ノ事

一 同心渡邊織之助

惣年寄名前

比田 小傳次

今井與三左衛門

安井 九兵衛

中村左近右衛門

吉井三郎兵衛

永瀬 幾代介

江川庄左衛門

永瀬七郎左衛門

伊勢村 新之丞

川崎次左衛門

金谷 實太郎

安井 幹介

井吉 資三郎

伊勢村 鍔太郎

讃州高松家老

中村 左源太  
江川 勝太郎

芦澤 伊織

參政 彦坂 小四郎

堺惣年寄名前

住吉屋 真太郎

金 田治左衛門

一 外國公使御扣ニ付而者佛國ミニストル横濱ニ在ル故日數十日位前  
二 來ル何日御逢ノ事達ニ相成事

左之条者日本文言ヲ以外國掛書記役ヨリミニストル江向布告ノ事  
何月何日何時相認候事第一

一 ポリス市中取締人ノ事

一 鈴木町手代杉浦武助

一 大坂中三ヶ所斗ニ上書箱取立云々ノ事

一 町會所拾丁ニ一ヶ所ツ、ニ被召立度事

一 賣方利方一割三分極上ノ處ノ事

一 醍醐様御迎ニ出候入用トシテ百兩余金ヲ市中ニ申付候事

惣年寄今井頭取ノ由

一 各國公使上陸船ノ事

一 公使上陸船柴屋十兵衛へ申付置候事

但町屋形船

一 本町心齋橋通角淨照坊ノ事

一 攝州有馬郡下山口村庄屋長次郎壹条

有川七之助差遣候義請持大名エ曳渡方ノ事本田安領之内

一 十六日十字ヨリ米里堅公使館エ參候事

一 佛軍艦ベニース名号

一 コンマン「ロワ」

一 「ベッキトアー」名

「デエフレツキス船將



既刊史料名

三十四年	第一集	薩藩政要録
三十五年	第二集	丁丑日誌(下)
三十六年	〃	(上)
三十七年	第三集	薩摩国新田神社文書
三十八年	第四集	一向宗禁制関係史料
三十九年	第五集	薩摩国山田文書
四十年	第六集	諸家大概・職掌紀原
四十一年	第七集	薩摩国阿多郡史料・山田聖栄日記
四十二年	第八集	御登道中日帳御下向・列朝制度
四十三年	第九集	明治元年戊辰戦役関係史料
四十四年	第一〇集	伊能忠敬の鹿兒島測量関係資料並解説
四十五年	第一一集	管窺愚考・雲遊雜記伝
四十六年	第一二集	川上忠塞一流家譜
四十七年	第一三集	本藩人物誌
四十八年	第一四集	薩陽過去帳
四十九年	第一五集	備忘抄・実久公御養子御願一件
五十年	第一六集	鹿兒島県地誌上
五十一年	第一七集	鹿兒島県地誌下
五十二年	第一八集	薩藩舊士文章
五十三年	第一九集	薩藩先公貴翰 乾
五十四年	第二〇集	薩藩先公貴翰 坤
五十五年	第二一集	小松帯刀傳・履歴・記事
五十六年	第二二集	小松帯刀日記

鹿兒島県史料刊行委員会

五十音順

川越政則	南日本新聞社
芳即正	前鹿兒島県立短期大学
北川鉄三	鹿兒島大学名誉教授
桐野利彦	鹿兒島女子短期大学
桑波田興	鹿兒島大学教育学部
五味克夫	鹿兒島大学法文学部
小西四郎	元東京大学
犀川碓吉	前甲南高等学校
竹内理三	元東京大学
原口虎雄	鹿兒島大学名誉教授
福満武雄	鹿兒島新報社
宮下満郎	鹿兒島県維新史料編さん所
村野守次	鹿兒島女子短期大学
桃園恵真	鹿兒島大学名誉教授

小松帯刀日記

昭和五十六年十月

鹿児島市城山町五の一  
発行 鹿児島県立図書館内

鹿児島県史料刊行会

印刷 鹿児島市山下町四一八  
鹿児島県教員互助会印刷部

